

# 島根県少子化に関する意識調査

## 調査結果報告書

平成16年3月

島 根 県

財団法人ふるさと島根定住財団



< 調査結果を見る上での注意事項 >

- ( 1 ) 比率については、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率計が 100% とならない場合がある。
- ( 2 ) グラフ中の N は「number of cases」の略であり、その項目の有効回答者数をあらわし、比率算出の基数となる。
- ( 3 ) 複数回答可としている項目については、原則として、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数とし、比率算出を行っているため、比率計は 100% を越える。

- 目 次 -

・調査の概要	1
1．調査の目的	1
2．調査内容	1
3．調査設計	1
4．回収結果	1
5．回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 婚姻状況	2
(4) 世帯構造	3
(5) 就労状況	4
(6) 年間収入	6
(7) 子ども数	7
・調査結果の概要	8
1．子育てに対する意識	8
(1) 理想の子ども数と現実に予定している子ども数	8
(2) 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由	14
(3) 子どもを生み育てる意味	17
(4) 子育てを楽しんでいるか	19
(5) 家庭で子育てに誰が携わるのがよいか	21
(6) 3歳くらいまでは、 家庭で子育てに誰が携わるのがよいか	22
(7) 3歳くらいまでは、 昼間の子育ての場所はどこが適しているか	23
2．少子化に対する意識	24
(1) 出生率の低下に対する認識	24
(2) 少子化に対する行政の取り組み	25
(3) 少子化の影響について	26
(4) 出生率低下の原因について	27

3 . 結婚に対する意識 .....	29
( 1 ) 晩婚化、未婚化の理由 .....	29
( 2 ) 結婚しないで子どもを持つことについて .....	30
( 3 ) 結婚に対する考え方について .....	32
( 4 ) 独身でいる理由 .....	35
4 . 子育てに対する不安、父親の育児参加 .....	37
( 1 ) 子育てに対する不安 .....	37
( 2 ) 子育てに関する不安や悩みの相談先 .....	44
( 3 ) 幼い子どもを連れて外出する 際の不安や困ること .....	47
( 4 ) 父親の育児参加について .....	48
( 5 ) 子育てに関わらない理由 .....	51
5 . 女性の子育てと仕事 .....	52
( 1 ) 女性の就業のあり方 .....	52
( 2 ) 結婚、出産と仕事について .....	53
( 3 ) 育児休業について .....	56
6 . 子育てに関する環境の整備 .....	59
( 1 ) 職場における環境整備への要望 .....	59
( 2 ) 子育て支援ボランティア活動への参加意志 .....	60
( 3 ) 行政に期待する施策 .....	62
( 4 ) 費用の負担について .....	64
. まとめ .....	65
. 自由意見 .....	68

## 資 料

単純集計結果一覧

調 査 票

## ．調査の概要

### 1．調査の目的

島根県では、依然として少子化が進んでいることから、少子化対策推進の基礎資料とすることを目的として、平成 11 年度において「島根県少子化に関する意識調査」を実施した。

本業務は、この前回調査（平成 11 年度）からの意識の変化を把握し、平成 15 年度に成立した「次世代育成支援対策推進法」に基づく本県の「行動計画」策定の基礎資料とすることを目的として実施したものである。

### 2．調査内容

- ( 1 ) 子育てに対する意識：理想及び予定の子ども数、子育ての意味等
- ( 2 ) 少子化に対する意識：出生率の低下に対する意識、少子化の影響等
- ( 3 ) 結婚に対する意識：晩婚化及び未婚化の理由、結婚に対する考え方等
- ( 4 ) 子育てに対する不安等：子育てに対する不安や悩み、父親の育児参加等
- ( 5 ) 女性の子育てと仕事：結婚、出産と仕事、育児休業等
- ( 6 ) 子育てに関する環境の整備：職場における環境整備への要望、行政に期待する施策等

### 3．調査設計

- ( 1 ) 調査地域 島根県全域
- ( 2 ) 調査対象 県内に在住する 18 歳以上 50 歳未満の男女
- ( 3 ) サンプル数 3,000 人
- ( 4 ) 抽出方法 各市町村の住民基本台帳より無作為抽出（平成 16 年 3 月 1 日現在）
- ( 5 ) 調査方法 郵送による配布・回収
- ( 6 ) 調査時期 平成 16 年 3 月
- ( 7 ) 調査機関 島根県、財団法人ふるさと島根定住財団

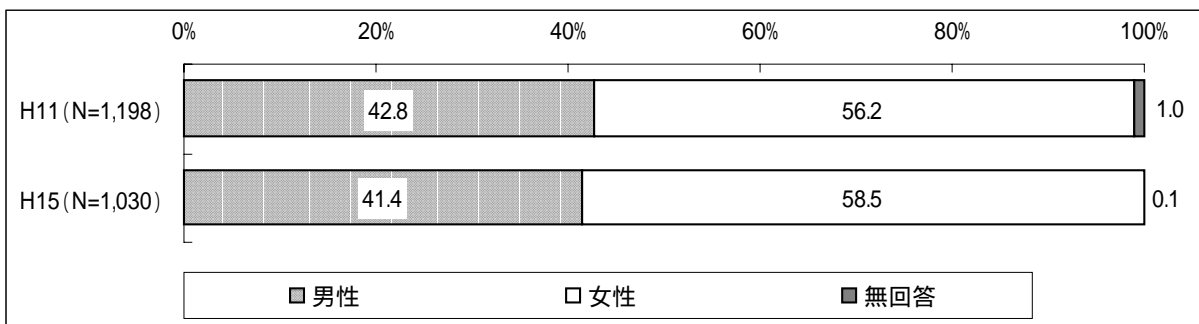
### 4．回収結果

年度	サンプル数	回収数（率）	有効回答数（率）	無効数（率）
H 1 1	3,000	1,201(40.0%)	1,198 ( 39.9%)	3(0.1%)
H 1 5	3,000	1,032(34.4%)	1,030 ( 34.3%)	2(0.1%)

## 5. 回答者の属性

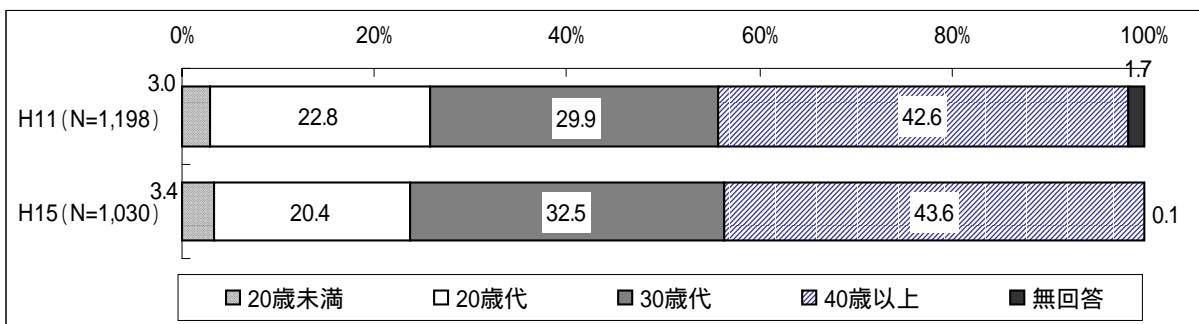
### (1) 性別

回答者の性別は、H11 調査、H15 調査ともに女性がおよそ6割を占めている。



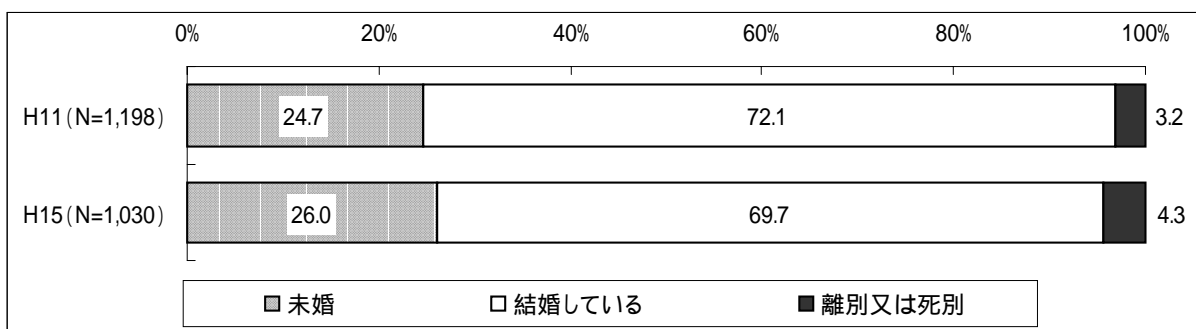
### (2) 年齢

年齢構成は、H11 調査、H15 調査ともに20歳代が約2割、30歳代が約3割、40歳代が約4割であり、この3つの世代で全体の9割以上を占める。



### (3) 婚姻状況

H11 調査、H15 調査ともに回答者のうち、およそ7割が既婚者である。若干ではあるが、H15 調査では未婚者が増加している。



H11 調査と比較すると、男性は、全体的に未婚者の割合が増加している。女性は、20 歳代で既婚者の割合が増加している一方、30 歳代で未婚者の割合が増加している。

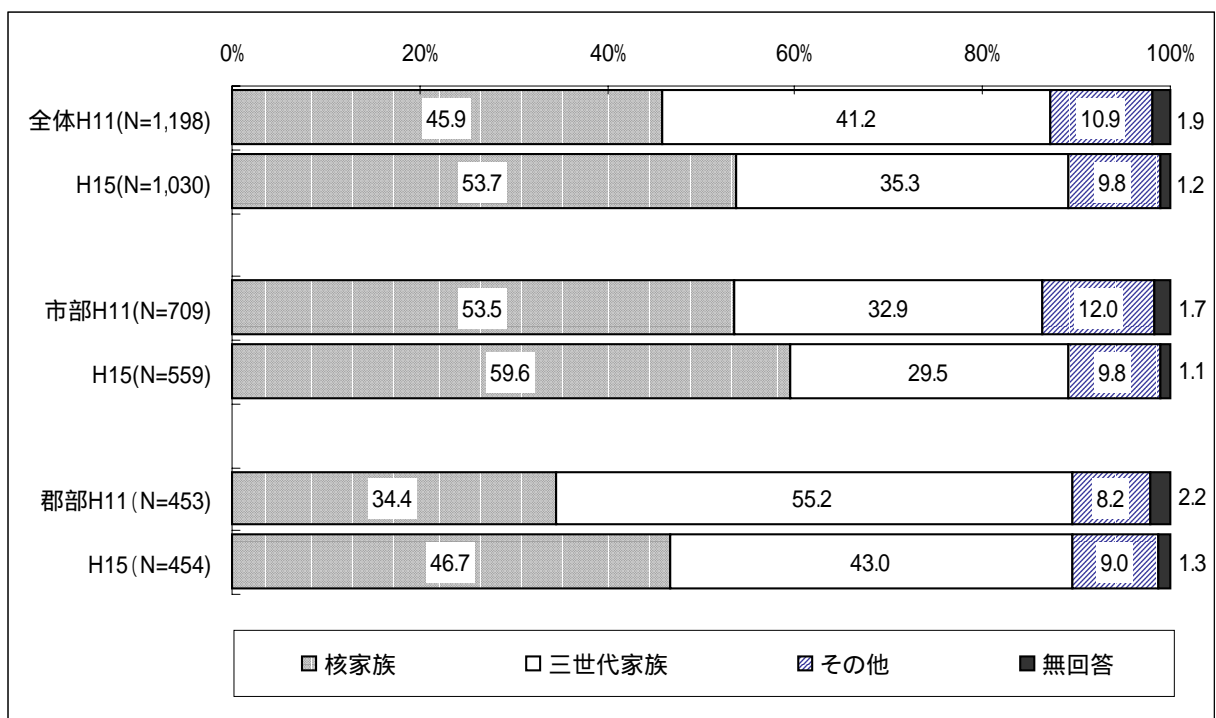
区分	未婚者の割合 (%)				既婚者の割合 (%)				離別・死別の割合 (%)			
	男性		女性		男性		女性		男性		女性	
調査時期	H11	H15	H11	H15	H11	H15	H11	H15	H11	H15	H11	H15
全体	24.6	30.5	24.8	22.9	73.3	67.8	71.2	71.0	2.1	1.6	4.0	6.1
20歳未満	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	62.9	70.2	68.5	57.9	37.1	28.6	30.4	39.7	0.0	1.2	1.2	2.4
30歳代	22.7	27.9	8.3	17.5	74.5	71.3	88.0	74.8	2.8	0.8	3.7	7.8
40歳以上	5.2	10.1	4.6	3.6	91.9	87.4	88.9	89.2	2.8	2.5	6.5	7.2

H11 と H15 の差が 5.0% 以上のもので多い方を網掛け。

#### (4) 世帯構造

世帯構造は、全体的に「核家族」が半数以上を占める。特に、市部では「核家族」がおよそ 6 割を占める。

H11 調査との比較では、全体では「核家族」が 45.9% から 53.7% と、およそ 8 ポイント増加している。特に、郡部での増加が顕著であり、34.4% から 46.7% へと 10 ポイント以上増加している。



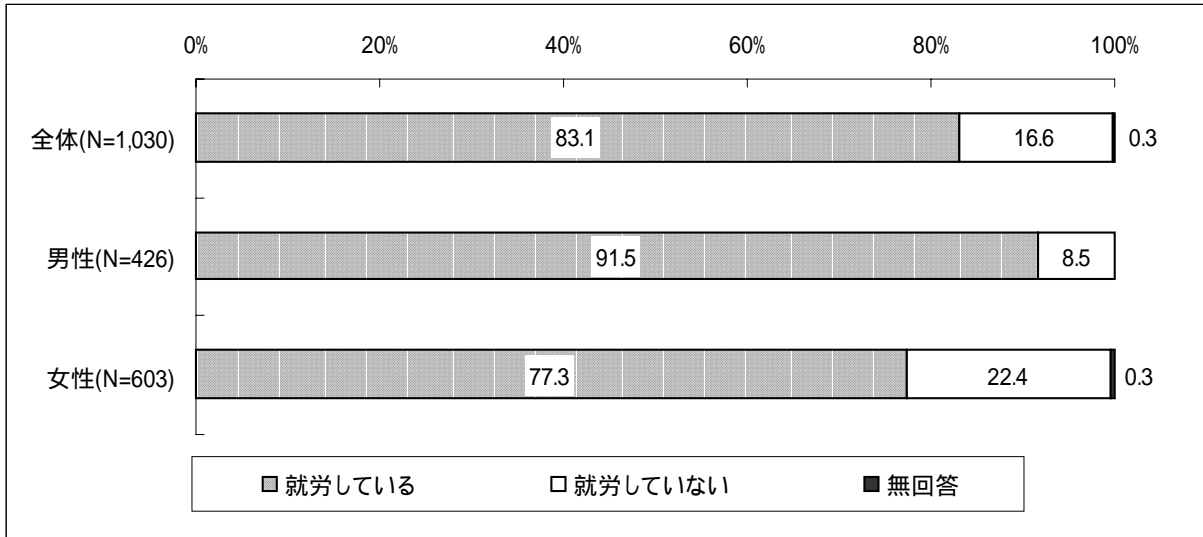
核 家 族：夫婦のみの世帯、夫婦と子どもからなる世帯、男親または女親と子どもからなる世帯。  
 三世代家族：本人と配偶者または、そのどちらかと子どもと親（片親含む）の世帯及びこの形態に親族と家族以外が同居している世帯。  
 そ の 他：上記以外の世帯（単独世帯その他）



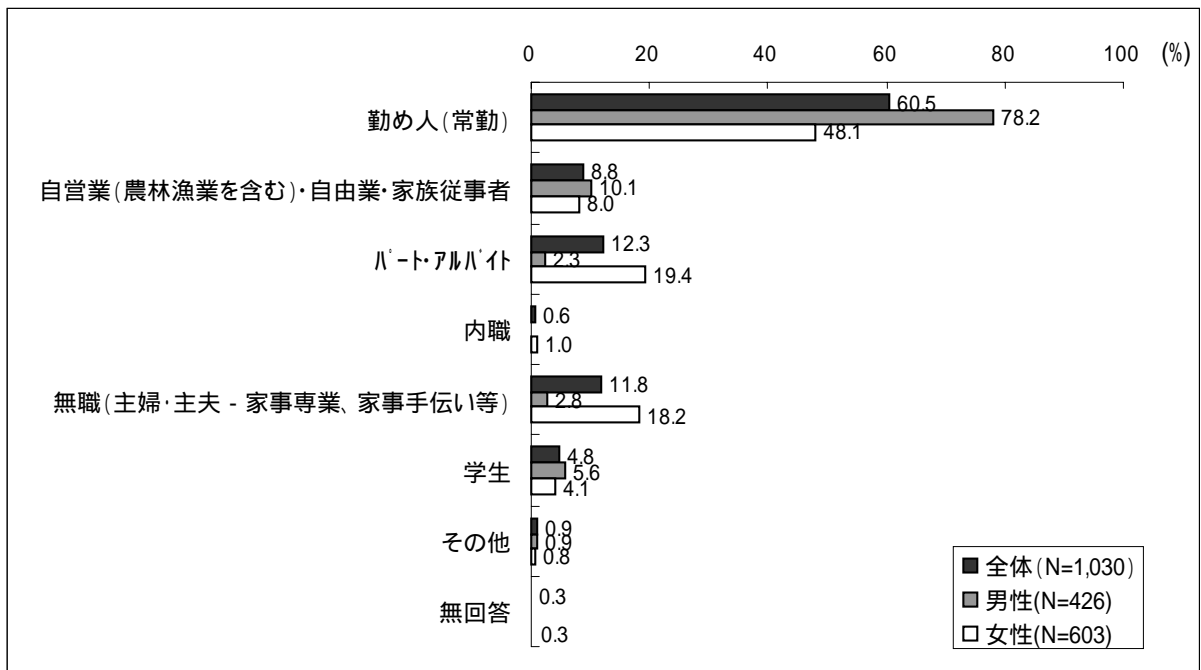
(5) 就労状況

男性の91.5%が就労しているのに対し、女性は77.3%である。また、男性は78.2%が常勤の職についているのに対し、女性は48.1%が常勤、19.4%がパート・アルバイトという状況である。

性別にみた就労の有無

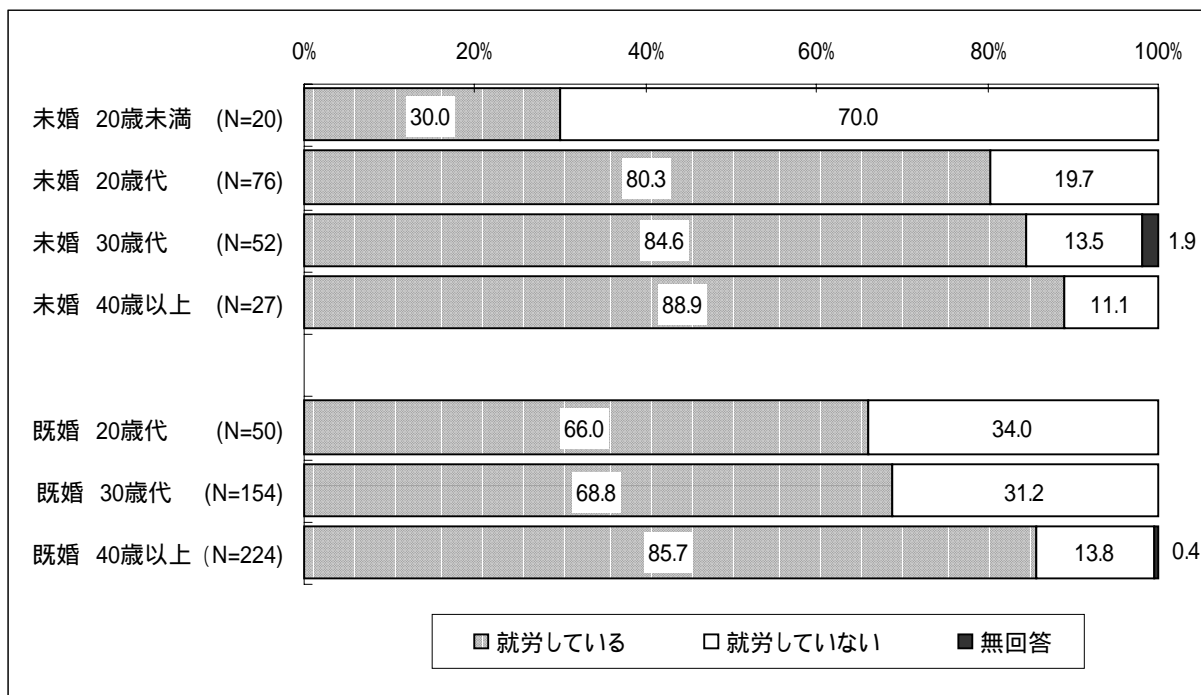


性別にみた職種



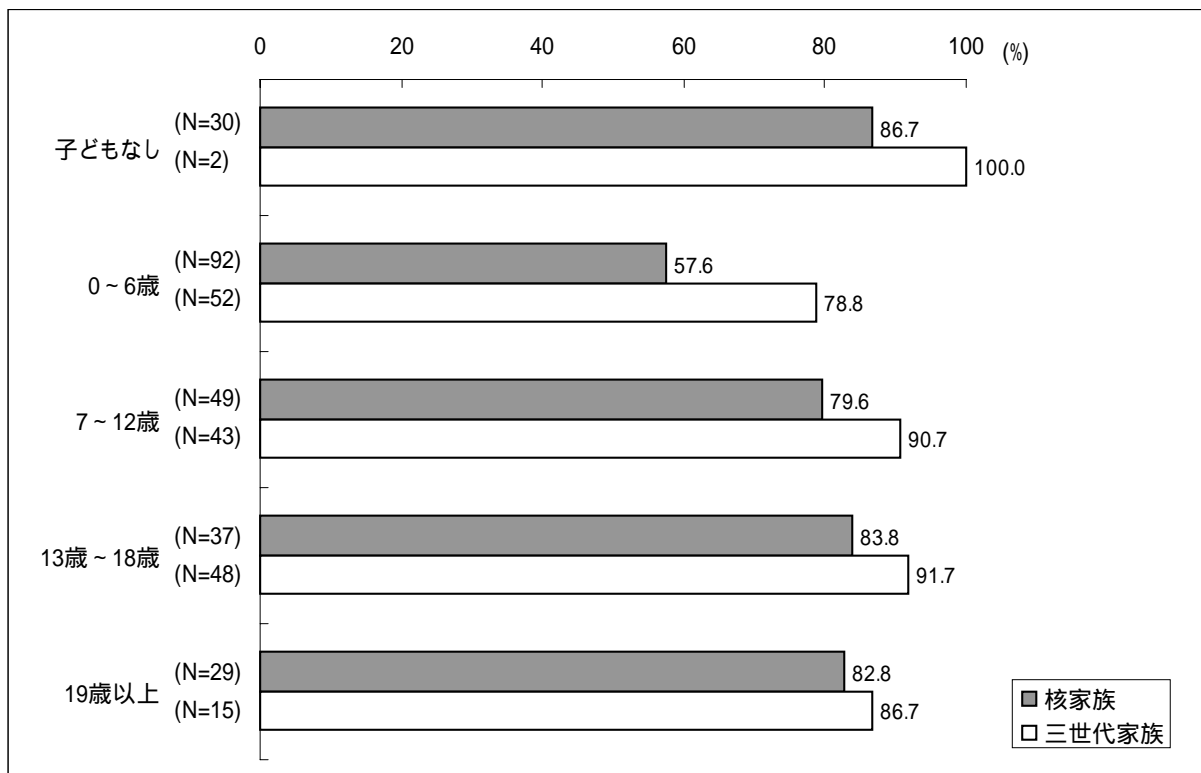
女性の就労状況を婚姻状況および年齢で見ると、未婚女性の就労率が概して高い。また、未婚、既婚女性ともに、就労率は年齢の上昇に伴い高くなる。

婚姻関係別、年齢別にみた女性の就労状況



既婚女性の就労率を世帯構造および末子年齢別にみると、全体的に、「核家族」よりも「三世代家族」は就労率が高い。

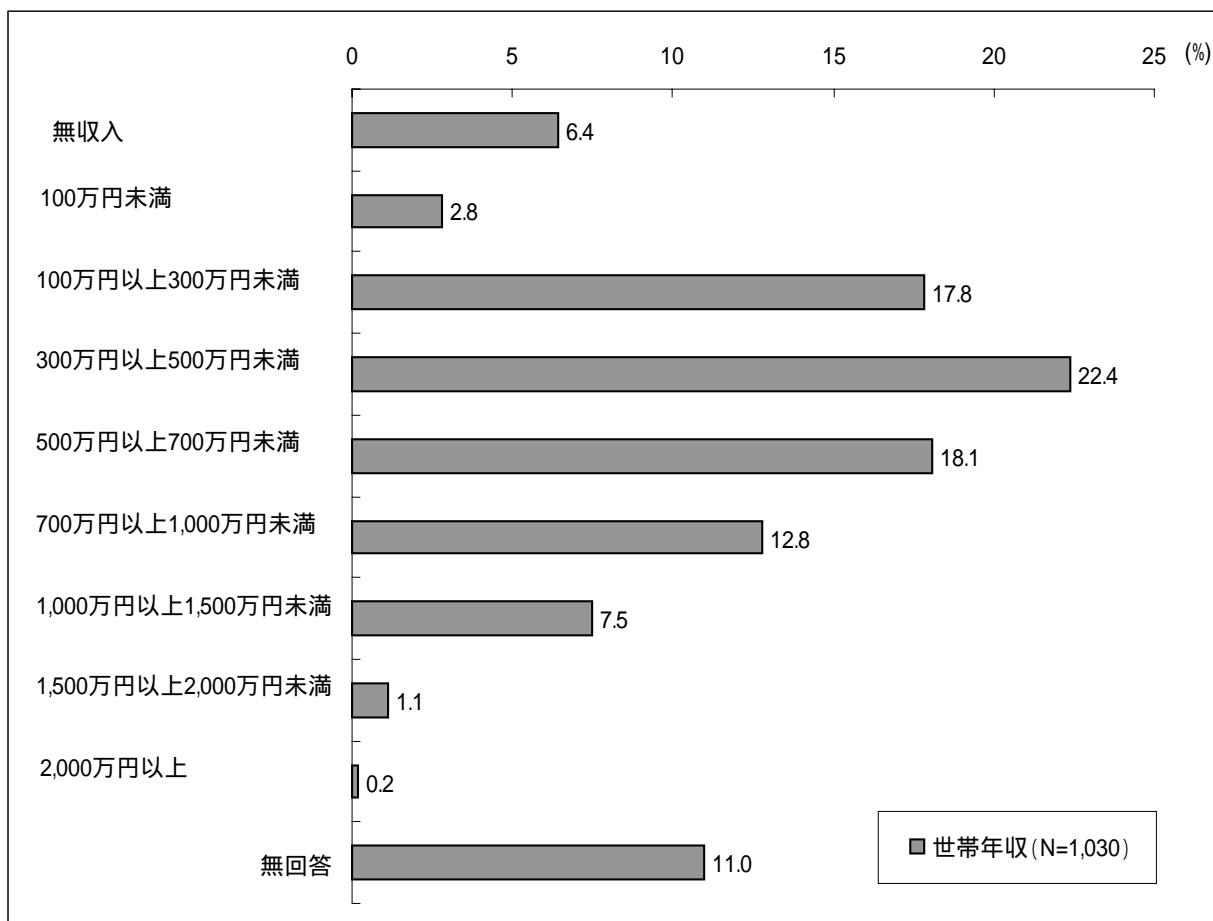
世帯構造別、末子年齢層別にみた既婚女性の就労率



### (6) 年間収入

世帯あたりの年間収入は「300万円以上500万円未満」が22.4%で最も多く、次いで「500万円以上700万円未満」が18.1%、「100万円以上300万円未満」が17.8%である。

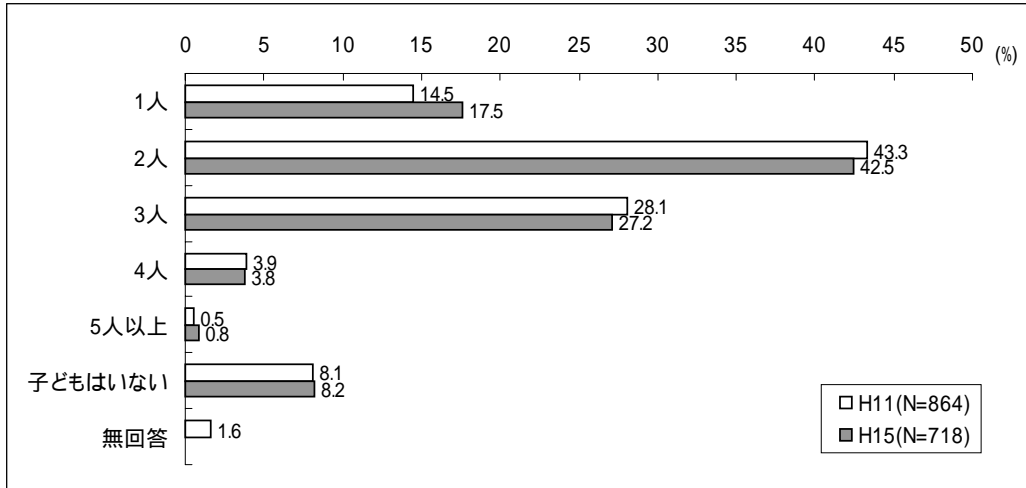
昨年1年間の世帯の年間収入



(7) 子ども数

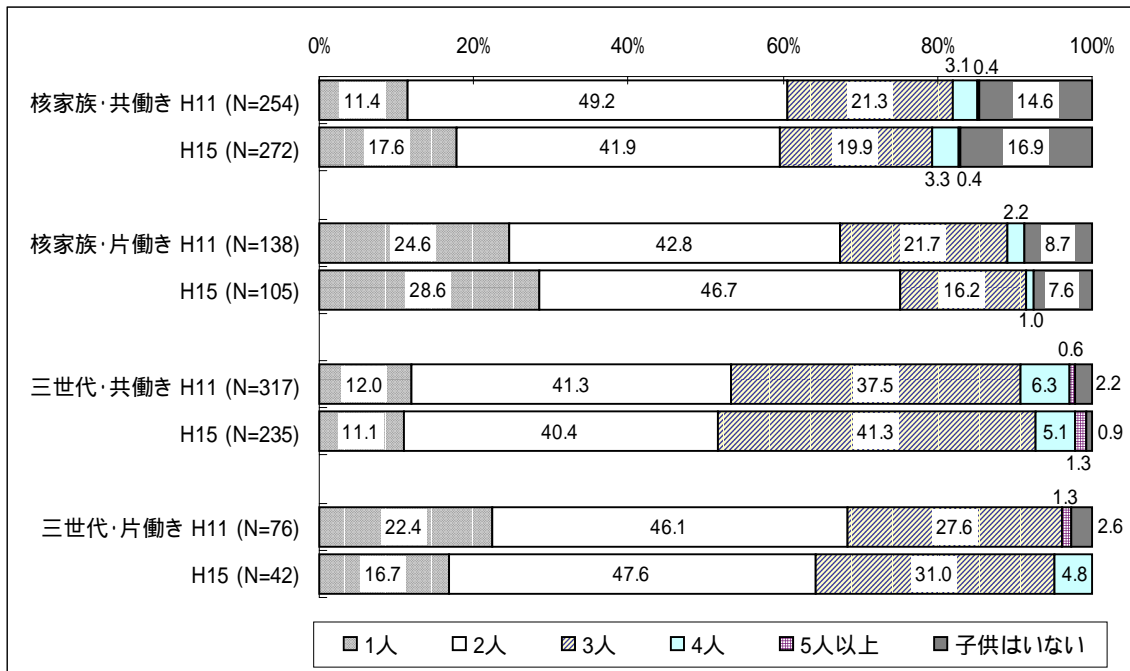
既婚者における子どもの数は、「2人」が42.5%で最も多く、次いで、「3人」が27.2%、「1人」が17.5%である。また、H11調査との比較では、子ども数の平均は、2.03人で変わらなかった（「5人以上」は5人として算出した）が、子どもが「2人」「3人」の世帯が若干減少し、「1人」の世帯が若干増加している。

既婚者における子どもの数



世帯構造別にみると、子どもが3人以上いるのは、核家族より三世代家族世帯の方が多く、また、夫婦就労別にみると、片働きの方が、子ども数は「1人」という割合が高い。核家族・共働きでは、「子どもはいない」という世帯が16.9%と他の世帯・就労形態の家族に比べて高い割合を示している。

世帯構造別、夫婦就労別にみた子ども数



「共働き」：回答者が就労しており、かつ配偶者があり、配偶者も就労していると回答している人を指す。  
 「片働き」：配偶者のある回答者に対し、回答者または回答者の配偶者どちらか一方のみが就労している人を指す。

・調査結果の概要

1. 子育てに対する意識

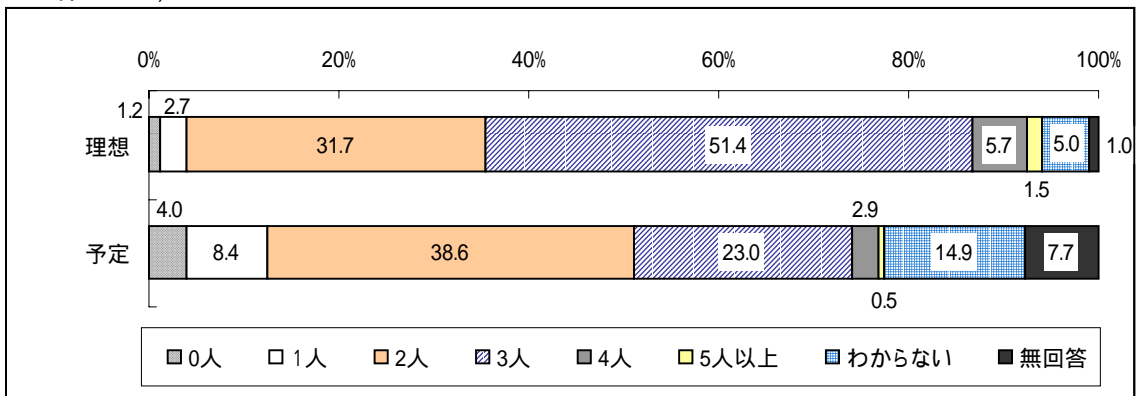
(1) 理想の子ども数と現実に予定している子ども数〔問2〕

理想子ども数（回答者が理想とする子どもの数）と、予定子ども数（回答者が現実に持つことを予定している子どもの数）の関係をみると、全体では理想子ども数で最も多いのが、「3人」の51.4%、次いで、「2人」の31.7%である。一方、予定子ども数は、理想子ども数の結果とは逆に、「2人（38.6%）」が、「3人（23.0%）」とする回答者よりも多い。

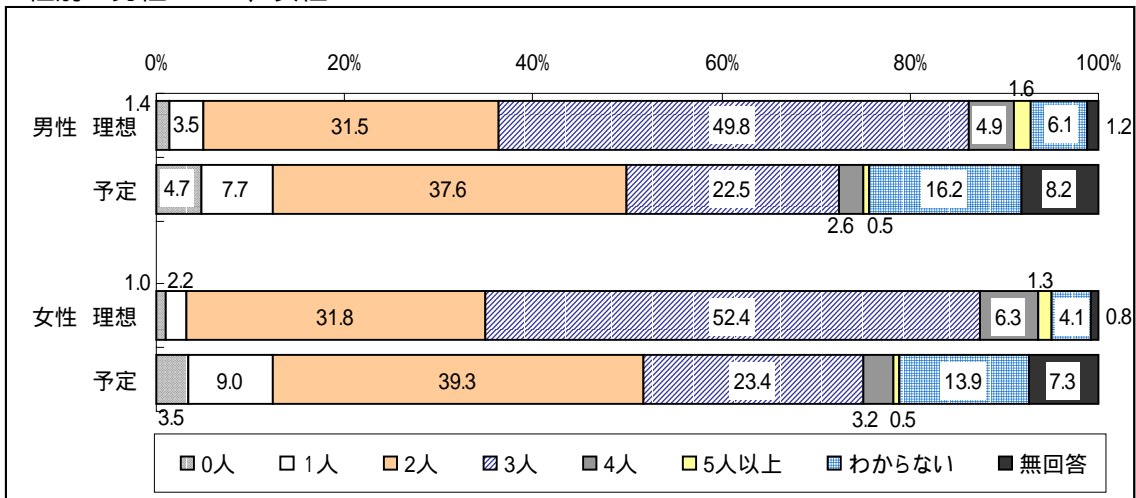
H11 調査との比較では、理想の子ども数の平均は、H11 調査では2.8人、H15 調査では2.7人、予定の子ども数の平均は、H11 調査では2.3人、H15 調査では2.2人（「5人以上」は、5人として算出）と、わずかではあるが減少している。また、個別にみると、理想子ども数を「2人」とする割合が増加している一方、「3人」とする割合が減少し、予定子ども数を「3人」とする割合がやや減少している。

理想の子ども数と現実に予定している子ども数

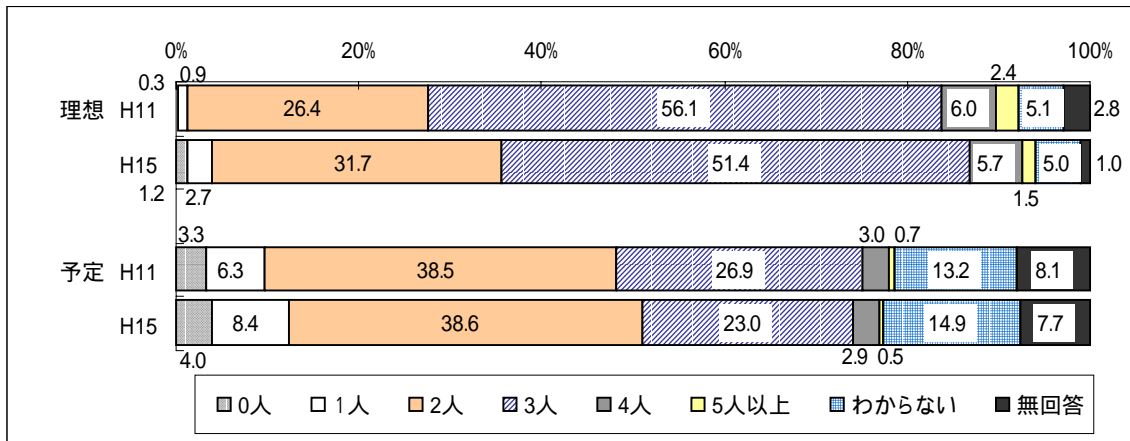
・全体 < N=1,030 >



・性別 < 男性 N=426、女性 N=603 >

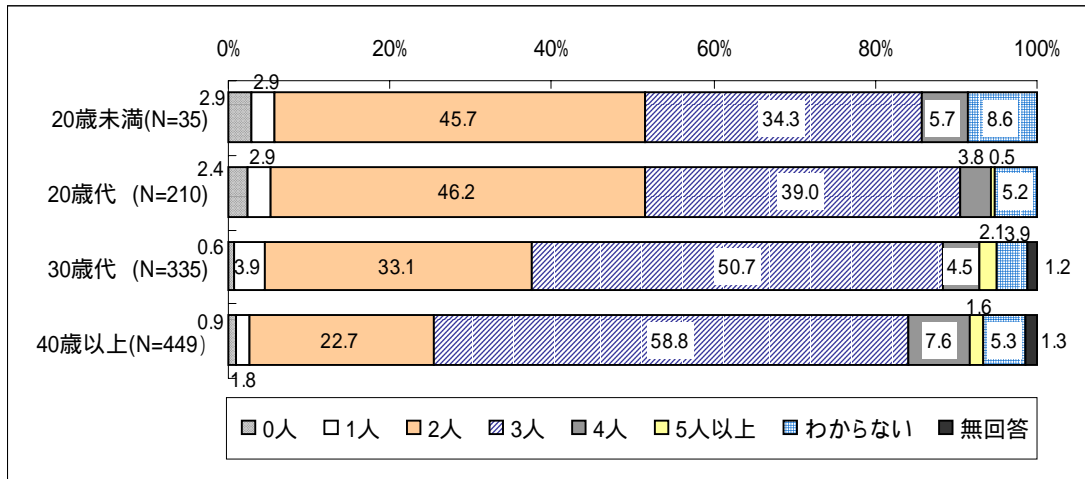


・全体、年次比較 < H11N=1,198、H15N=1,030 >

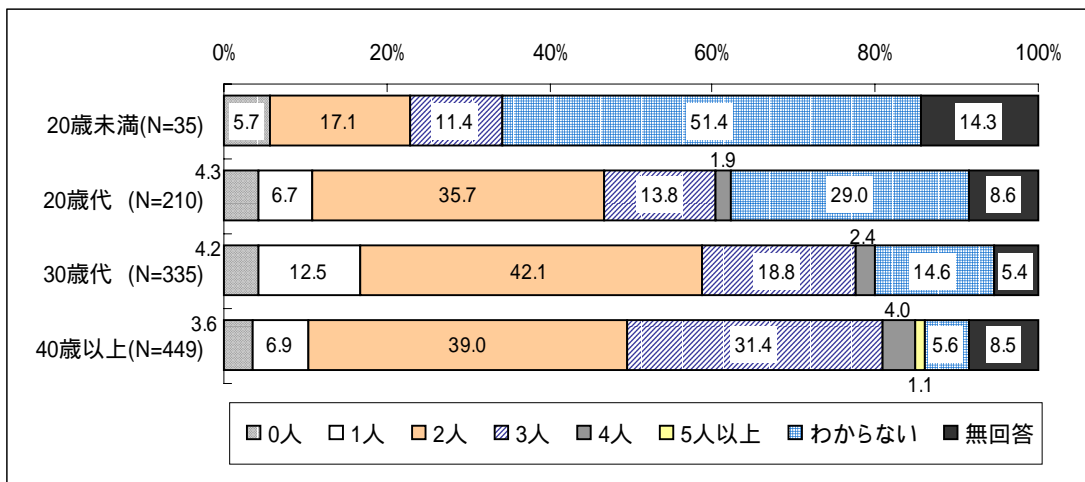


年齢別にみると、理想子ども数を「3人」以上と回答する割合は、年齢とともに増加している。一方、予定子ども数は、「2人」と回答する割合がほとんどの年齢で最も高い。また、「3人」と回答する割合は、年齢とともに増加している。20歳未満～20歳代では「わからない」とする回答の割合が高い。

年齢別にみた理想の子ども数 < N=1,029 >



年齢別にみた予定の子ども数 < N=1,029 >



H11 調査及びH15 調査における性別、年齢別にみた理想及び予定子ども数の平均を以下の表に示す。全体的に理想、予定子ども数ともに減少しているが、特に、20歳未満と30歳代の男性では、理想、予定子ども数ともに減少幅が大きい。

区分	理想の子ども数						予定している子ども数					
	男性		女性		全体		男性		女性		全体	
調査時期	H11	H15	H11	H15	H11	H15	H11	H15	H11	H15	H11	H15
全体	2.8	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.2
20歳未満	2.6	2.3	2.4	2.5	2.5	2.4	1.8	1.3	1.4	2.4	1.6	2.0
20歳代	2.6	2.5	2.6	2.4	2.6	2.4	2.2	2.0	2.0	2.1	2.1	2.0
30歳代	2.8	2.6	2.8	2.7	2.8	2.6	2.3	2.0	2.2	2.1	2.2	2.0
40歳以上	2.9	2.8	3.0	2.8	2.9	2.8	2.4	2.3	2.4	2.3	2.4	2.3

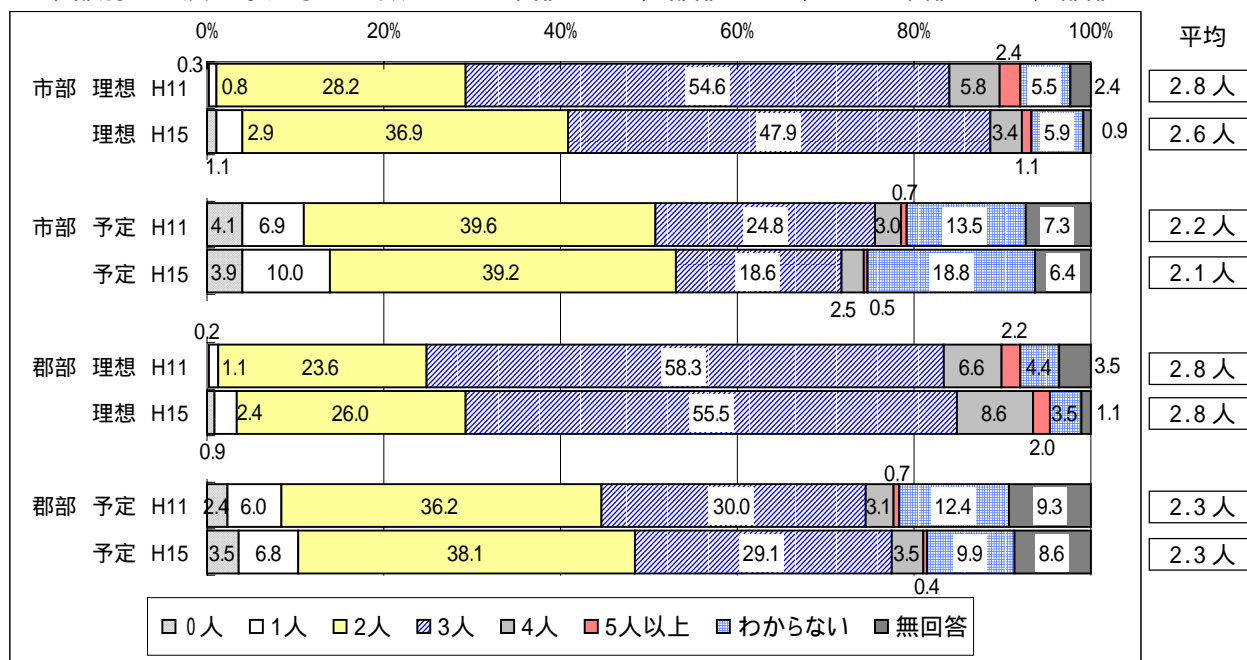
単位：人

「わからない」「無回答」を除き、「5人以上」は5人として算出。

市郡別に理想子ども数、予定子ども数をみると、理想子ども数、予定子ども数ともに、市部よりも郡部の方が多い傾向にある。また、予定子ども数を「わからない」と回答する割合が市部ではおよそ2割を占めているのも特徴的である。

H11 調査との比較では、特に市部において、理想及び予定子ども数を3人とする回答者の割合が減少している。また、市部においては、予定している子ども数を1人とする世帯が若干増加している。

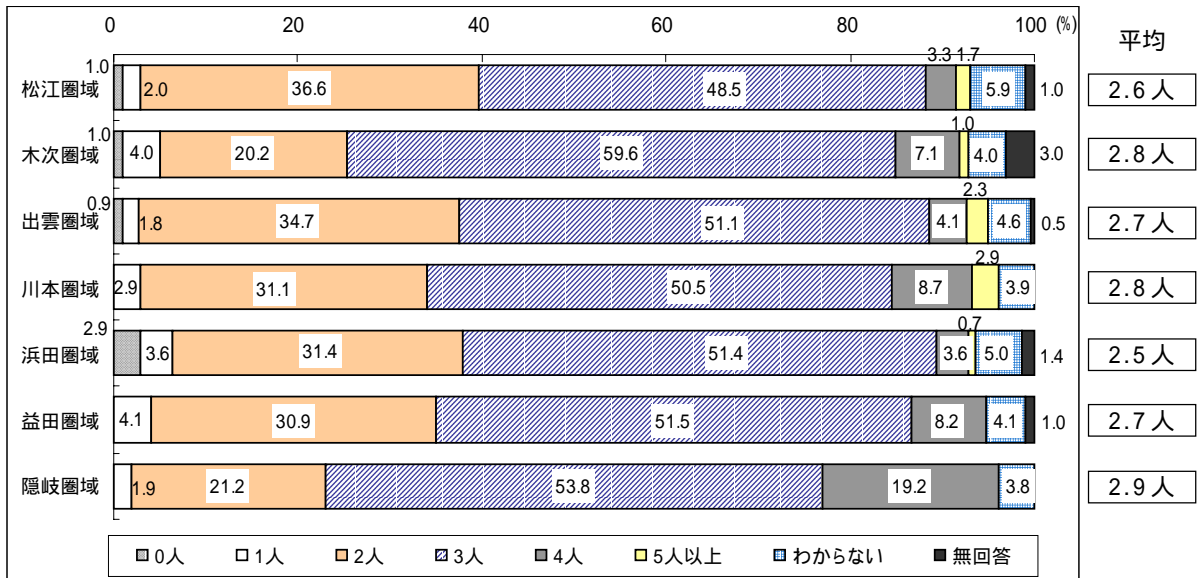
市郡別理想及び予定子ども数 < H11：市部 N=709、郡部 N=453、H15：市部 N=559、郡部 N=454 >



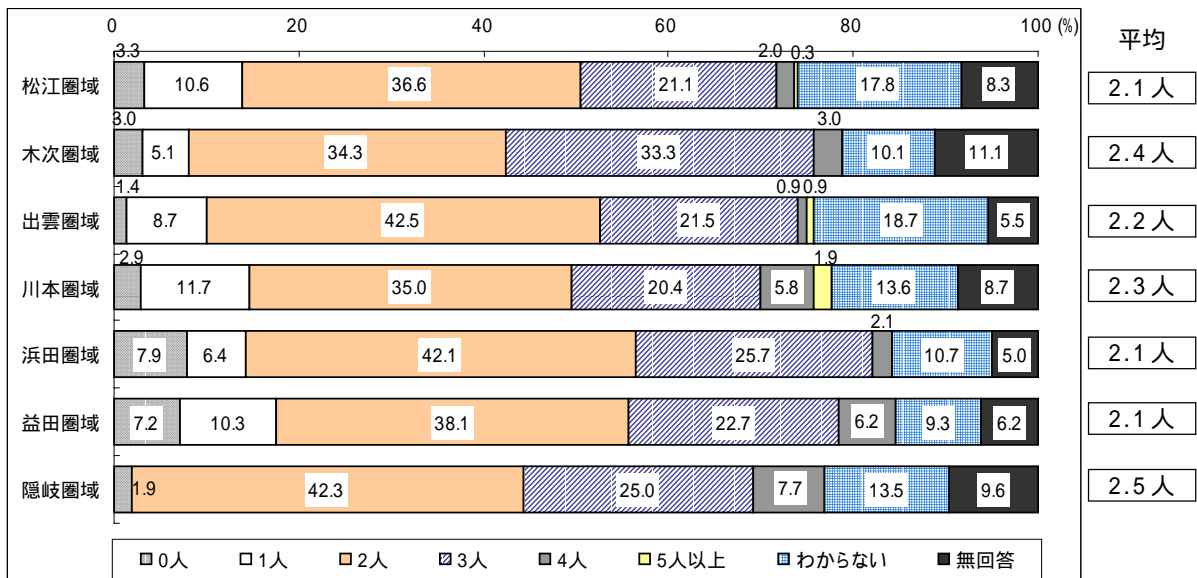
地域別にみると、各地域共に理想の子ども数を「3人」とする回答が50%前後を占めているが、木次及び隠岐圏域では、「3人」以上とする回答がおおよそ7割を占めており、他の地域に比べて高い割合を示している。

予定子ども数を見ると、「1人」とする回答が松江、川本、益田圏域で1割を超える。木次及び隠岐圏域では、「3人」以上とする回答が3割を越えており、理想子ども数と同様に他の地域に比べて高い割合を示している。

地域別理想子ども数 <N=1,013>



地域別予定子ども数 <N=1,013>



地域区分（健康福祉センター所管区域）

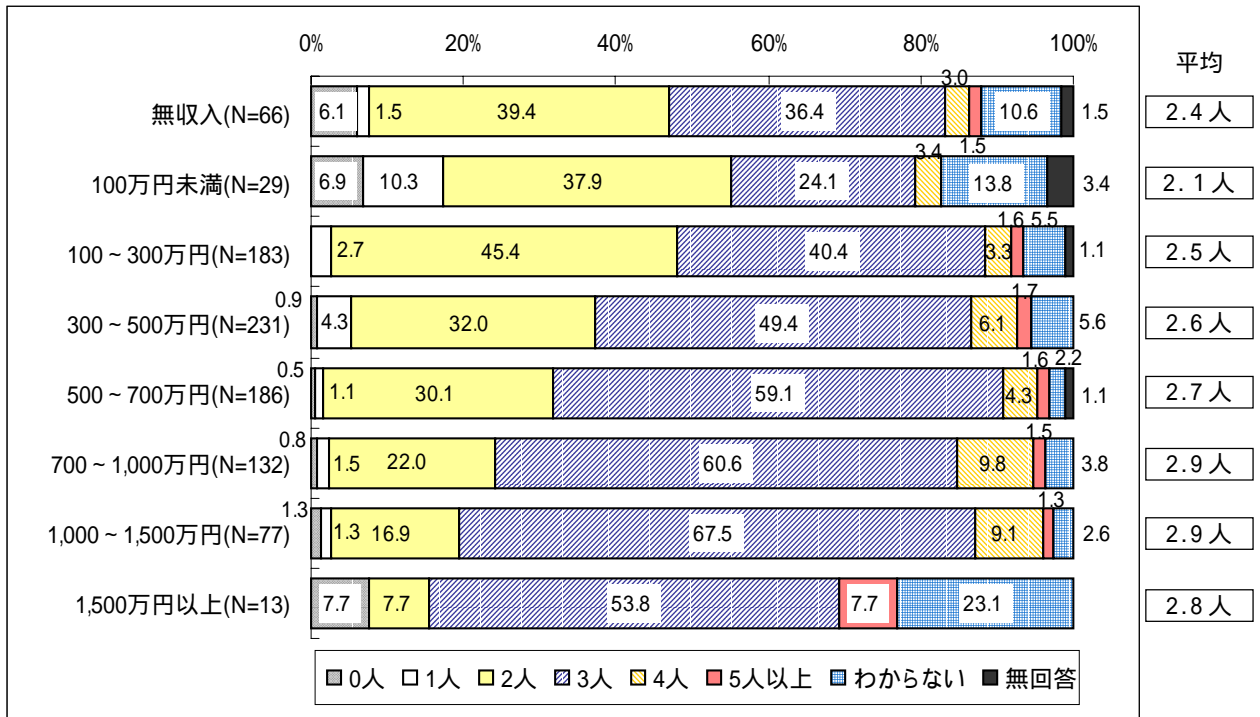
松江圏域：松江市、安来市、能義郡、八束郡  
 出雲圏域：出雲市、平田市、簸川郡  
 浜田圏域：浜田市、江津市、那賀郡  
 隠岐圏域：隠岐郡

木次圏域：大原郡、飯石郡、仁多郡  
 川本圏域：大田市、邇摩郡、邑智郡  
 益田圏域：益田市、美濃郡、鹿足郡

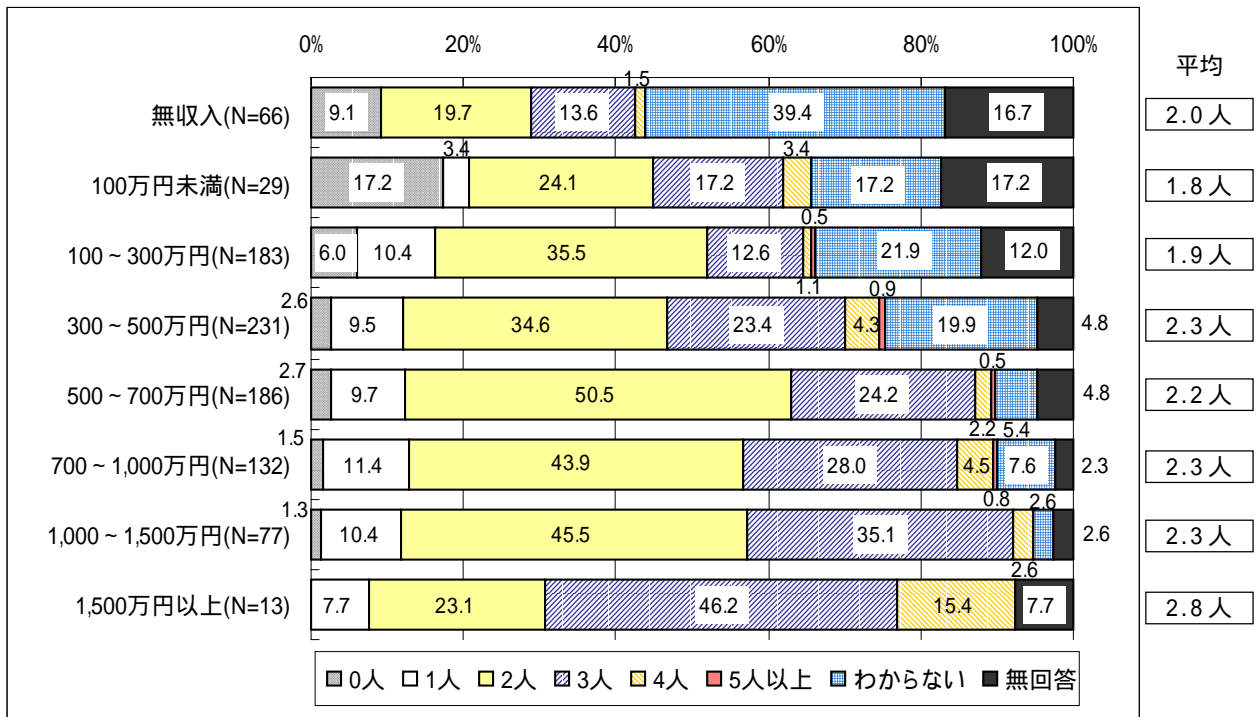


年間収入別にみると、収入が多いほど、理想とする子ども数が多くなる傾向が顕著に現れている。一方、予定子ども数では、どの収入階層においても「2人」とする割合が高いが、収入が多いほど、「3人」とする割合が高く、逆に「わからない」あるいは「無回答」とする割合が減少している。

年間収入別にみた理想の子ども数



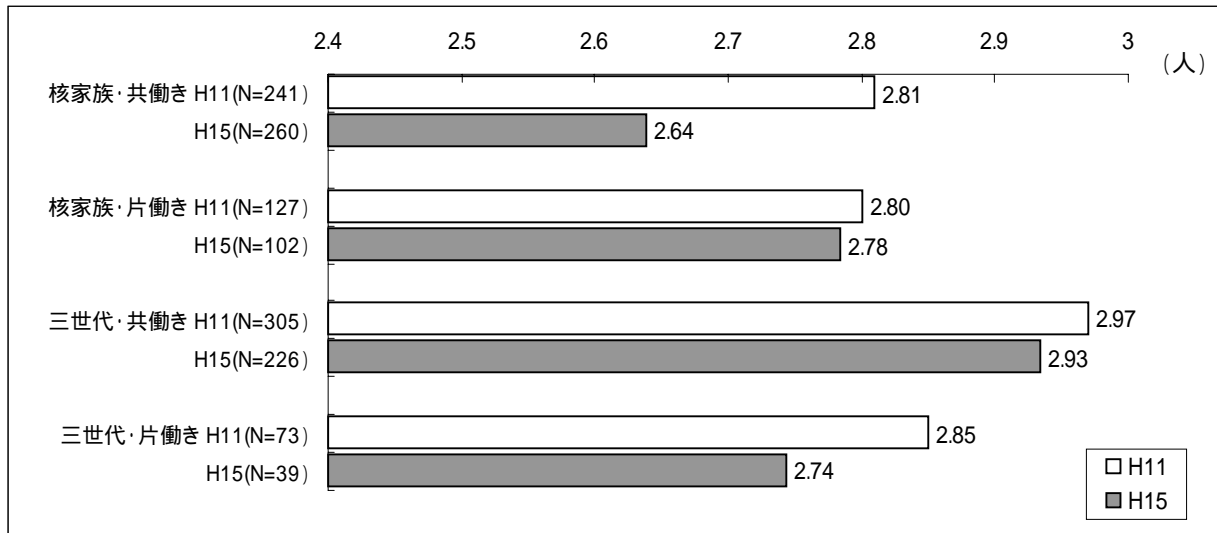
年間収入別にみた予定の子ども数



理想子ども数の平均を、世帯構造および就労状況の面からみると、最も多いのは「三世代家族・共働き」世帯である。また、「核家族」では「三世代家族」とは逆に「片働き」の家族の方が「共働き」よりも理想とする子ども数が多い結果となっている。

H11 調査との比較では、全体的に理想の子ども数は減少しているが、特に、「核家族・共働き」世帯での減少が顕著である。

世帯構造別、就労状況からみた理想の子ども数の平均

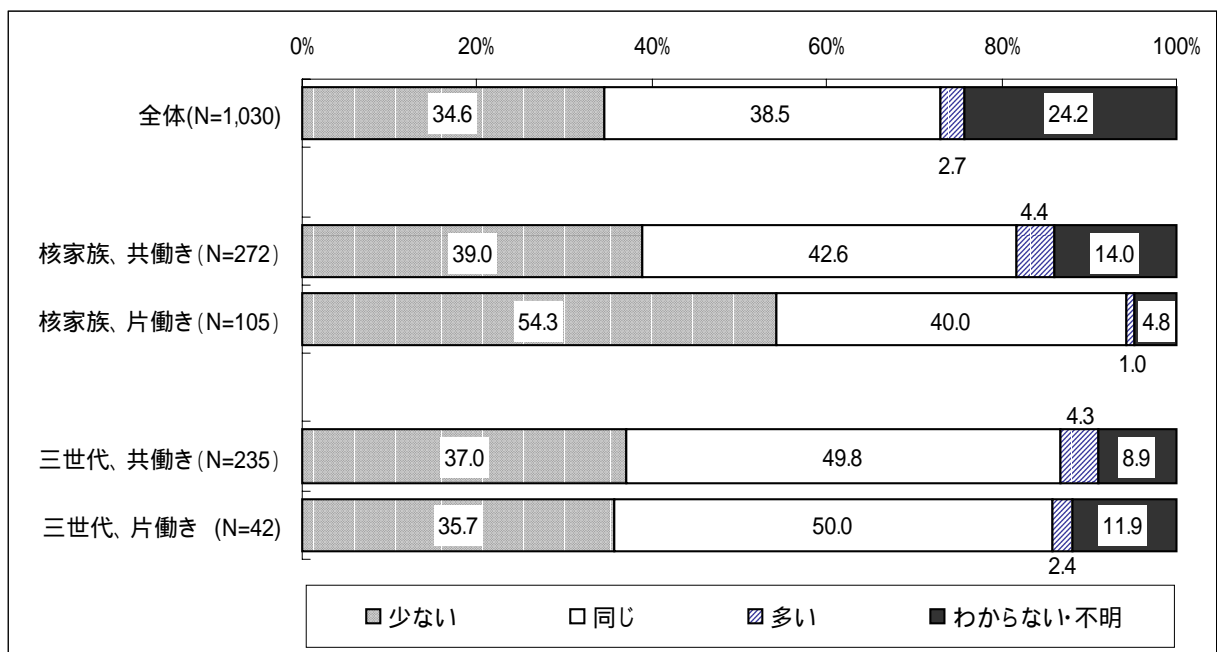


この平均値は、比較できない回答(「わからない」、「無回答」)を除き、また、「5人以上」は、5人として算出したものである。

予定子ども数と理想子ども数の比較をみると、全体では理想と予定が「同じ」とする回答者の割合、理想より予定する子ども数が「少ない」とする回答者の割合は、ともに3割を超えている。

世帯構造、就労状況別にみると、「核家族・片働き」世帯は、理想より予定する子ども数が少ないとする割合が5割以上を占めており、他のグループよりも高い。

予定子ども数が理想子ども数より少ないか



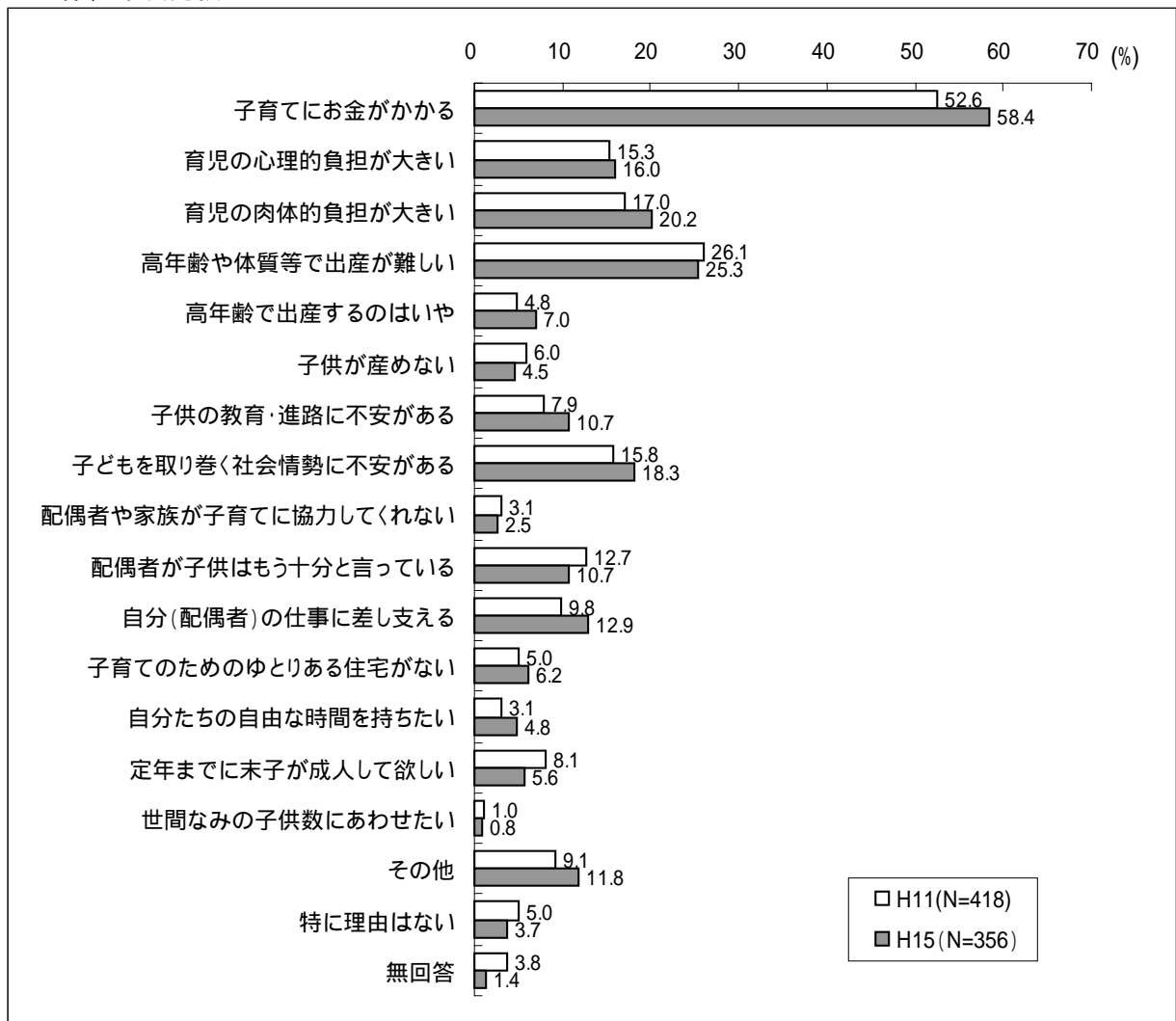
(2) 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由<複数回答>〔問3〕

「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない理由としては、「子育てにお金がかかる」が58.4%と、突出して高い。次いで、「高年齢や体質等から出産が難しい」が25.3%であった。また、「育児の肉体的負担」「育児の心理的な負担」「子どもを取り巻く社会情勢への不安」も高い。

H11調査との比較で、割合が増加している回答としては、「子育てにお金がかかる」「育児の肉体的負担が大きい」「子どもを取り巻く社会情勢に不安がある」「自分(配偶者)の仕事に差し支える」等が挙げられる。

予定子ども数が理想子ども数より少ない理由<複数回答>

・全体、年次比較



「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない回答者のみ。

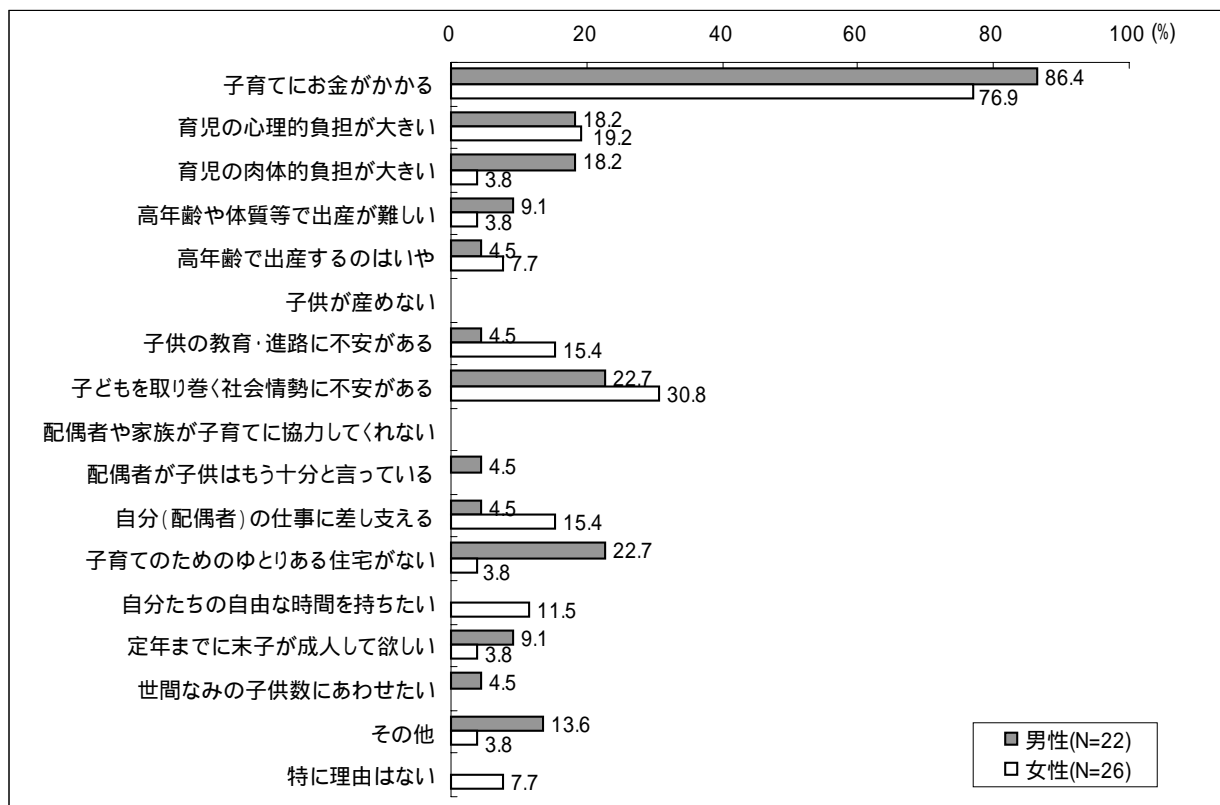
性別、年齢別にみると、20歳代では、「子育てにお金がかかる」という回答が占める割合が男性86.4%、女性76.9%と、全体の58.4%と比較して非常に高い。この他、男性は「子どもを育てるためのゆとりある住宅がない(22.7%、全体：6.2%)」、女性は「子どもを取り巻く社会情勢に不安がある(30.8%、全体：18.3%)」等の割合が高い。

30歳代では、男性は「子どもを取り巻く社会情勢に不安がある(30.6%、全体：18.3%)」、女性は「育児の肉体的負担が大きい(28.1%、全体：20.2%)」「自分(配偶者)の仕事に差し支える(20.2%、全体：12.9%)」等の割合が高い。

40歳代は、「子育てにお金がかかる」という回答では、全体が58.4%、40歳代女性が59.4%に対し、男性は41.2%と非常に低い。他の年代で高い割合を占める「子どもを取り巻く社会情勢に不安がある」という回答は、男性が13.2%、女性が15.6%と全体の18.3%と比較して少ない。

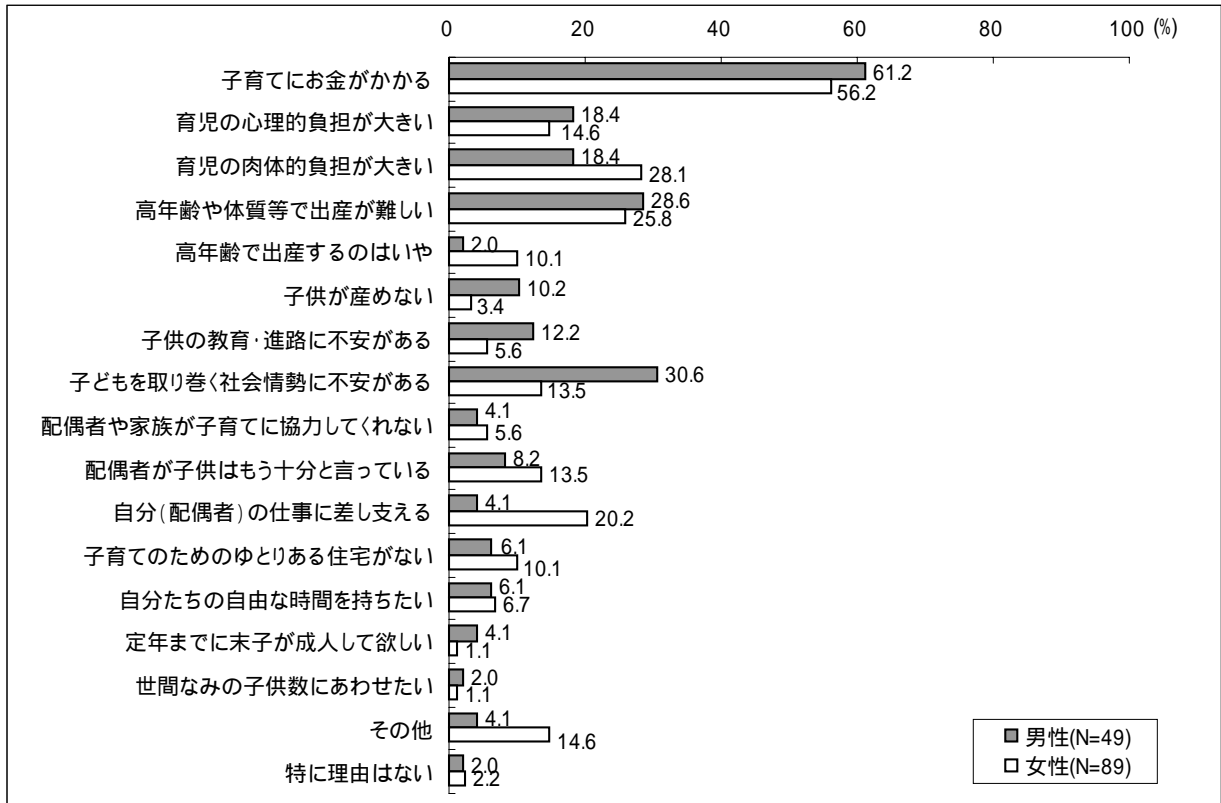
また、「高齢や体質等で出産が難しい(全体：25.3%)」という回答は男女ともに30%を上回る。この他、男性では、「配偶者が子どもはもう十分と言っている(19.1%、全体：10.7%)」「一番末の子が自分(配偶者)の定年退職までに成人して欲しい(13.2%、全体：5.6%)」等の回答が占める割合が高い。

・20歳代



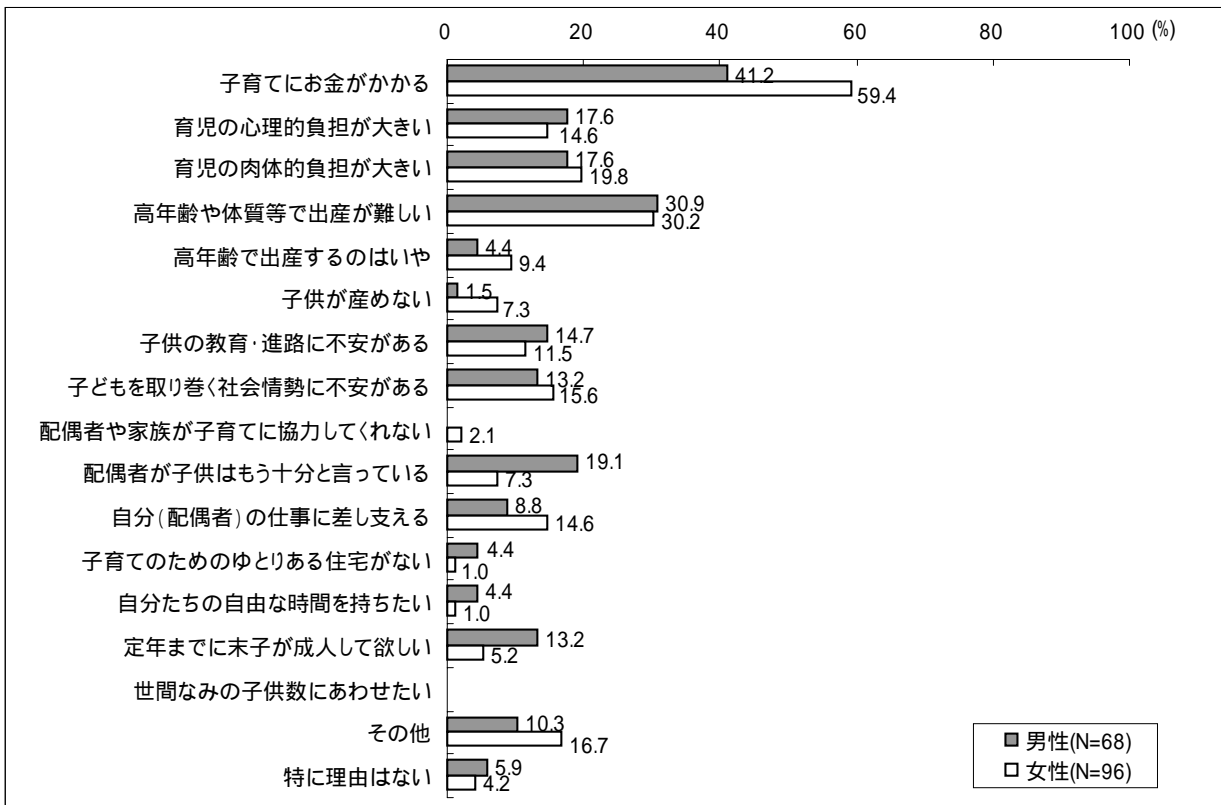
「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない回答者のみ。

・ 30 歳代



「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない回答者のみ。

・ 40 歳以上



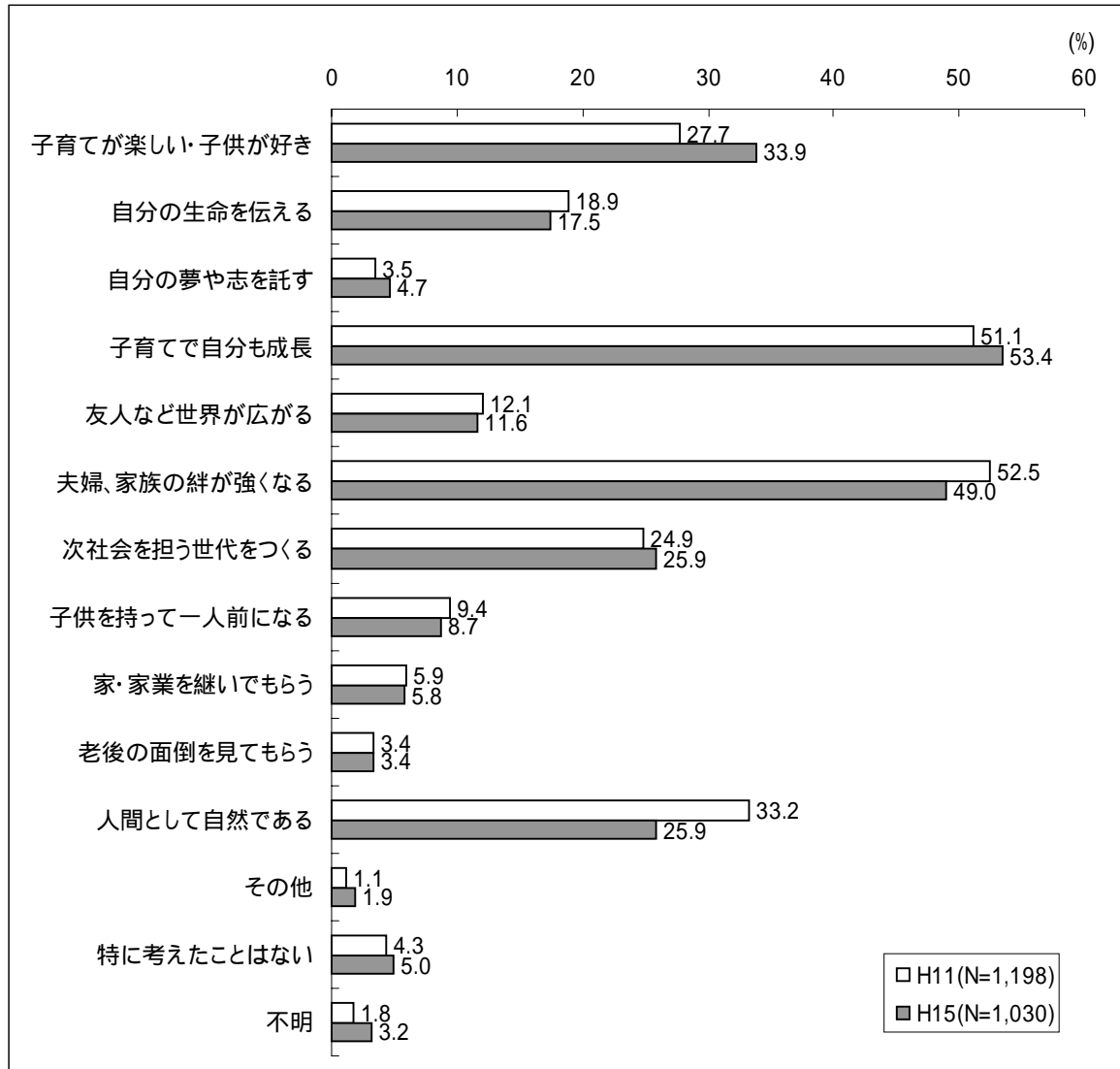
「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない回答者のみ。

(3) 子どもを生み育てる意味<複数回答>〔問4〕

子どもを生み育てる意味として、割合が高いのは「子どもを育てることで自分も成長できる」「夫婦、家族の絆が強くなる」の回答であり、ともにおよそ50%を占める。次いで高いのは、「子育てが楽しい・子どもが好き」であった。

H11 調査との比較では、全体では「子育てが楽しい・子どもが好き」「子どもを育てることで自分も成長できる」という回答が増加している。一方、「子どもを持つのは人間として自然である」という回答は大きく減少している。

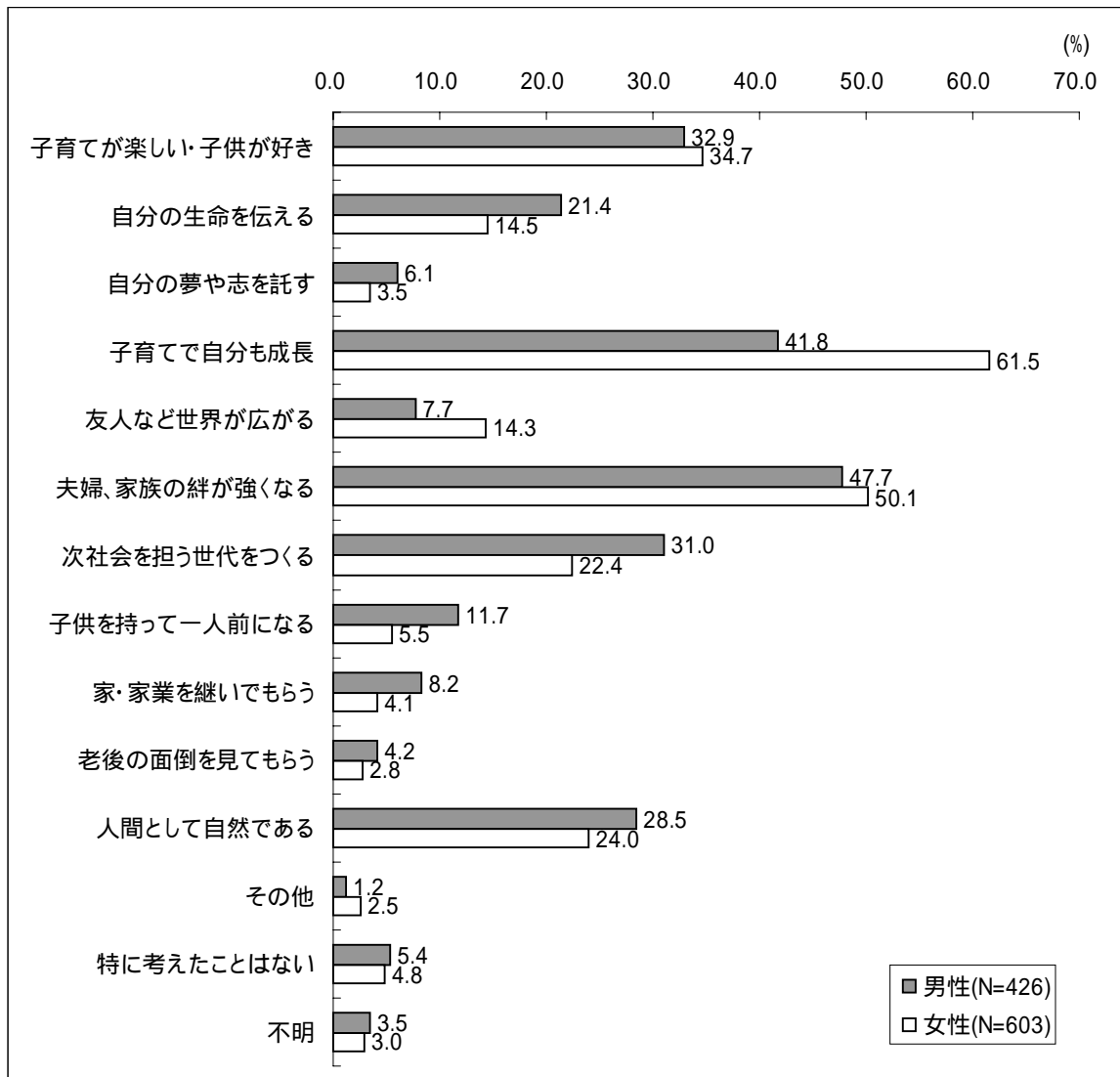
子どもを生み育てる意味<複数回答>



H15 調査を性別にみると、「子どもを育てることで自分も成長できる」「子どもを通じて友人ができる等世界が広がる」という回答に関しては、女性での割合が男性を上回っている。

一方、「自分の生命を伝える」「次の社会を担う世代をつくる」「子どもを持つのは人間として当然である」は、男性での割合が女性を上回っている。

・性別 (H15)



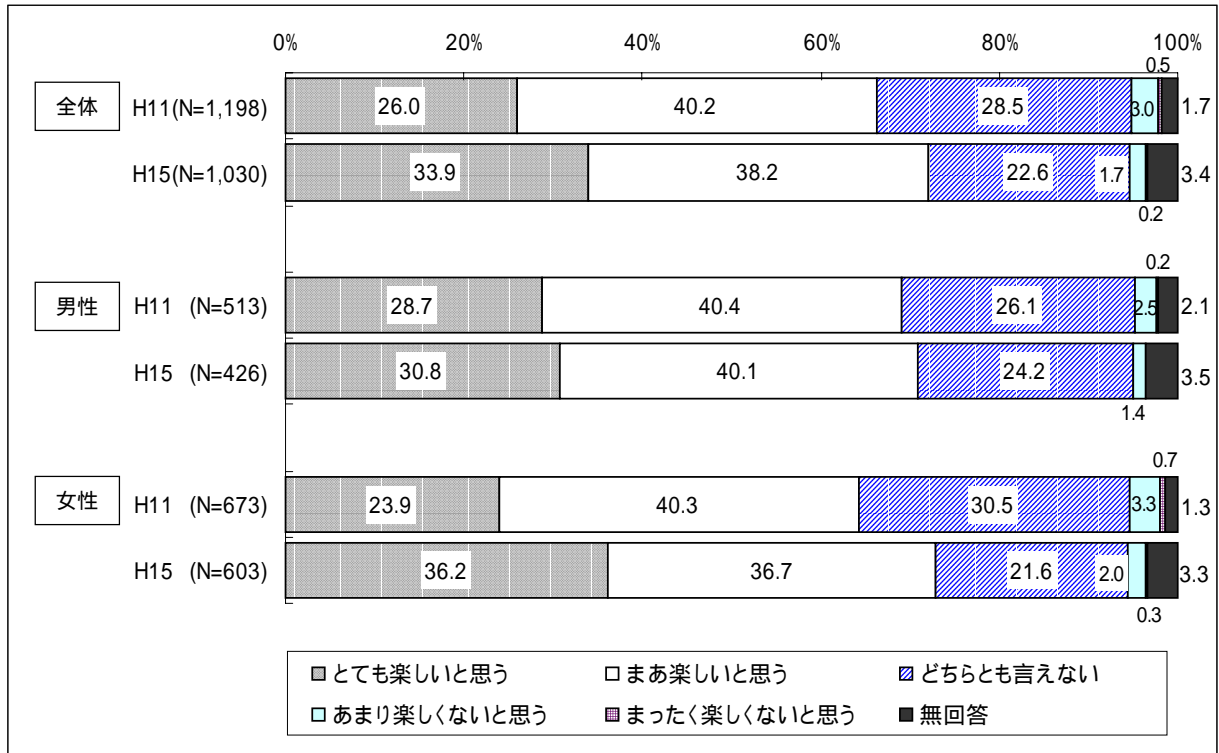
(4) 子育てを楽しんでいるか [問5]

子育てについて、全体で、およそ7割の回答者が子育てを楽しんでいる(「とても楽しい」及び「まあ楽しい」としており、H11 調査よりも、若干増加している。

H11 調査との比較を性別で見ると、男性はさほど変化はないが、女性は、「とても楽しい」とする回答者が大きく増加している。

子育てを楽しんでいるか

・年次比較

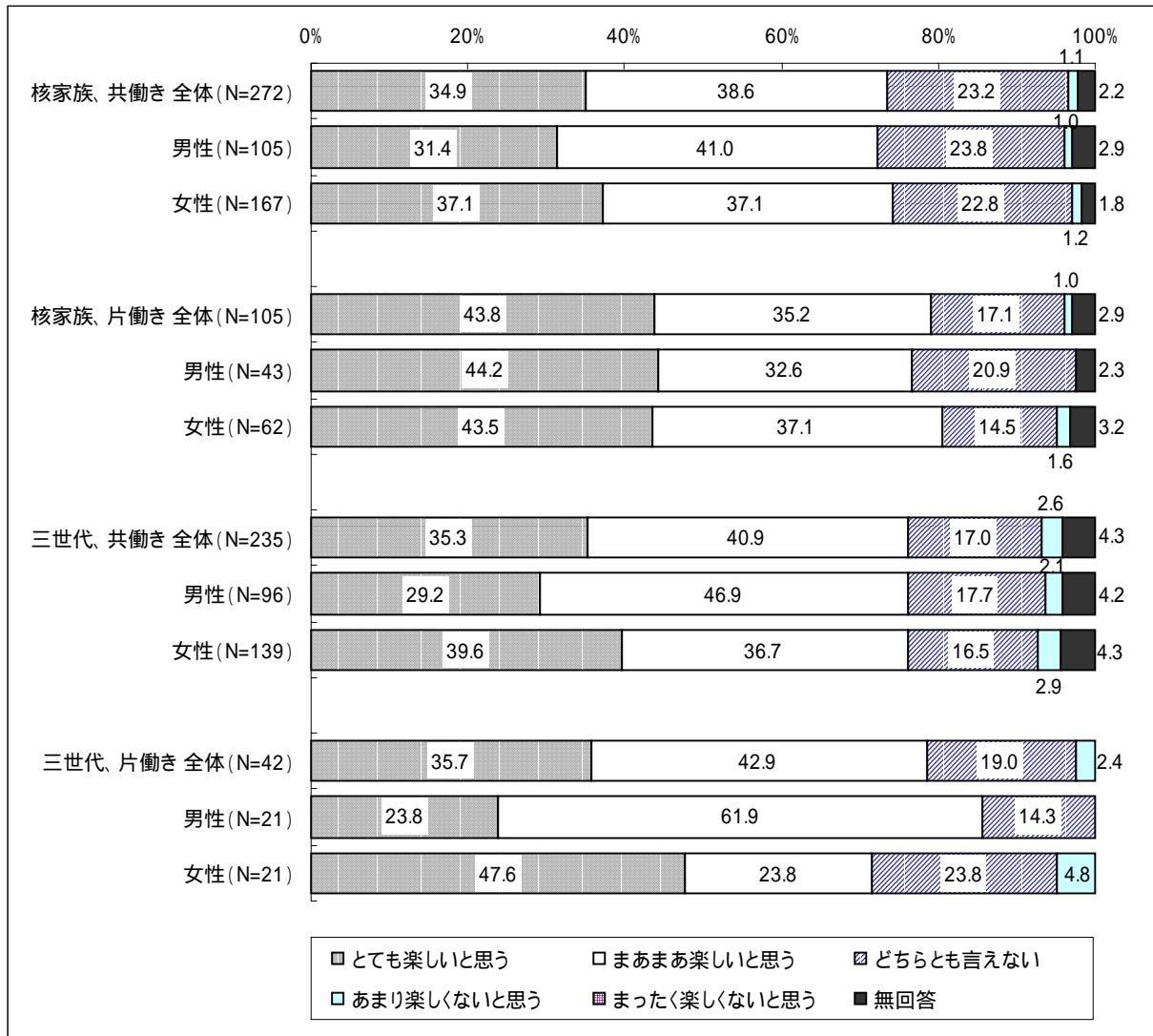




世帯構造および夫婦就労状況からみると、子育てを「とても楽しい」と回答する割合は、「核家族・片働き」が最も高い。また、「あまり楽しくない」と回答する割合は、「核家族」より「三世代家族」の方が高い。

「三世代家族」では、子育てを「とても楽しい」とする回答において男女間の差が大きく、女性の回答者の占める割合が高い。

世帯構造、夫婦就労状況からみる意識



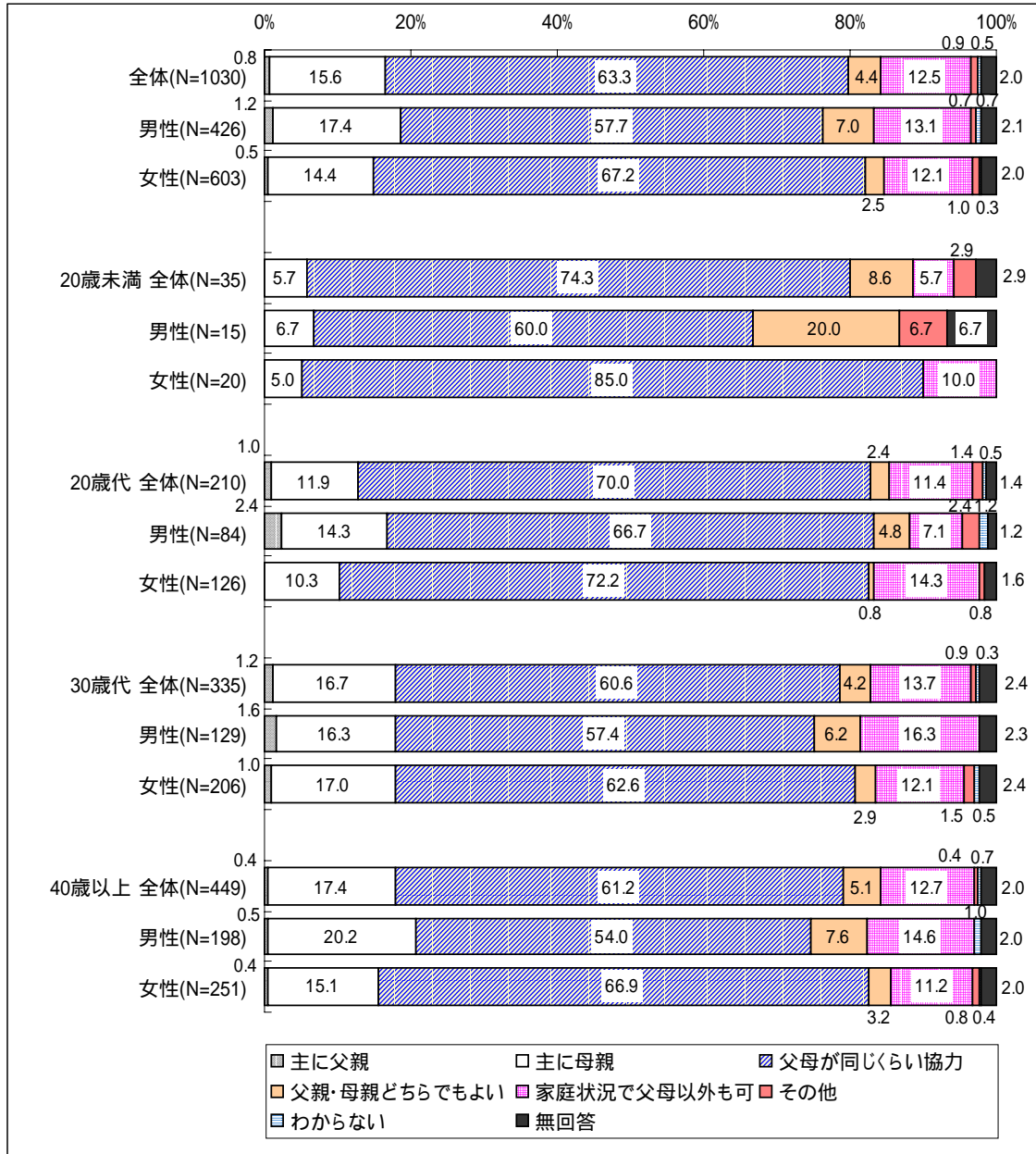
(5) 家庭で子育てに誰が携わるのがよいか [問6-1]

全体的に「父母が同じくらい協力して携わるのがよい」と回答する割合が高いが、年齢が上がるほどその割合は減少し、「主に母親」と回答する割合が高くなる。この傾向は、男性の方で強い。

また、全年代で女性の方が男性よりも「父母が同じくらい協力して携わるのがよい」とする回答が占める割合が高い。

「父親・母親どちらでもよい」が占める割合は、男性の方が高い。

家庭で子育てに誰が携わるのがよいか



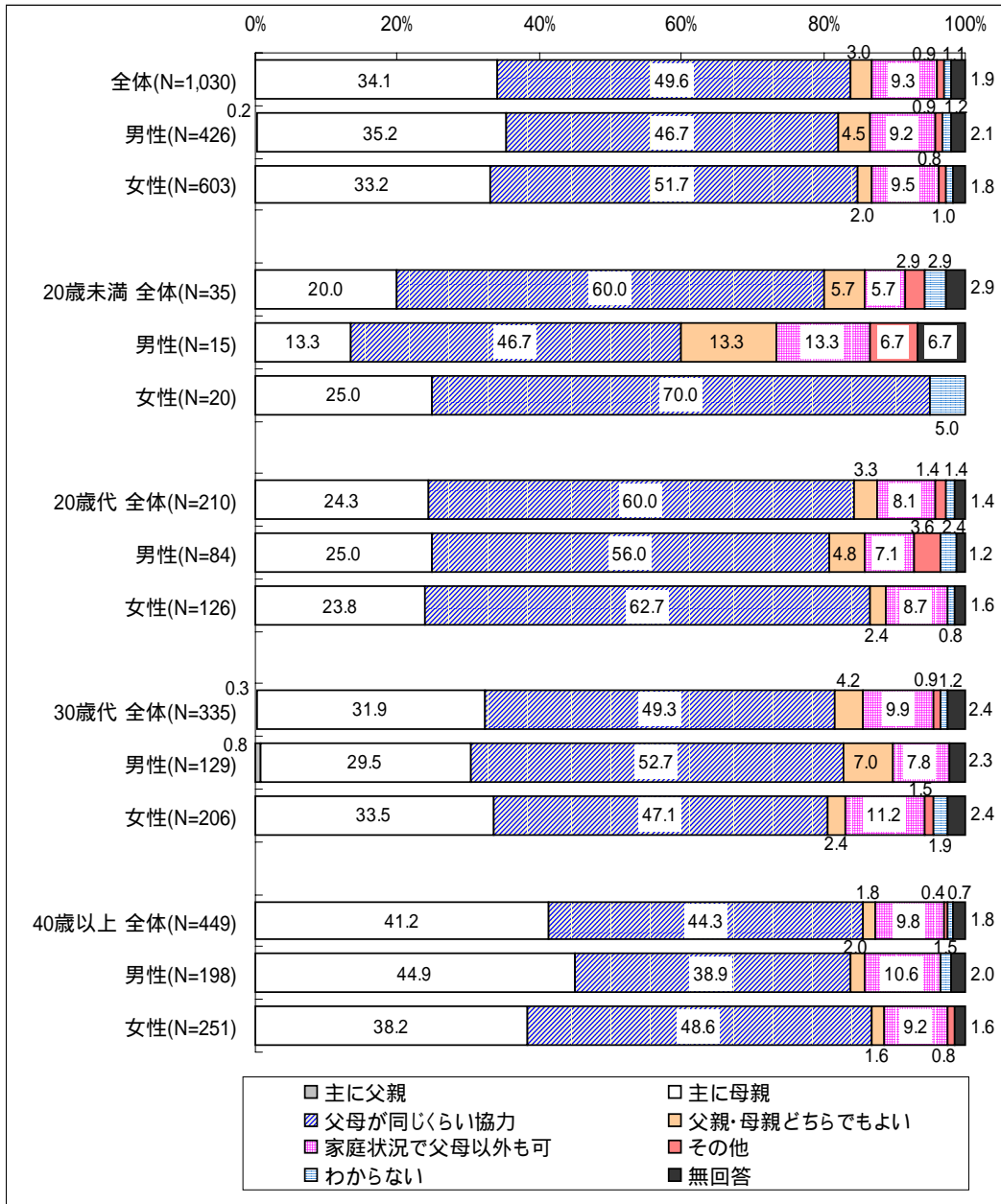
(6) 3歳くらいまでは、家庭で子育てに誰が携わるのがよいか [問6-2]

男女ともに「父母が同じくらい協力して携わるのがよい」と回答する割合が最も高い。若干ではあるが、女性の方が男性よりもこの回答が占める割合が高い。年齢が上がるほどその割合は減少し、「主に母親が携わるのがよい」と回答する割合が高くなる。

また、「父親・母親どちらでもよい」が占める割合は、男性の方が多い。

全体的に、「家庭では子育てに誰が携わるのがよいか」(p21 参照)という設問についての回答よりも、「主に母親が携わるのがよい」とする割合が高い傾向にある。

3歳くらいまでは、家庭で子育てに誰が携わるのがよいか



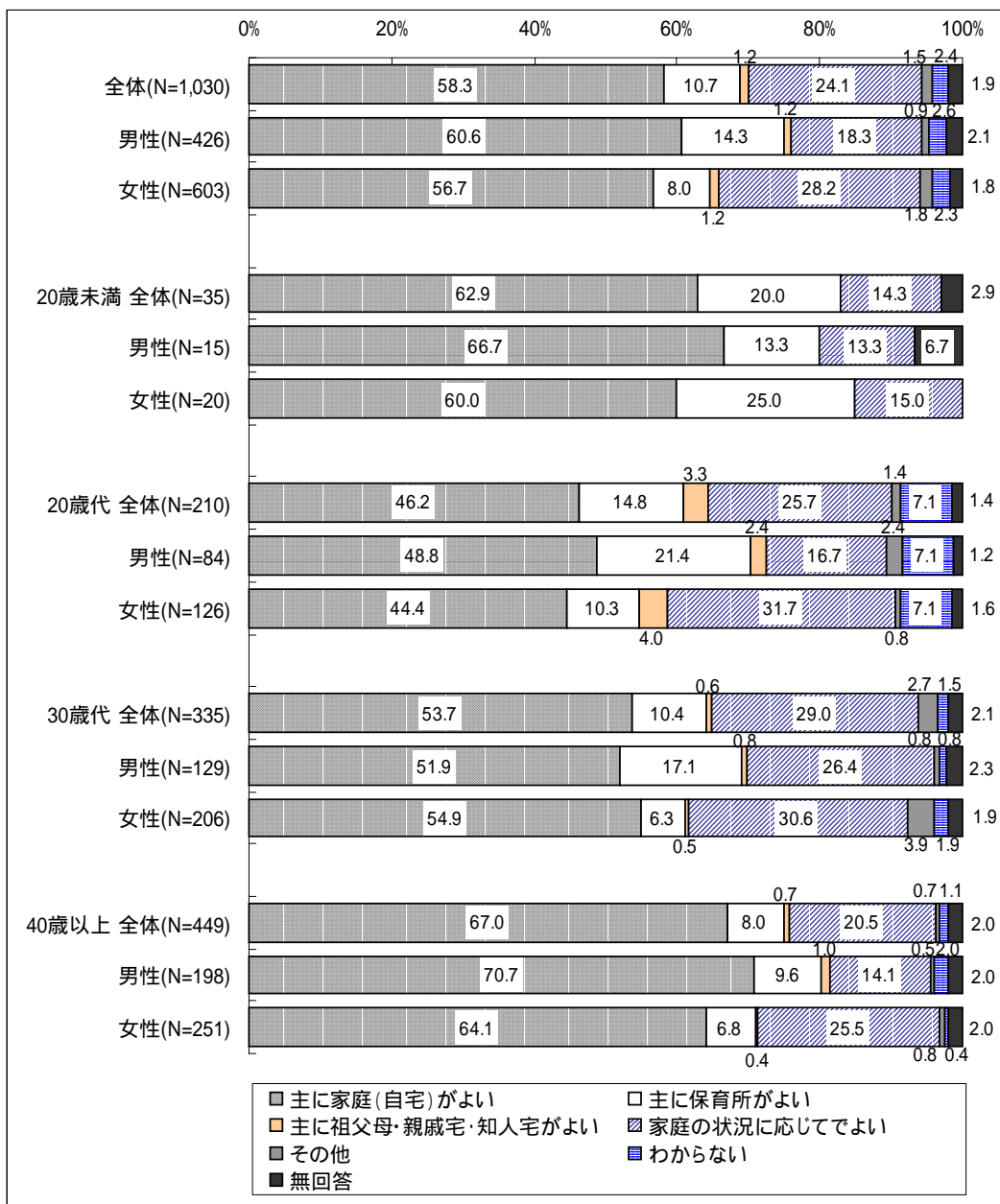
(7) 3歳くらいまでは、昼間の子育ての場所はどこが適しているか [問7]

全体的にみると、性別・年齢に関わらず、子どもが3歳くらいまでの昼間の子育ては「主に家庭(自宅)がよい」としている。

既婚の回答者がいない20歳未満のグループを除いて、年齢とともに「主に家庭(自宅)がよい」と回答する割合が高くなっており、「主に保育所がよい」は逆に低くなっている。

性別で差異が大きいのは、「主に保育所がよい」「その家庭の状況に応じてどこでもよい」とする回答である。「主に保育所がよい」では、特に、20歳代~30歳代で、男性の方が女性よりも占める割合が高くなっている。「その家庭の状況に応じてどこでもよい」については、女性では28.2%であるが、男性では18.3%と大きな差がみられる。

性別、年齢別にみた昼間の子育てに適している場所



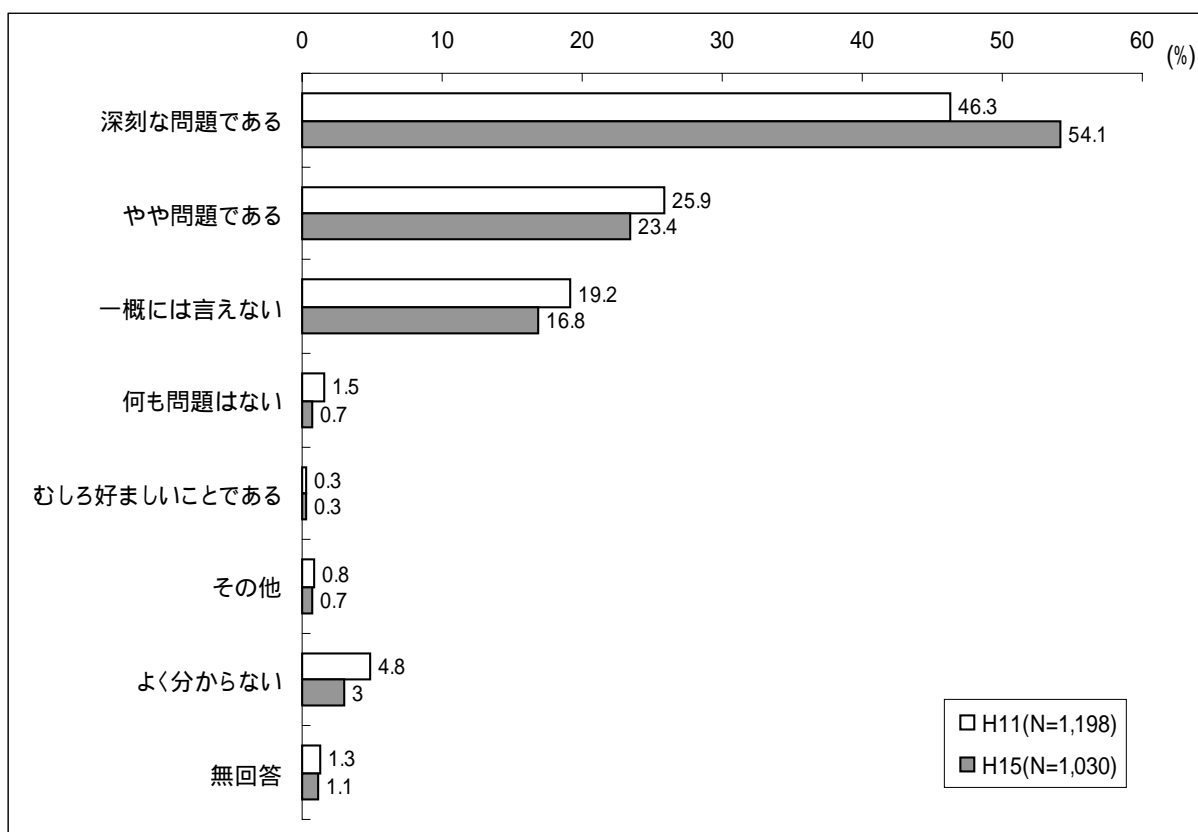
## 2. 少子化に対する意識

### (1) 出生率の低下に対する認識 [問9 - 1]

島根県の出生率の低下について、全体の54.1%が「深刻な問題である」と回答し、次いで、「やや問題である」が23.4%、「良い面・悪い面の両方があり一概にはいえない」が16.8%であった。

H11調査との比較では、「深刻な問題である」とする回答者が占める割合が高くなっている。

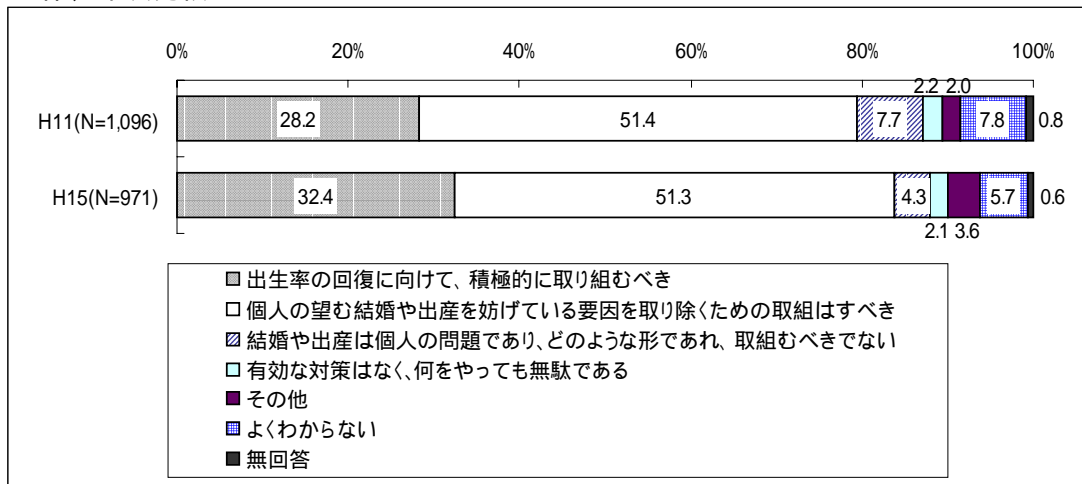
全体、年次比較



(2) 少子化に対する行政の取り組み [問9-2]

少子化に対する行政の取り組みとしては、回答者の半数が「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべき」と回答している。次いで、「出生率の回復に向けて、積極的に取り組むべき」が32.4%で多く、H11調査よりも4.2ポイント増えている。

全体、年次比較

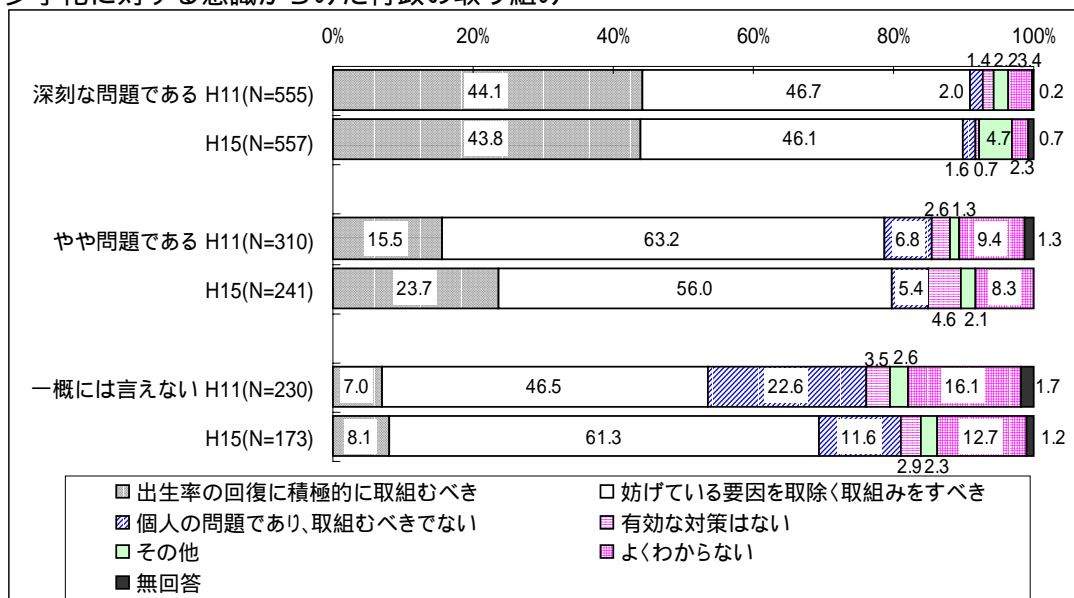


出生率の低下に対する認識において、「深刻な問題である」、「やや問題である」及び「よい面・悪い面の両方あり、一概にはいえない」を選択したもののみ抽出。

少子化に対する意識別に行政の取り組みをみると、「深刻な問題である」とする回答者の43.8%が「出生率の回復に向けて、積極的に取り組むべき」と回答している。

H11調査との比較では、「深刻な問題である」とする回答者グループでは特に変化はみられないが、「やや問題である」とする回答者グループでは、「出生率の回復に向けて、積極的に取り組むべき」とする回答が増加している。また、「良い面・悪い面の両方あり一概には言えない」とする回答者グループでは、「個人の問題であり取り組むべきではない」する回答が減少しており、少子化に対し、積極的な取り組みを望む傾向が強くなっている。

少子化に対する意識からみた行政の取り組み



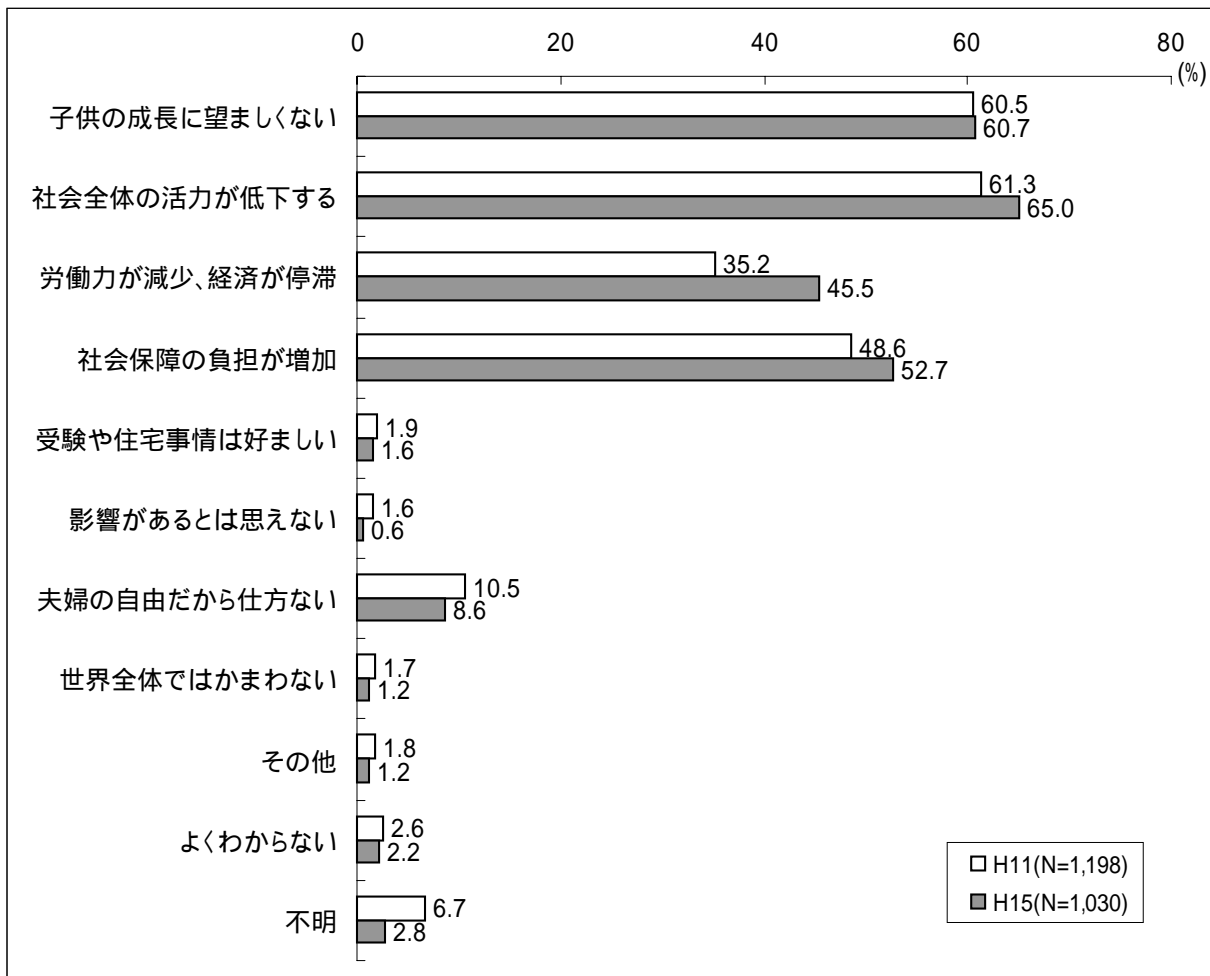
出生率の低下に対する認識において、「深刻な問題である」、「やや問題である」及び「よい面・悪い面の両方あり、一概にはいえない」を選択したもののみ抽出。

(3) 少子化の影響について < 複数回答 > 〔問10〕

少子化の影響について、特に割合が高いのは、「若年層の減少により社会全体の活力が低下する」「家庭や地域における子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって望ましくない」という回答であり、それぞれおよそ6割を占める。次いで多いのは、「将来、年金の保険料等の社会保障の負担が増加する」「将来の労働力が減少し、経済が停滞する」等であった。

H11 調査でも同様の傾向であったが、H15 調査では、それぞれの回答の割合が高くなっており、特に「将来の労働力が減少し、経済が停滞する」という回答の割合が 10.3 ポイント増えている。

全体、年次比較 < 複数回答 >



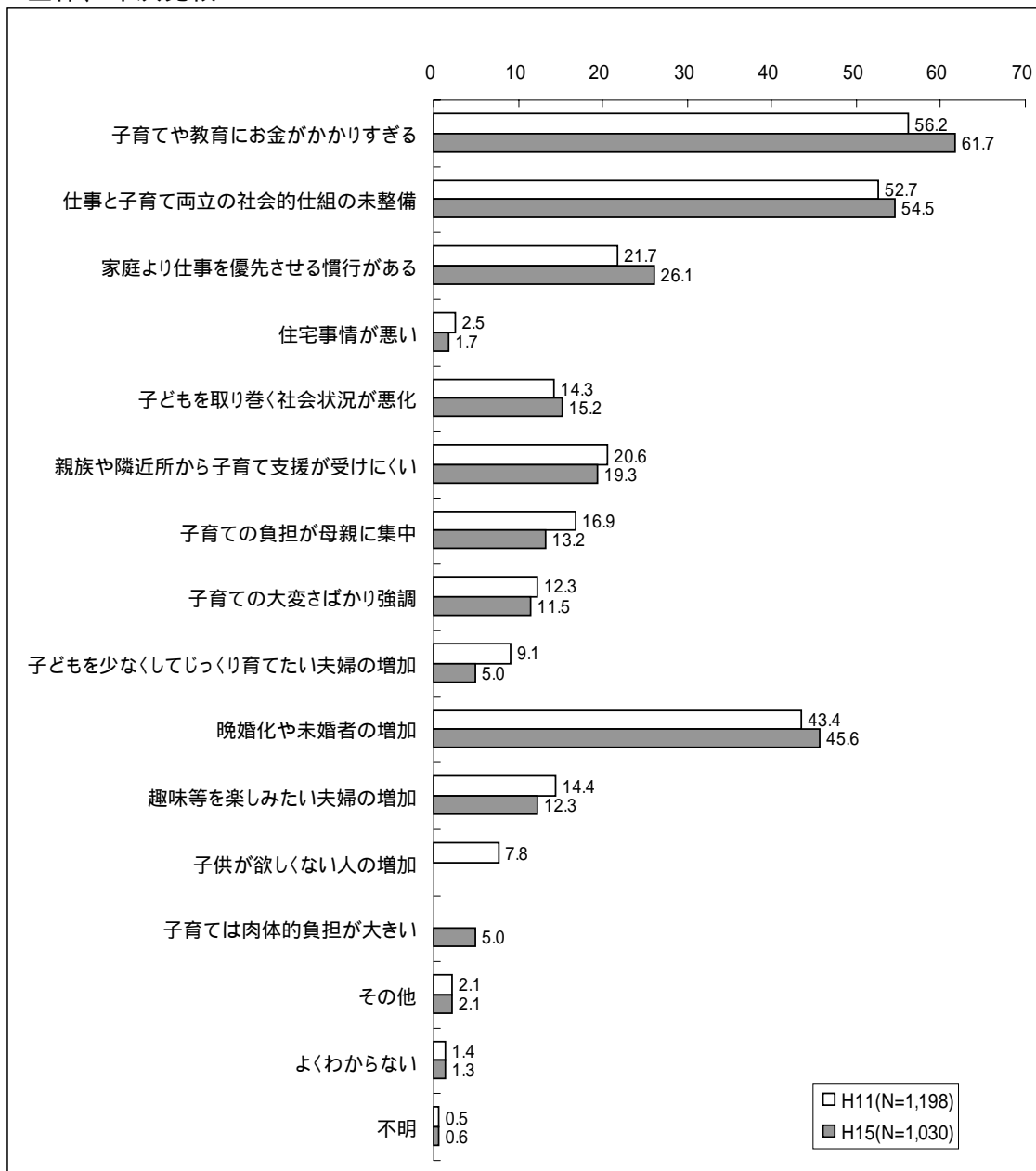
(4) 出生率低下の原因について<複数回答>〔問11〕

出生率低下の要因として、特に多く挙げられているのは、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていない」次いで、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている」という回答であった。これらの回答は、全体のおよそ半数の回答者があげている。

H11調査との比較では、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」という回答は、5.5ポイント増加している。また、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていない」「家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある」等が増加する一方、「子どもを少なくして、じっくり育てたいという夫婦が増えている」「子育ての負担が母親に集中している」等が減少している。

出生率低下の原因について<複数回答>

・全体、年次比較

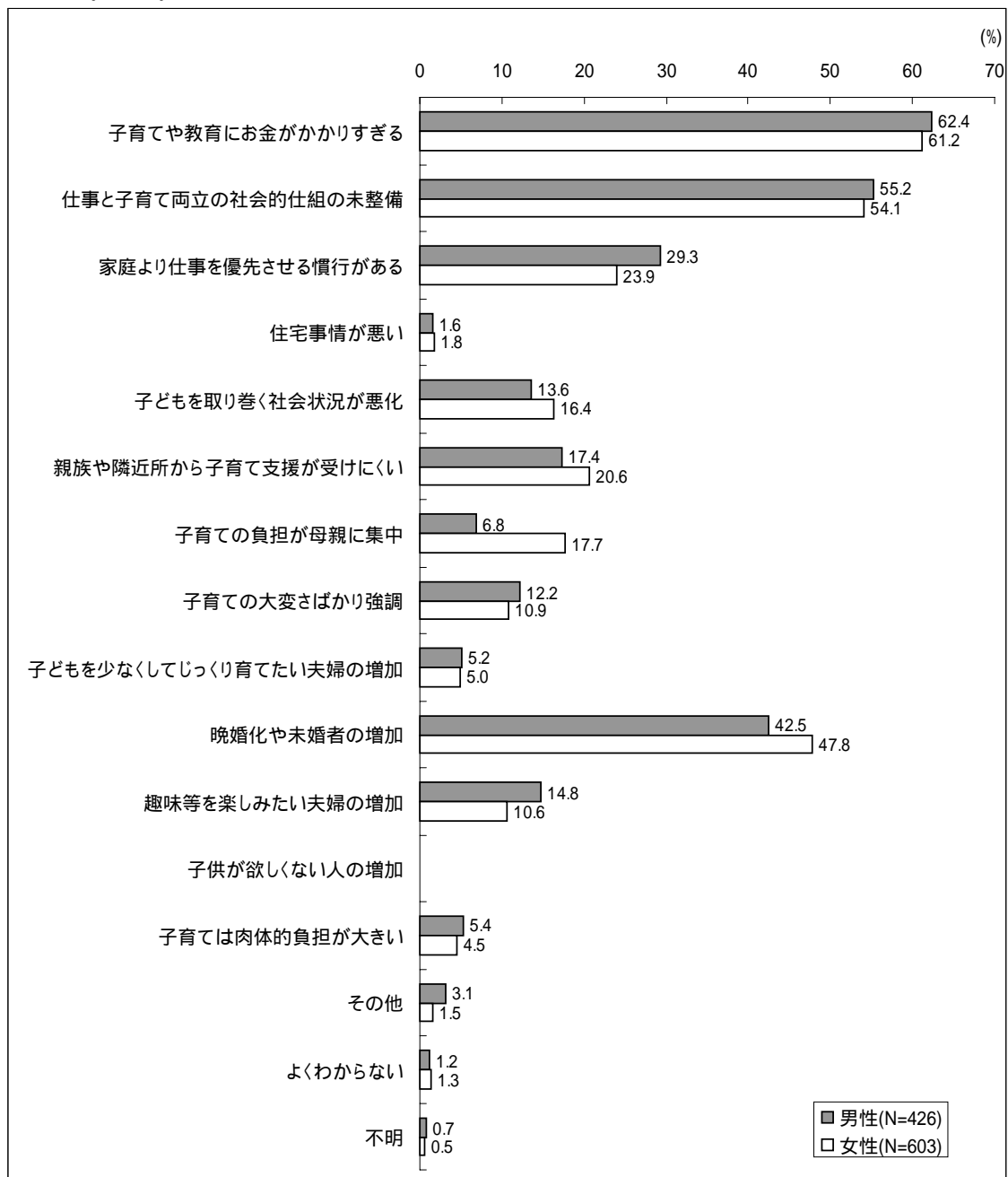


は平成11年度調査のみの選択肢、 は平成15年度調査のみの選択肢。



性別でみると、男性の方が高い割合を示す回答としては「家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある」「子どもより趣味やレジャーを楽しみたいという夫婦が増えている」、一方、女性では「子育ての負担が母親に集中している」「核家族化等により、親族や隣近所から子育てへの支援が受けにくい」「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている」等が挙げられる。

・性別（H15）



は平成11年度調査のみの選択肢、 は平成15年度調査のみの選択肢。

### 3. 結婚に対する意識

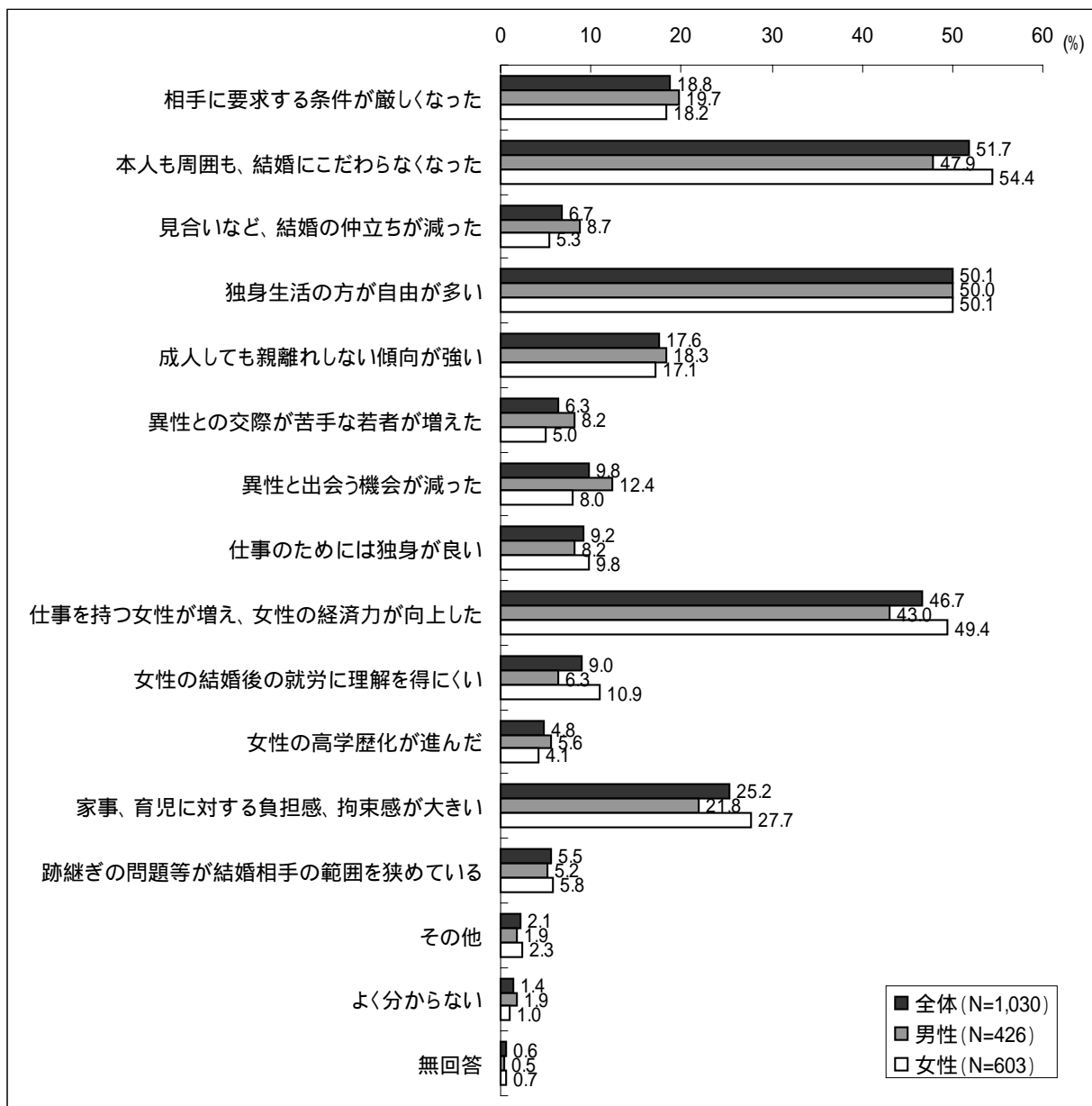
#### (1) 晩婚化、未婚化の理由<複数回答>〔問12〕

晩婚化あるいは未婚化の理由についてみると、「本人も周囲も、結婚にこだわらなくなった」「独身生活の方が自由が多い」「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」の順に多い。これらの回答は、男性よりも女性の割合が高い。

また、「家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい」「女性が結婚後も働き続けることに対し、周りの理解が得にくい」も、女性が男性での割合を大きく上回っている。

一方、「見合い等、親族による結婚の仲立ちが減った」「異性と出会う機会が少なくなった」は、男性が女性の割合を上回っている。

晩婚化、未婚化の理由<複数回答>



(2) 結婚しないで子どもを持つことについて [問13]

結婚しないで子どもを持つことについての回答を、性別、年齢、婚姻状況からみる。全体的に「本人の自由である」および「子どもは結婚後に持つほうがよい」に二分されるが、女性は、男性よりも「本人の自由である」とする回答が10%以上多い。

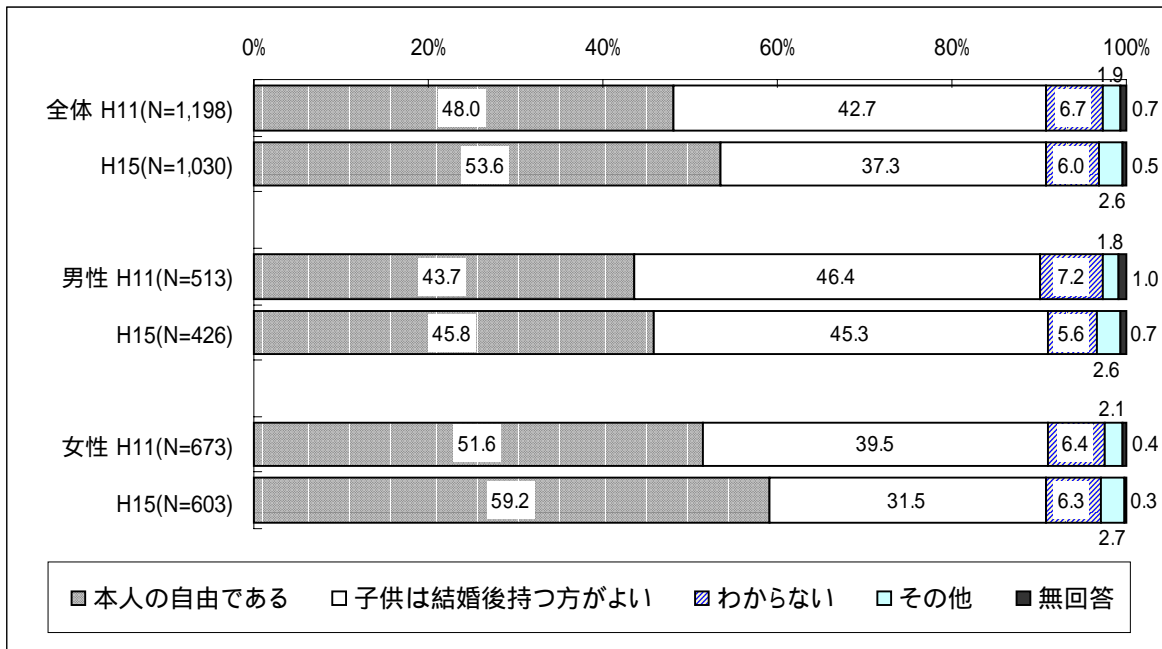
年齢別では、30歳代までは、「本人の自由である」が「子どもは結婚後に持つほうがよい」を上回るが、40歳以上では逆転する。

婚姻状況では、未婚者のほうが「本人の自由である」とする割合が高い。

H11調査との比較では、全体的に「本人の自由である」とする回答が占める割合が増加している。この傾向は、特に女性で強く表れている。年齢別にみても、この傾向は表れている。

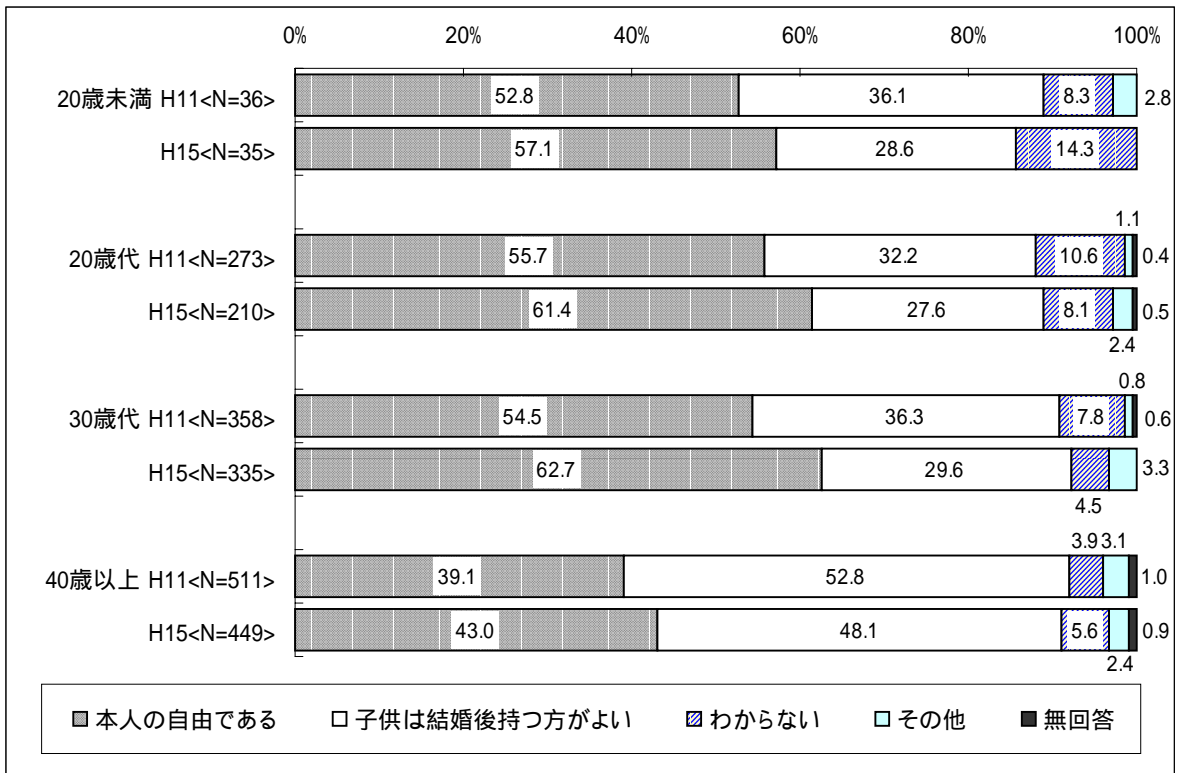
性別にみた「結婚しないで子どもを持つことについて」

・年次比較



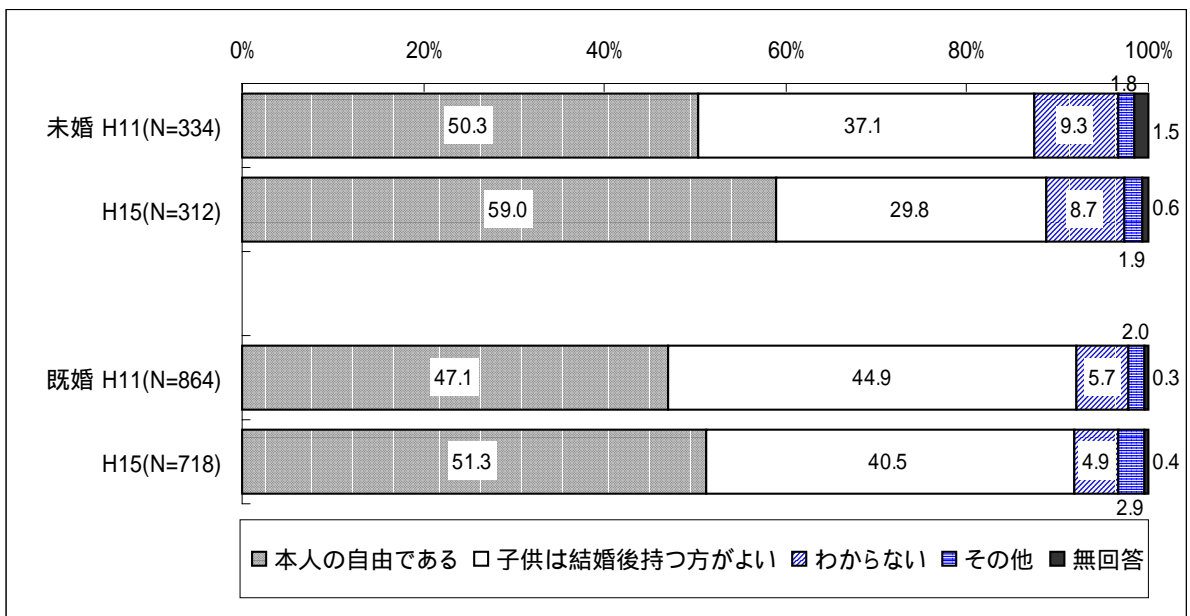
年齢別にみた「結婚しないで子どもを持つことについて」

・年次比較



婚姻状況にみた「結婚しないで子どもを持つことについて」

・年次比較



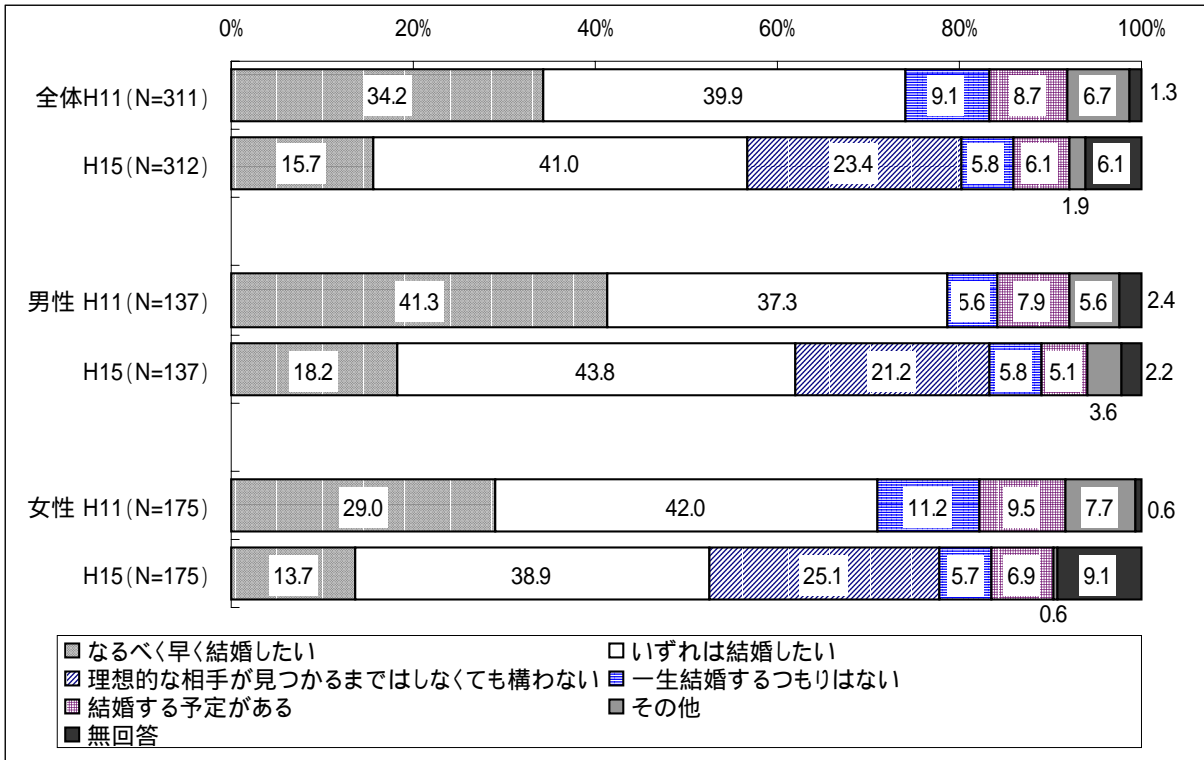
(3) 結婚に対する考え方について [問14-1]

男女ともに、「いずれは結婚したい」がおおよそ4割で最も高く、次いで、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない」がおおよそ2割であった。「一生結婚するつもりはない」は、男女ともに約6%であった。

H11調査との比較では、男女ともに「なるべく早く結婚したい」とする回答者は半減する一方、男性では「いずれは結婚したい」が増加している。

結婚についての意識（回答は未婚者のみ）

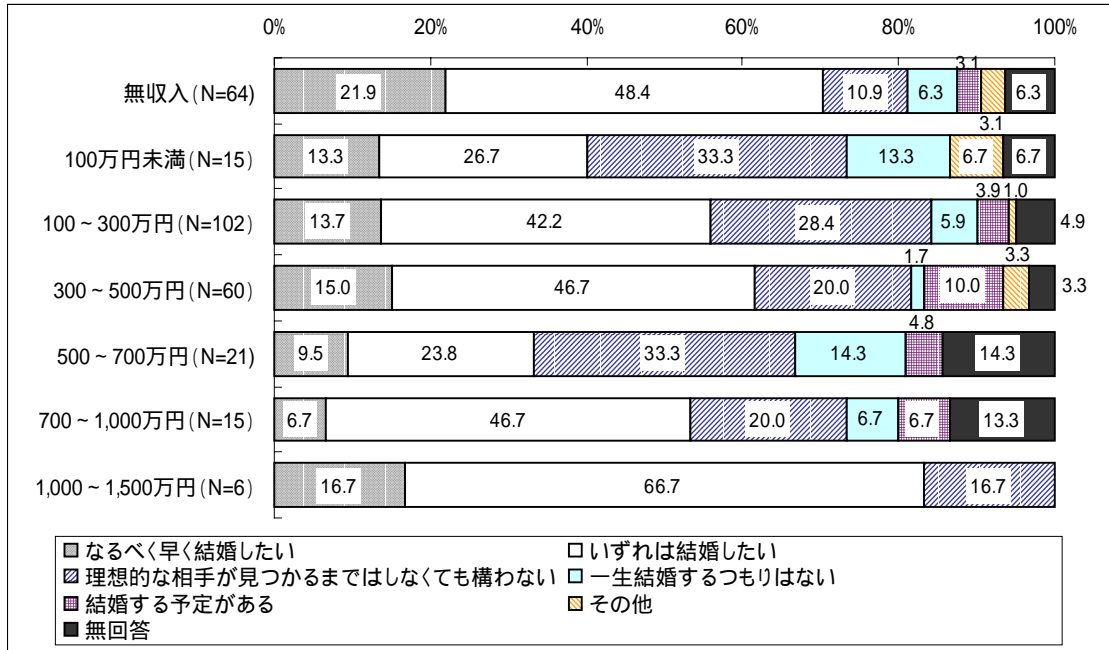
・年次比較



「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない」は15年度のみを選択肢。

年収からみた結婚についての考え方では、各グループで母数が大きく異なるので、一概にはいえないが、年収と結婚に対する考え方の間に相関はみられない。ただし、母数が多いことから回答者の平均的な年収と考えられる 100～300 万円、300～500 万円の 2 つのグループでみると、若干ではあるが、年収の額とともに「なるべく早く結婚したい」「いずれは結婚したい」等の意識が高くなっている。

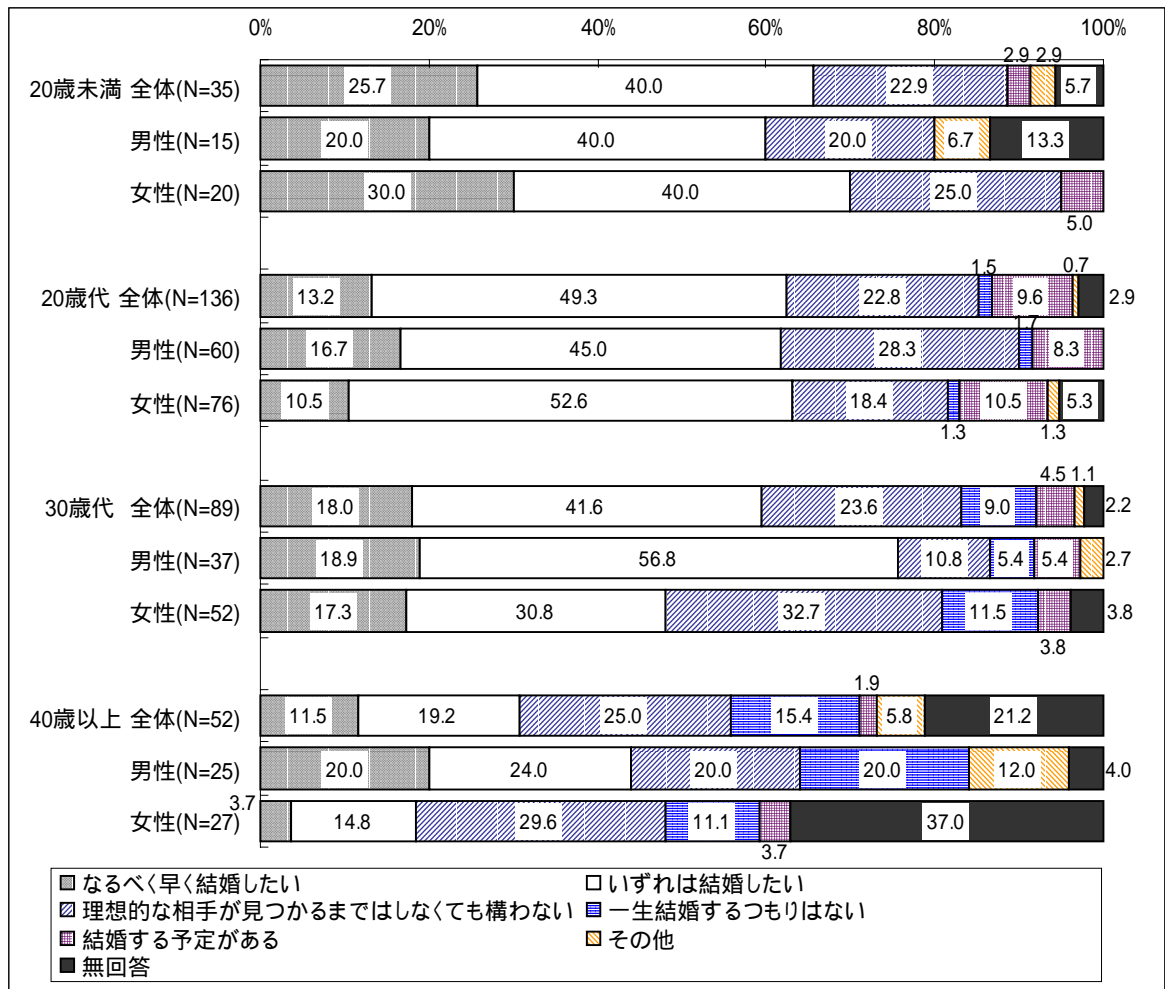
年収からみた結婚についての意識（回答は未婚者のみ）



年収が 1,500 万～2,000 万円以上のグループは当設問の該当者が 1 人であったため割愛した。

年齢別にみると、男性は20歳代より30歳代の方が「なるべく早く結婚したい」「いずれは結婚したい」という回答が占める割合が高い。一方、女性では年齢とともに「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない」が占める割合が高くなる。

性別、年齢別にみた未婚者の結婚意識

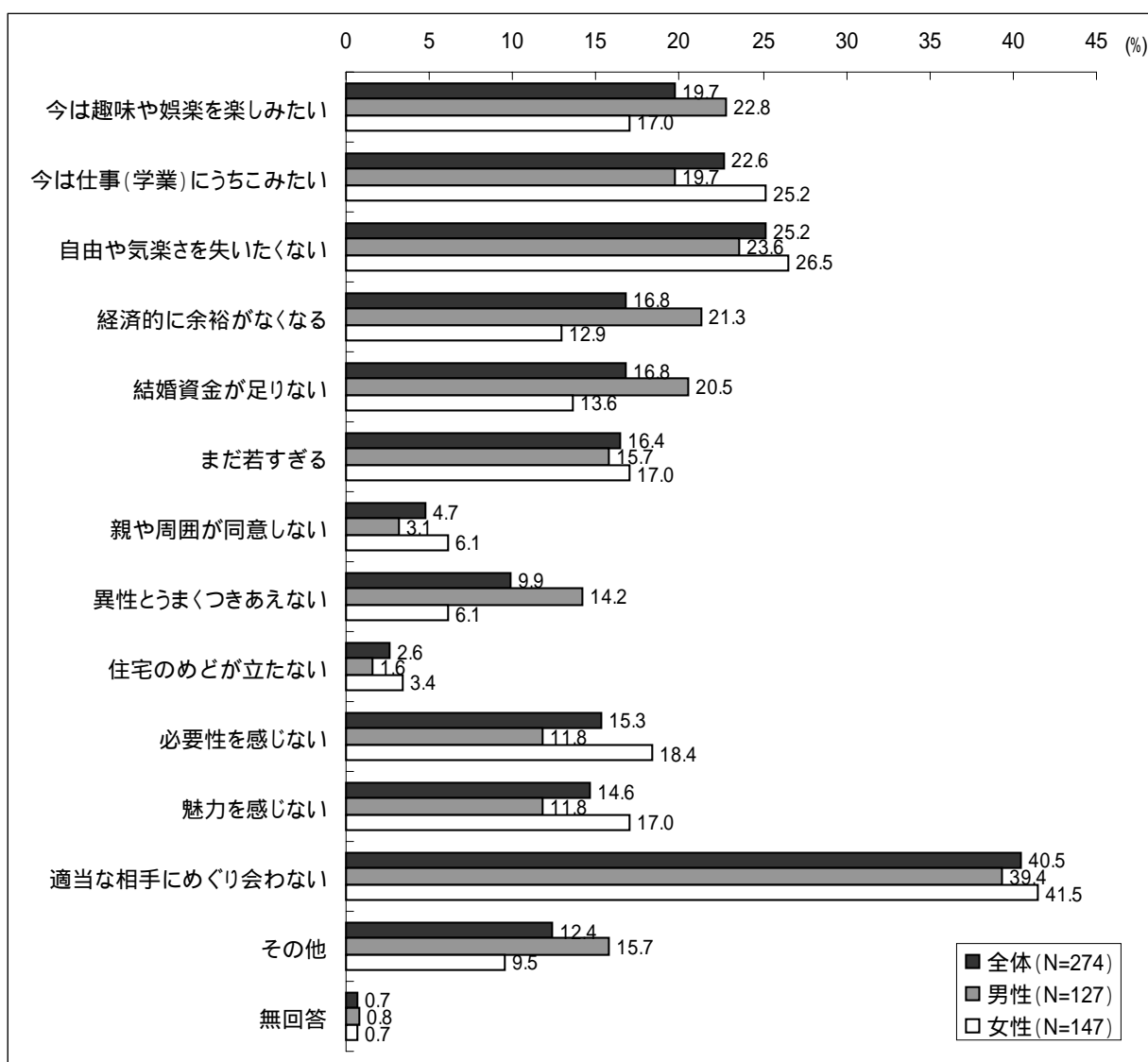


(4) 独身でいる理由<複数回答> [問14-2]

独身でいる理由として全体的に最も高いのが、「適当な相手にまだめぐりあわない」であり、男女ともおよそ4割が、この理由を挙げている。次いで、「自由や気楽さを失いたくない」「今は仕事(学業)にうちこみたい」等が挙げられている。これらの回答率は、女性の方が男性を上回っている。

また、男性が女性を大きく上回る回答は、「今は趣味や娯楽を楽しみたい(22.8%)」「経済的に余裕がなくなる(21.3%)」「結婚資金が足りない(20.5%)」「異性とうまくつきあえない(14.2%)」等である。一方、女性が男性を大きく上回る回答としては、「必要性を感じない(18.4%)」「結婚に魅力を感じない(17.0%)」等である。

独身でいる理由<複数回答>



結婚についての意識において、「なるべく早く結婚したい」、「いずれは結婚したい」、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない」、「一生結婚するつもりはない」、「その他」と回答したもののみ抽出。



年間収入から独身でいる理由をみると、年収とは明確な相関はなく、特に年収が少ない回答者グループにおいて、「経済的に余裕がなくなる」あるいは「結婚資金が足りない」という理由が必ずしも上位に挙げられているわけではない。

#### 年収からみた独身でいる理由

	無収入 <N=58>	100万円 未満 <N=14>	100万円～300 万円 <N=93>	300万円～500 万円 <N=52>	500万円～700 万円 <N=17>	700万円～ 1,000万円 <N=12>	1,000万円～ 1,500万円 <N=6>
今は趣味や娯楽を楽しみたい	10.3	21.4	19.4	28.8	11.8	8.3	50.0
今は仕事(学業)にうちこみたい	48.3	21.4	14.0	17.3	5.9	25.0	16.7
自由や気楽さを失いたくない	12.1	21.4	29.0	26.9	41.2	33.3	16.7
経済的に余裕がなくなる	15.5	21.4	18.3	17.3	11.8	8.3	16.7
結婚資金が足りない	12.1	7.1	20.4	19.2	5.9	16.7	33.3
まだ若すぎる	48.3	7.1	9.7	3.8	5.9	0.0	0.0
親や周囲が同意しない	5.2	0.0	7.5	3.8	0.0	0.0	0.0
異性とうまくつきあえない	10.3	0.0	12.9	5.8	17.6	0.0	16.7
住宅のめどが立たない	0.0	14.3	4.3	1.9	0.0	0.0	0.0
必要性を感じない	10.3	7.1	18.3	9.6	35.3	41.7	0.0
結婚に魅力を感じない	6.9	28.6	10.8	13.5	35.3	41.7	16.7
適当な相手にまだめぐり会わない	25.9	21.4	46.2	46.2	47.1	58.3	16.7
その他	13.8	7.1	12.9	7.7	17.6	0.0	16.7
不明	0.0	0.0	0.0	1.9	5.9	0.0	0.0

各年収における上位2つを網掛け。

#### 4. 子育てに対する不安、父親の育児参加

##### (1) 子育てに対する不安 [問15-1、15-2]

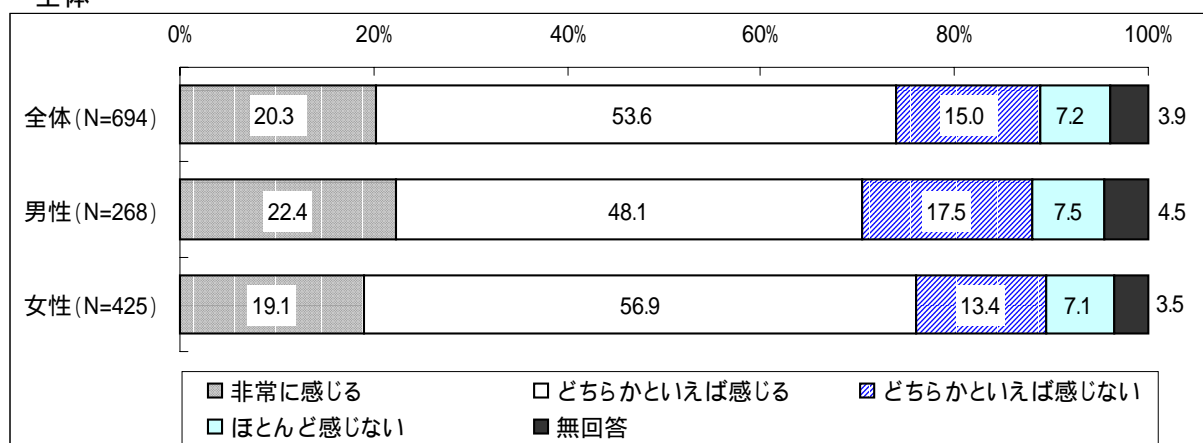
子育てに対する不安について、全体の20.3%が「非常に感じる」、53.6%が「どちらかといえば感じる」と回答しており、全体の7割以上の回答者が不安を感じているとしている。

また、この割合は男性より女性の方が高い。

夫婦就労別では、男性では「共働き」の方が、女性では「片働き」の方が、子育ての不安を「感じる」割合が高い。

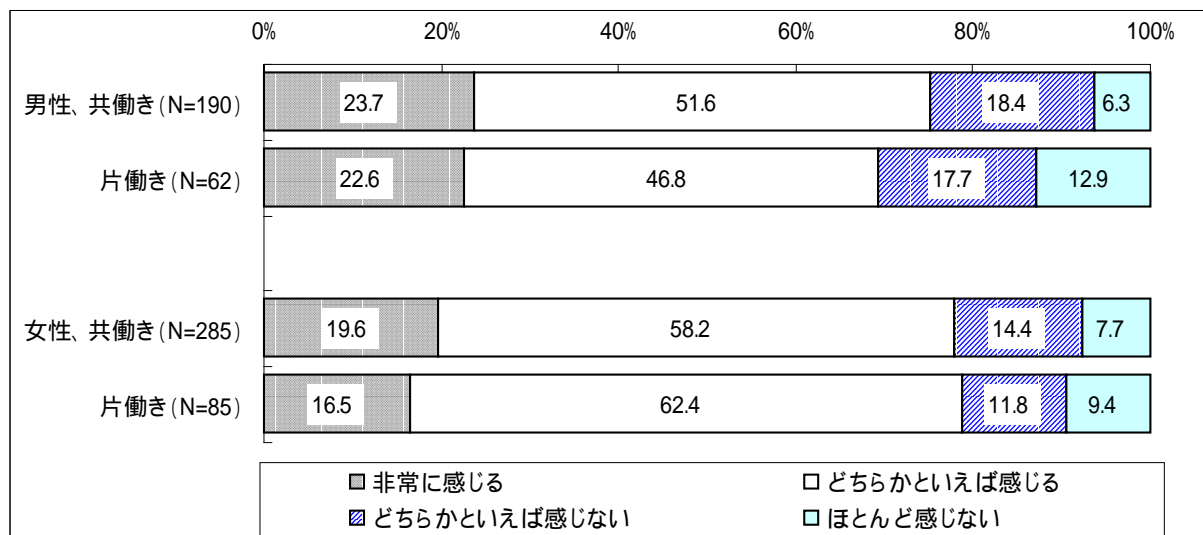
##### 子育てをするうえで、負担や不安を感じるか

###### ・全体



子どものいる回答者のみ。

###### ・性別、夫婦就労別

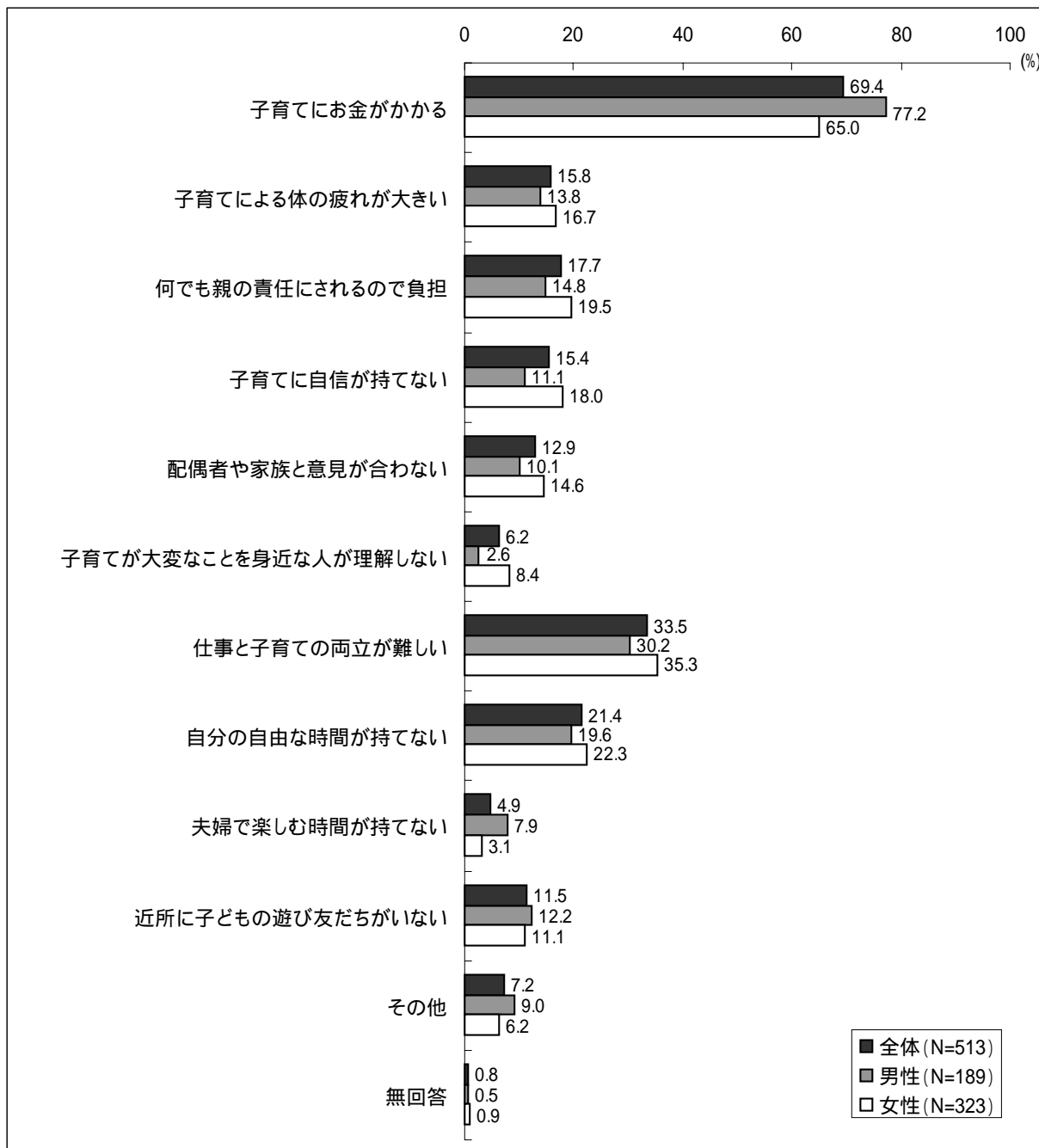


子どものいる回答者のみ、無回答を除く。

子育てに対する不安や悩みとして、7割近くの回答者が「子育てにお金がかかる」を挙げている。この回答は、男性の方が女性よりも割合が高い。次いで、「仕事と子育ての両立が難しい」「自分の自由な時間が持てない」となっており、男性よりも女性の割合が高い。

「子育てによる体の疲れが大きい」「何でも親の責任にされるので負担を感じる」「子育てが大変なことを配偶者、家族等身近な人が理解したり、協力してくれない」等、子育てに対する負担、子育てへの周りの理解等に関する不安を示す回答では、女性の方が男性よりも割合が特に高い。

子育てに対する負担や不安 <複数回答>



子どものいる回答者のみ。

年間収入から子育てに対する不安や悩みをみると、年収が100万円～500万円の回答者において、「子育てにお金がかかる」とする回答が、他の回答者グループよりも占める割合が高い。

#### 年収からみた子育てに対する不安や悩み

	無収入 <N=3>	100万円 未満 <N=11>	100万円～ 300万円 <N=67>	300万円～ 500万円 <N=121>	500万円～ 700万円 <N=116>	700万円～ 1,000万円 <N=88>	1,000万円～ 1,500万円 <N=43>	1,500万円～ 2,000万円 <N=5>
子育てにお金がかかる	66.7	63.6	73.1	82.6	65.5	60.2	65.1	60.0
子育てによる体の疲れが大きい	33.3	18.2	14.9	13.2	15.5	17.0	14.0	40.0
何でも親の責任にされるので負担	0.0	18.2	23.9	18.2	17.2	14.8	9.3	60.0
子育てに自信が持てない	0.0	18.2	11.9	10.7	14.7	20.5	14.0	0.0
配偶者や家族と意見が合わない	0.0	9.1	11.9	8.3	19.8	9.1	14.0	20.0
子育てが大変なことを身近な人が理解しない	33.3	9.1	13.4	4.1	6.0	6.8	2.3	0.0
仕事と子育ての両立が難しい	0.0	36.4	29.9	30.6	32.8	40.9	44.2	0.0
自分の自由な時間が持てない	66.7	18.2	14.9	24.0	20.7	23.9	18.6	0.0
夫婦で楽しむ時間が持てない	0.0	0.0	3.0	6.6	2.6	3.4	9.3	0.0
近所に子どもの遊び友だちがいない	0.0	9.1	9.0	14.9	12.1	13.6	4.7	0.0
その他	0.0	18.2	3.0	6.6	8.6	8.0	11.6	20.0
不明	0.0	0.0	0.0	0.8	0.9	0.0	2.3	0.0

各年収における上位2つを網掛け。

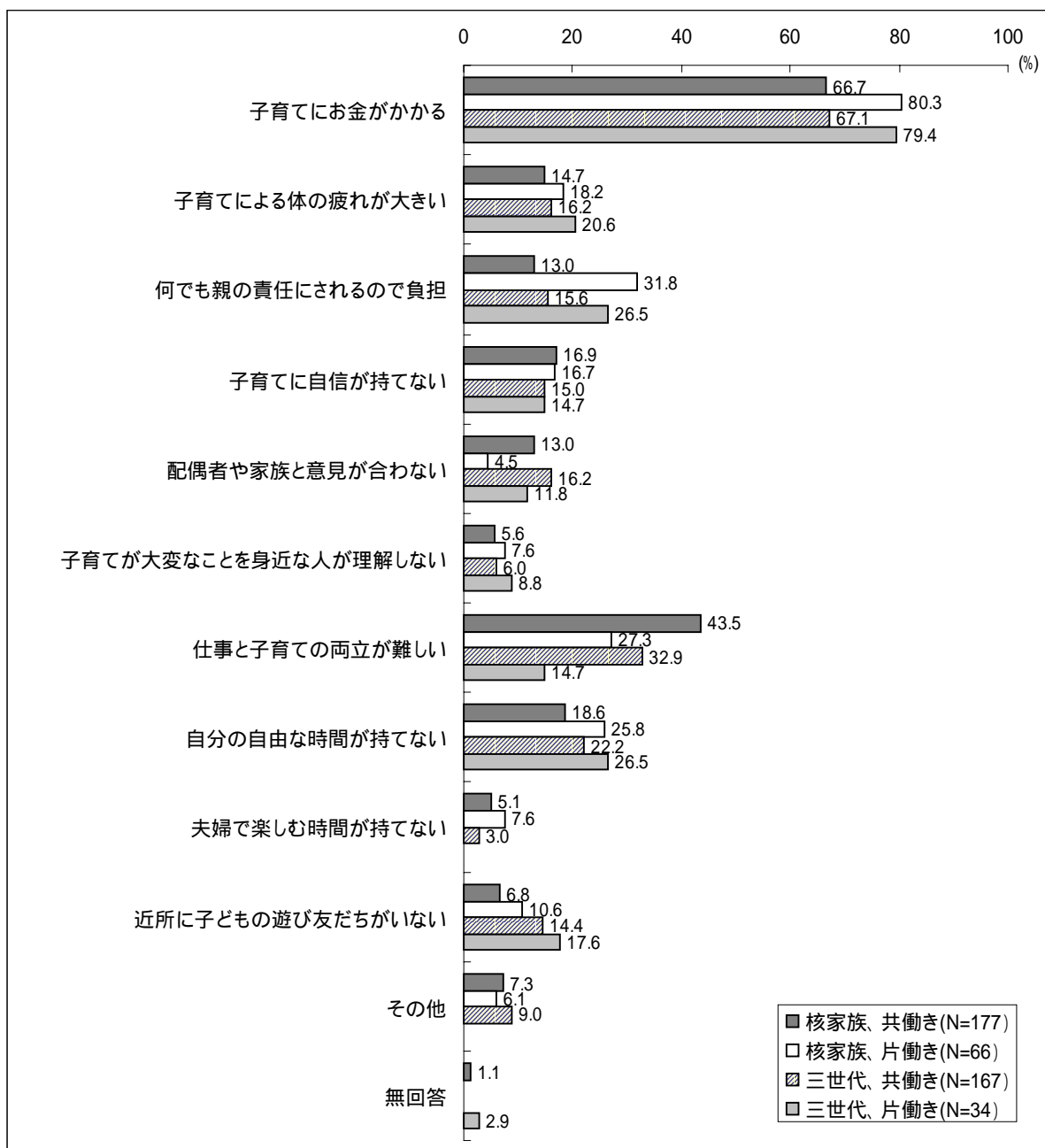
年収が2,000万円以上のグループは当設問の該当者が1人であったため、この表では割愛した。

世帯構造および夫婦就労状況でみると、全体で最も高い割合を示す「子育てにお金がかかる」は、「片働き」の世帯で特に多い。この他、「片働き」の世帯が「共働き」の世帯よりも割合が高い回答としては「何でも親の責任にされるので負担を感じる」「自分の自由な時間が持てない」等の回答である。

一方、「共働き」の世帯で高いのは「仕事と子育ての両立が難しい」という回答である。この回答は「核家族」の世帯の方が「三世代家族」の世帯よりも占める割合が高い。

また、夫婦就労状況にかかわらず、「核家族」の世帯が「三世代家族」の世帯よりも高い割合を示す回答として「子育てに自信が持てない」、逆に「三世代家族」の世帯が高い回答としては「近所に子どもの遊び友だちがいない」という回答である。

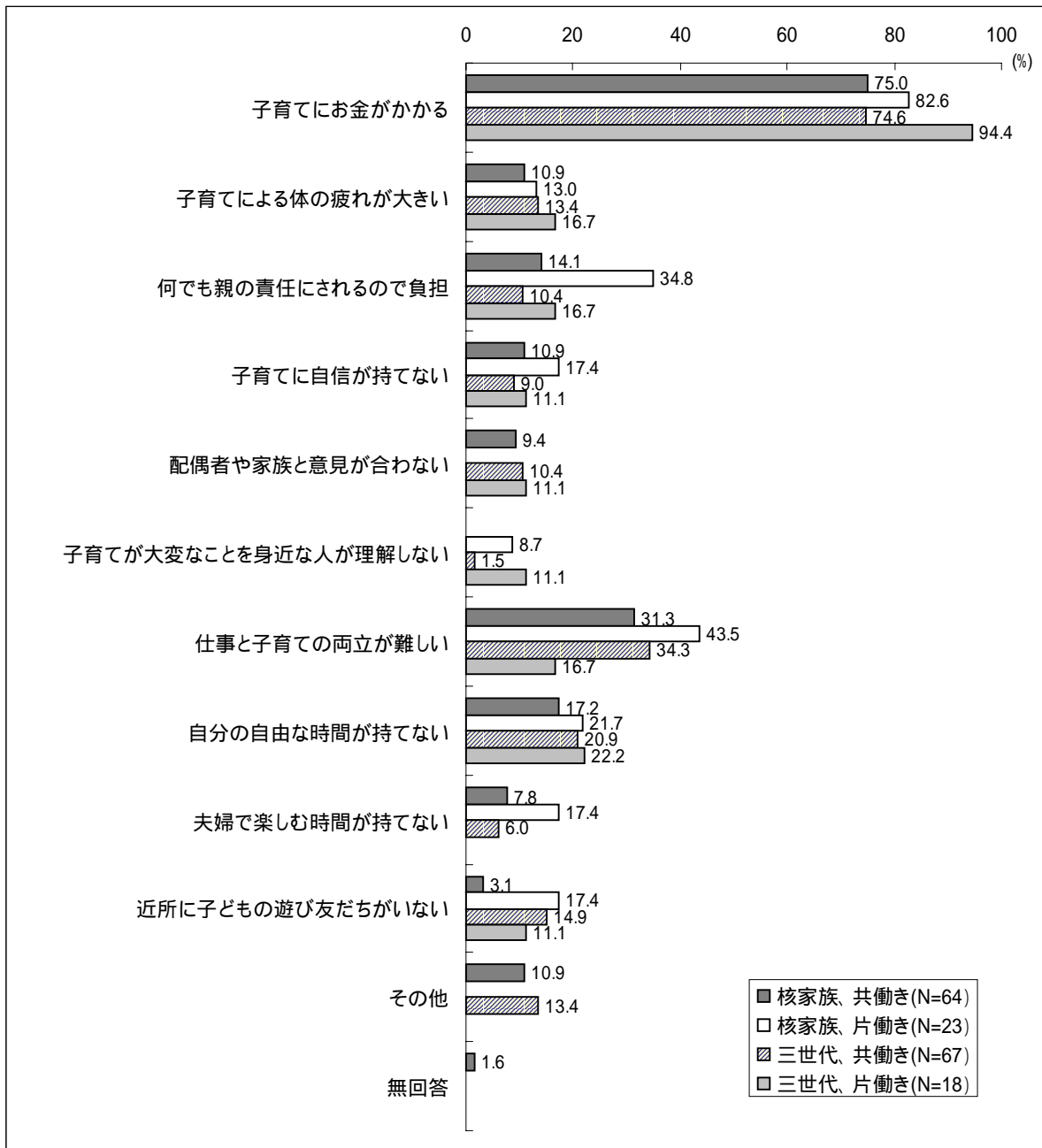
### 世帯構造別、夫婦就労状況からみた子育ての不安や悩み



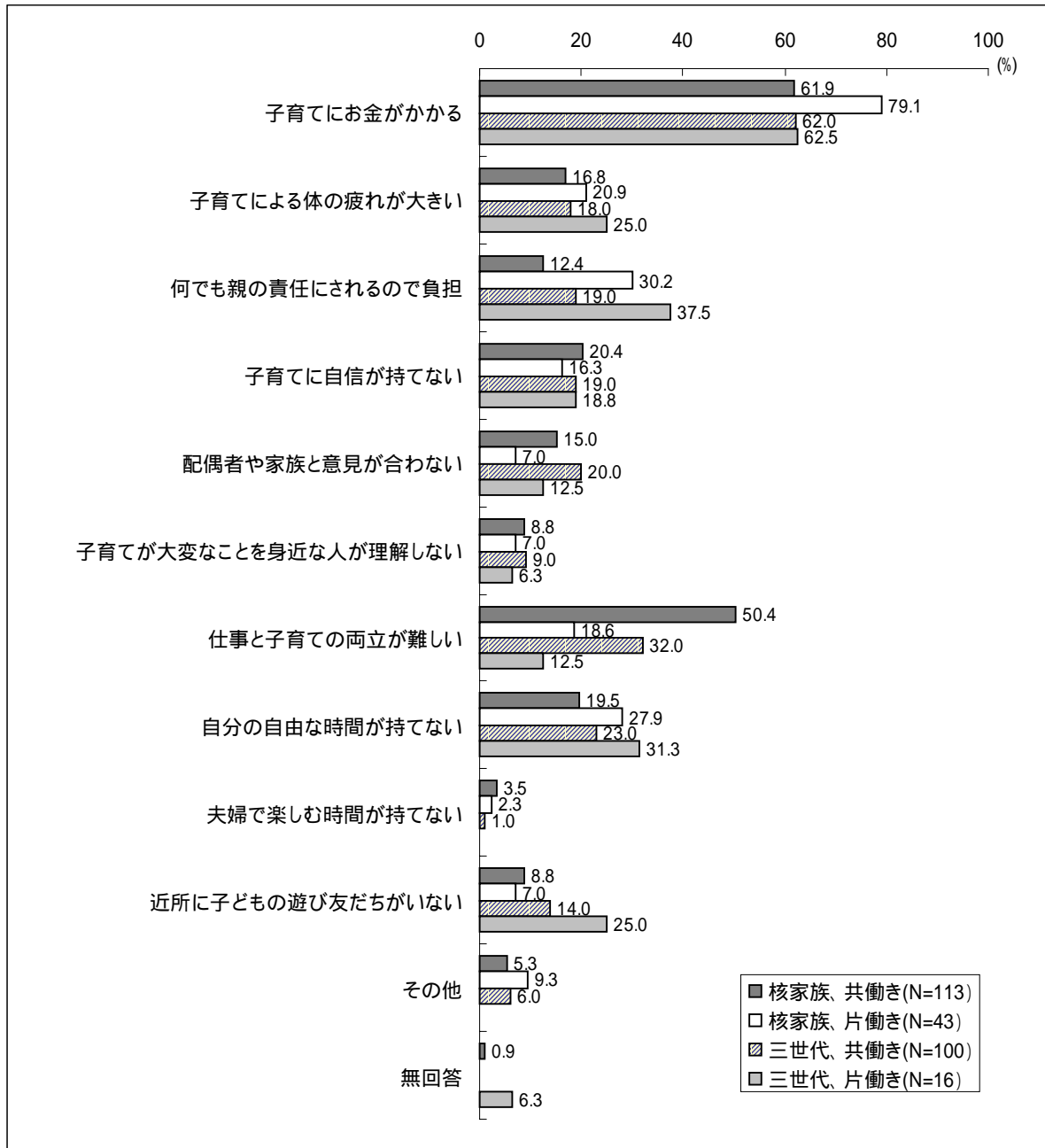
同様に世帯構造および夫婦就労状況で性別にみると、男性では、「三世代・片働き」の世帯で「子育てにお金がかかる」が、また、「核家族・片働き」の世帯で、「何でも親の責任にされるので負担を感じる」「仕事と子育ての両立が難しい」の割合が特に高い。一方、女性では、「核家族・片働き」の世帯で「子育てにお金がかかる」が、また、「核家族・共働き」の世帯で「仕事と子育ての両立が難しい」が特に割合が高くなる。

性別、世帯構造別、夫婦就労状況からみた子育ての不安や悩み

・男性



・女性



第1子の年齢別にみると、子どもの年齢に関わらず「子育てにお金がかかる」「仕事と子育ての両立が難しい」が共通して多い。また、第1子の年齢が高くなるにつれて「自分の自由な時間が持てない」という回答の割合が低くなる。

「子育てに自信がない」と感じているのは、第1子の年齢が7歳～18歳の回答者で多い。

性別にみると、男性が女性の率を大きく上回るのは、第1子の年齢が13歳以上で「子育てにお金がかかる」、7～12歳及び19歳以上で「夫婦で楽しむ時間が持てない」であった。

一方、女性が男性を大きく上回るのは、第1子の年齢が7～12歳で「何でも親の責任にされるので負担」、13～18歳で「子育てに自信が持てない」、19歳以上で「子育てが大変なことを身近な人が理解しない」「仕事と子育ての両立が難しい」である。

#### 第1子の年齢別にみた子育ての不安や悩み

##### ・全体

(単位：%)

	0～6歳 (N=128)	7～12歳 (N=133)	13～18歳 (N=116)	19歳以上 (N=134)
子育てにお金がかかる	68.0	65.4	71.6	72.4
子育てによる体の疲れが大きい	25.8	12.0	10.3	14.2
何でも親の責任にされるので負担	7.8	21.8	19.0	22.4
子育てに自信が持てない	10.9	21.1	17.2	12.7
配偶者や家族と意見が合わない	7.0	12.8	13.8	17.9
子育てが大変なことを身近な人が理解しない	2.3	9.0	6.0	7.5
仕事と子育ての両立が難しい	41.4	26.3	31.9	34.3
自分の自由な時間が持てない	30.5	25.6	17.2	12.7
夫婦で楽しむ時間が持てない	10.9	4.5	0.9	3.0
近所に子どもの遊び友だちがいない	12.5	17.3	7.8	8.2
その他	5.5	10.5	7.8	5.2
無回答	0.0	0.8	0.9	1.5

各年齢における上位5つを網掛け。

##### ・性別

(単位：%)

	0～6歳		7～12歳		13～18歳		19歳以上	
	男性 (N=54)	女性 (N=74)	男性 (N=55)	女性 (N=78)	男性 (N=43)	女性 (N=73)	男性 (N=36)	女性 (N=97)
子育てにお金がかかる	70.4	66.2	67.3	64.1	86.0	63.0	91.7	66.0
子育てによる体の疲れが大きい	27.8	24.3	10.9	12.8	7.0	12.3	5.6	16.5
何でも親の責任にされるので負担	9.3	6.8	12.7	28.2	16.3	20.5	25.0	21.6
子育てに自信が持てない	7.4	13.5	18.2	23.1	9.3	21.9	8.3	14.4
配偶者や家族と意見が合わない	7.4	6.8	10.9	14.1	11.6	15.1	11.1	20.6
子育てが大変なことを身近な人が理解しない	3.7	1.4	3.6	12.8	2.3	8.2	0.0	10.3
仕事と子育ての両立が難しい	42.6	40.5	21.8	29.5	32.6	31.5	22.2	38.1
自分の自由な時間が持てない	25.9	33.8	20.0	29.5	18.6	16.4	11.1	12.4
夫婦で楽しむ時間が持てない	11.1	10.8	9.1	1.3	2.3	0.0	8.3	1.0
近所に子どもの遊び友だちがいない	14.8	10.8	18.2	16.7	7.0	8.2	5.6	9.3
その他	7.4	4.1	16.4	6.4	4.7	9.6	5.6	5.2
無回答	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	1.4	0.0	2.1

男女の差が5.0%以上のもので多い方を網掛け。

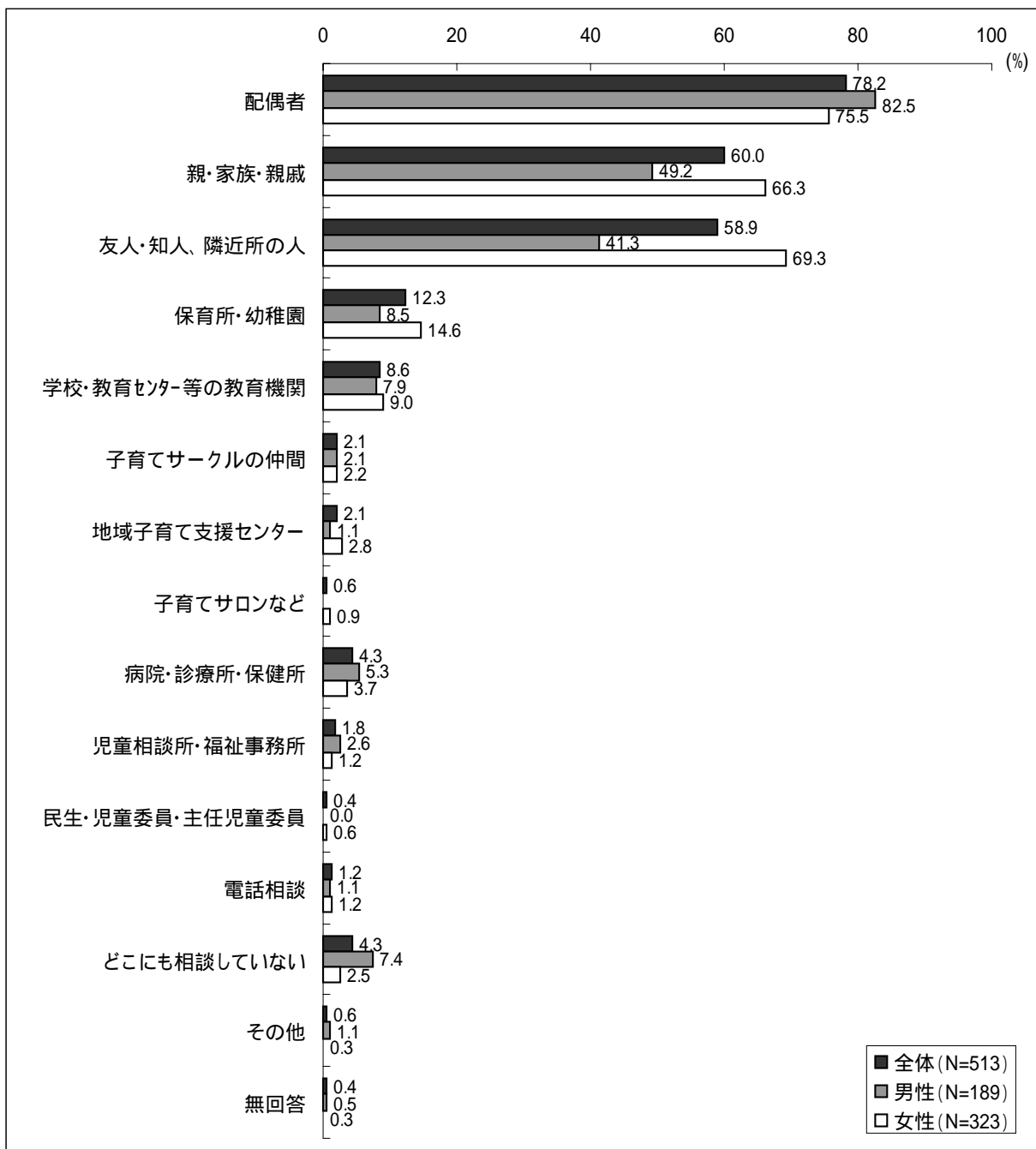


(2) 子育てに関する不安や悩みの相談先<複数回答> [問15-3]

全体で8割近くの回答者が「配偶者」を挙げている。これは男女ともに同様の結果であった。次いで「親・家族・親戚」「友人・知人」である。男女ともに、この3つの回答にほぼ集中しているが、グラフが示すように、女性では、この3つの回答のそれぞれの割合がほぼ同様であり、男性よりも色々な人に相談している傾向がうかがえる。

「どこにも相談していない」という回答は男性の方が占める割合が高い。

子育てに関する不安や悩みの相談先<複数回答>



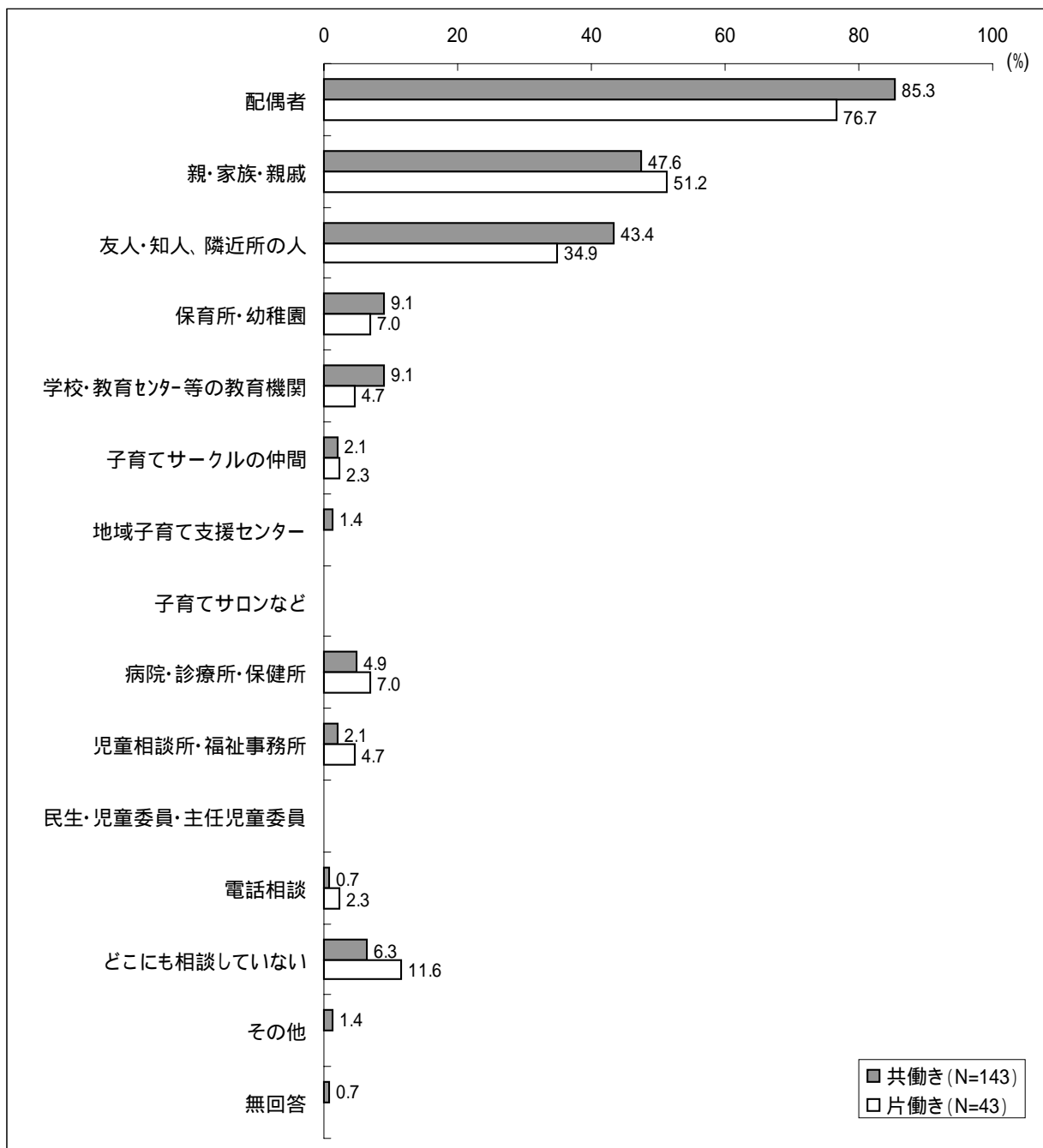
子どものいる回答者のみ。

夫婦就労状況からみた子育てに関する不安や悩みの相談先について、男性では「配偶者」「友人・知人、隣近所の人」「学校、教育センター等の教育機関」が「共働き」で高く、「親・家族・親戚」「どこにも相談していない」は「片働き」で高い。

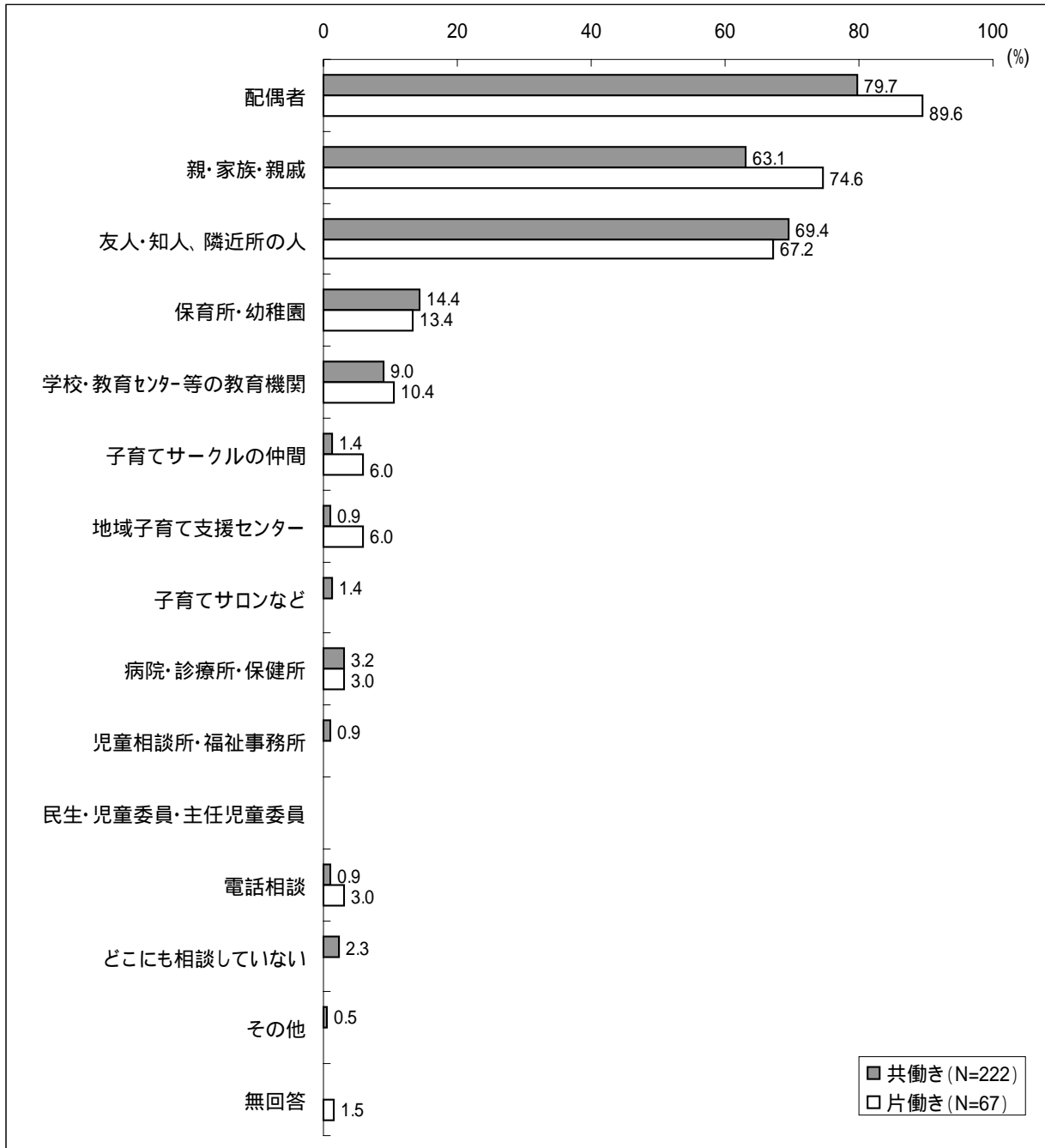
一方、女性では、「配偶者」「親・家族・親戚」「子育てサークルの仲間」「地域子育て支援センター」が「片働き」で高く、「友人・知人、隣近所の人」「どこにも相談していない」は「共働き」で高い。

性別、夫婦就労状況からみた子育てに関する不安や悩みの相談先 複数回答

・男性



・女性



(3) 幼い子どもを連れて外出する際の不安や困ること<複数回答> [問16]

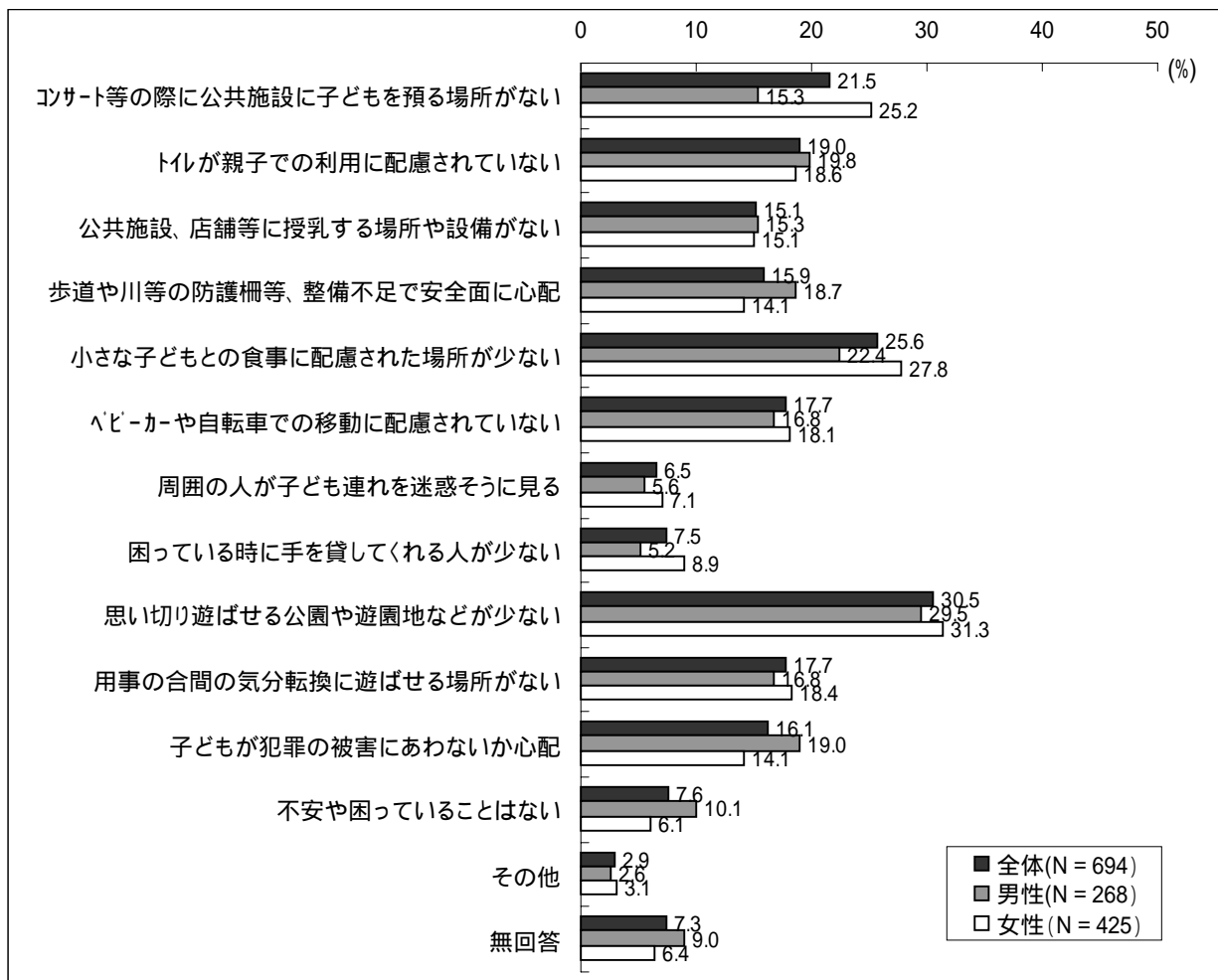
最も高い割合を示すのは、「子どもを思いきり遊ばせることができる公園や遊園地等が少ない」であり、次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所が少ない」である。

男性が女性より高いのは、「歩道や信号の整備不足、川や溝の防護柵未整備等、安全面に心配がある」「暗い通りや見通しのきかない所が多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配」という回答であった。

一方、女性が男性より高いのは、「小さな子どもとの食事に配慮された場所が少ない」「コンサートや講演会等の際に公共施設に子どもを預けられる場所がない」等である。

また、「不安や困っていることはない」と回答している女性は6.1%であるのに対し、男性は10.1%であった。

幼い子どもを連れて外出する際の不安や困ること<複数回答>



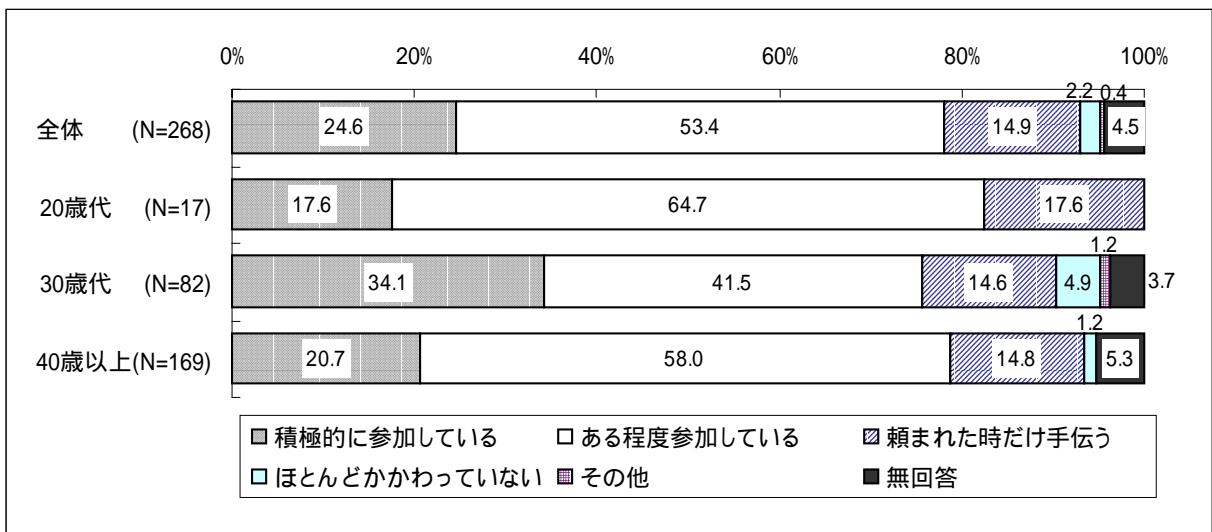
(4) 父親の育児参加について [問17-1、17-2]

父親本人および配偶者の年齢別にみると、男性（回答者本人）では、各年代ともに「積極的ではないが、ある程度は参加している」という回答が最も割合が高い。30歳代では、「積極的に参加している」という回答が他の年代に比べて高い。

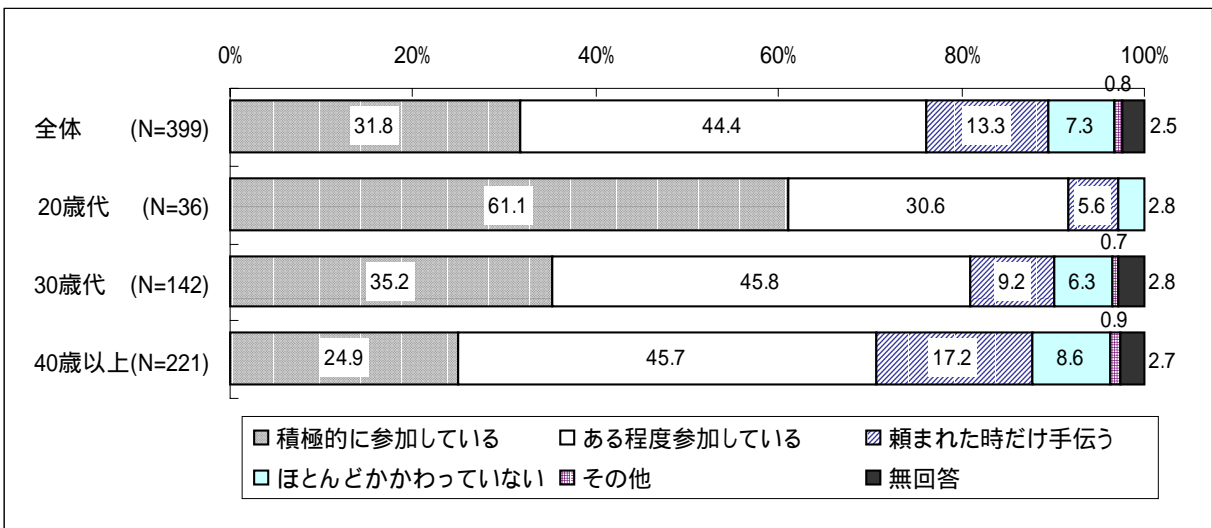
一方、女性（回答者の夫に対する評価）では各年代ともに、男性（回答者本人）よりも「積極的に参加している」「積極的ではないが、ある程度は参加している」と評価している割合が高い。ただし、年齢とともに、「頼まれた時だけ手伝う」あるいは「ほとんどかかわっていない」という割合が高くなる傾向にある。

父親の育児参加度

・男性（回答者本人の年齢別）



・女性（回答者の夫の年齢別）

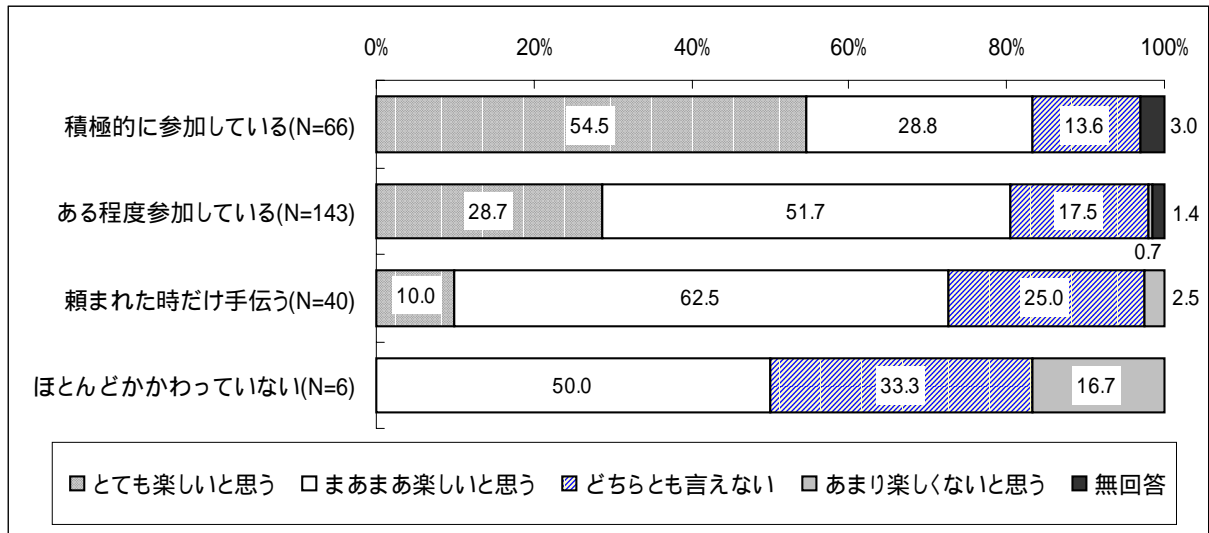


育児の楽しさについて、父親本人および配偶者の参加度からみると、男性(回答者本人)では、育児に「積極的に参加している」という回答者の半数以上が、育児を「とても楽しいと思う」と回答している。

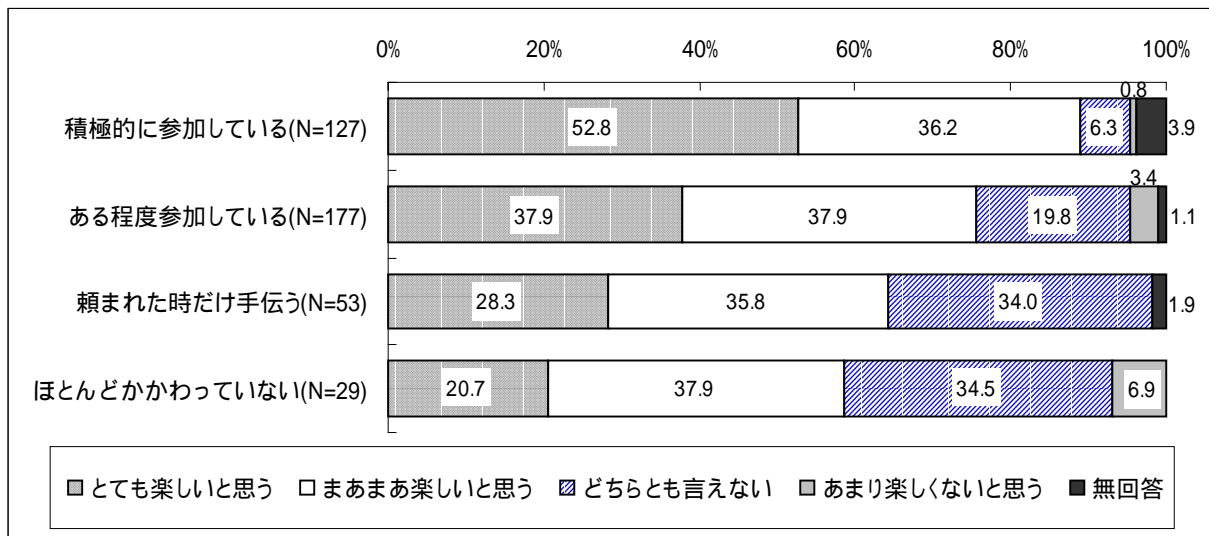
また、女性は、配偶者の育児への参加度が高いほど、自分自身の育児の楽しさが高い傾向にある。

### 父親の育児参加度からみた子育ての楽しさ

#### ・男性(回答者本人の育児参加度別)



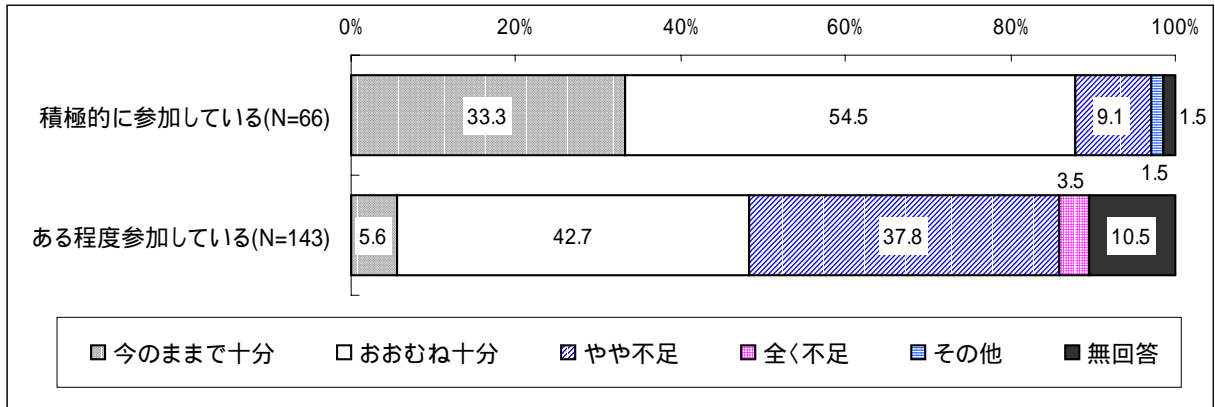
#### ・女性(回答者の配偶者の育児参加度別)



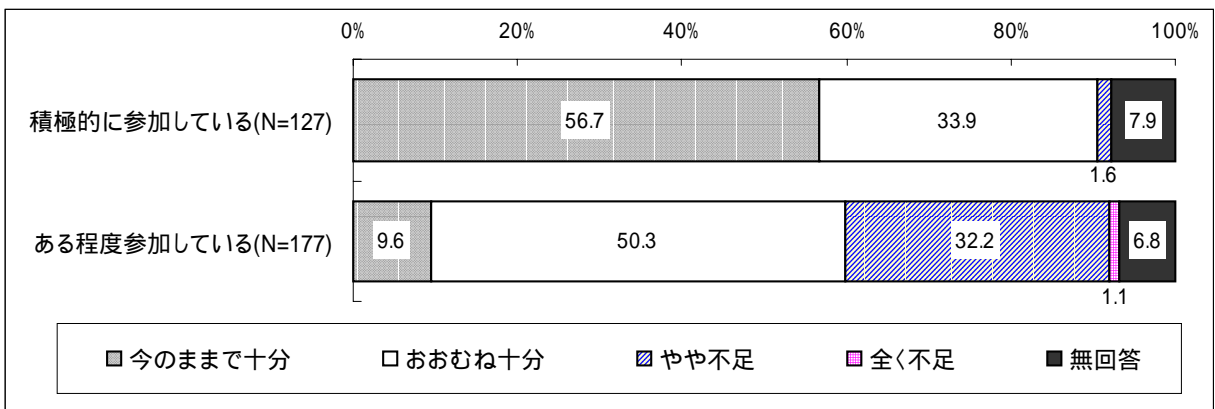
父親の育児参加度とその評価については、男性（回答者本人）、女性（回答者の夫）の評価ともに同様の傾向を示しているが、やや女性の夫に対する評価の方が高い。

### 父親の育児参加度とその評価

#### ・男性（回答者本人の育児参加度の評価）



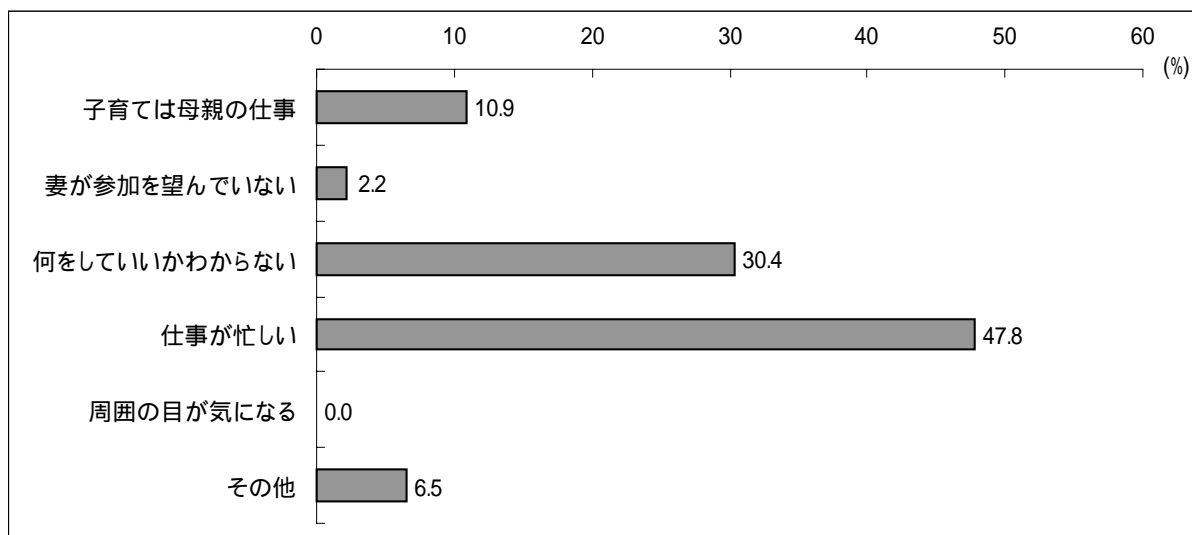
#### ・女性（回答者の夫の育児参加度の評価）



(5) 子育てに関わらない理由 [問17-3]

育児参加に消極的な父親の、子育てに関わらない理由としては、「仕事が忙しい」がおよそ半数を占めており、次いで高いのは、「何をしたいかわからない」である。

子育てに関わらない理由



父親の育児参加において、「頼まれた時だけ手伝う」または「ほとんど関わらない」と回答した男性のみ < N=46 >。

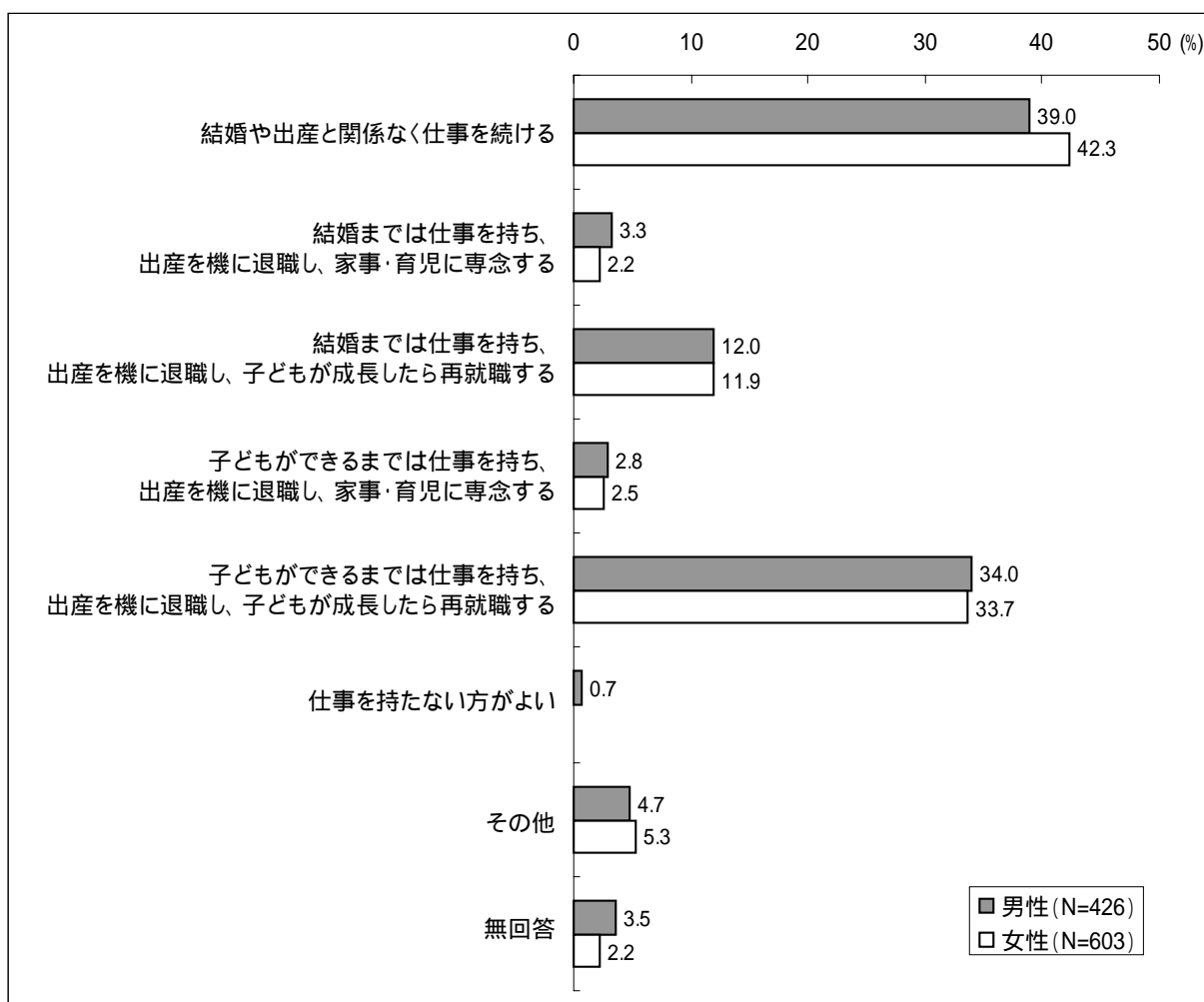


## 5. 女性の子育てと仕事

### (1) 女性の就業のあり方 [問8]

婚姻や出産に関わる女性の就業のあり方については、男女ともに「結婚や出産と関係なく仕事を続ける」および「子どもができるまでは仕事をもち、出産を機に退職し、子どもが成長した後に再就職する」という2つの回答に集中している。他の回答についても男女差はほとんどない。

女性の就業のあり方

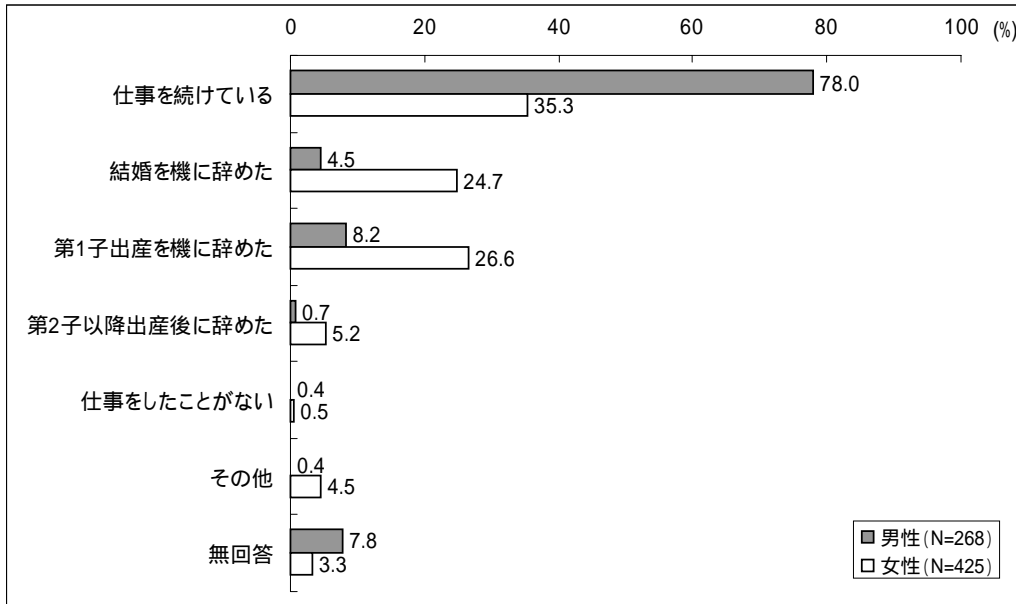


(2) 結婚、出産と仕事について [問18-1、18-2、18-3]

結婚、出産と仕事の関係について、女性は、「仕事を続けている」「結婚を機に仕事を辞めた」および「第1子出産を機に仕事を辞めた」がそれぞれ約30%程度であった。一方、男性の約80%は、結婚、出産に関わらず仕事を続けている。

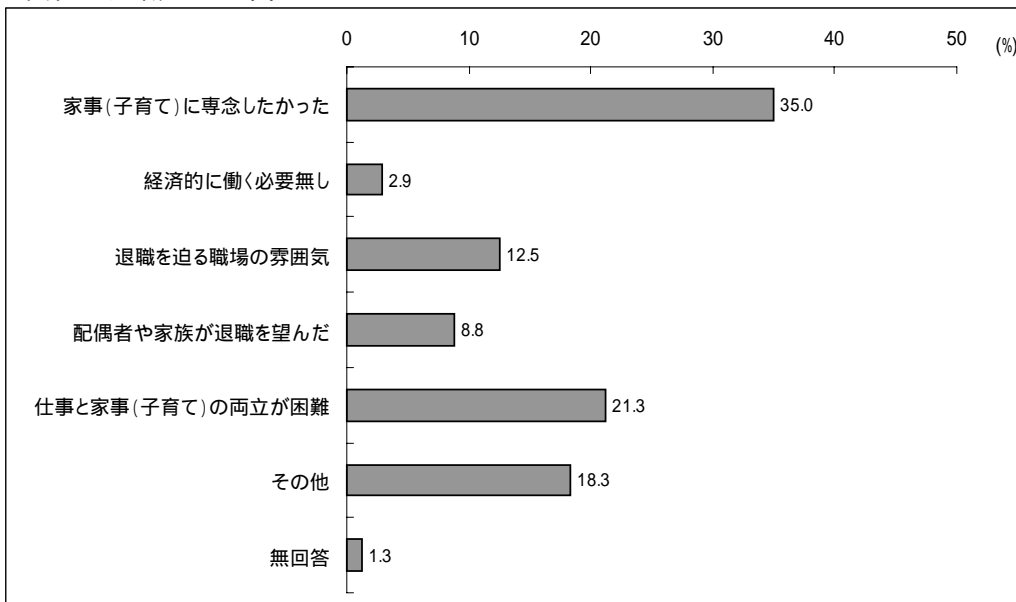
女性の退職した理由としては、35.0%が「家事(子育て)に専念したかった」を挙げている。次いで高いのは、「仕事と家事(子育て)の両立が困難だった」の21.3%である。

結婚、出産を機に退職した経験



子どものいる回答者のみ。

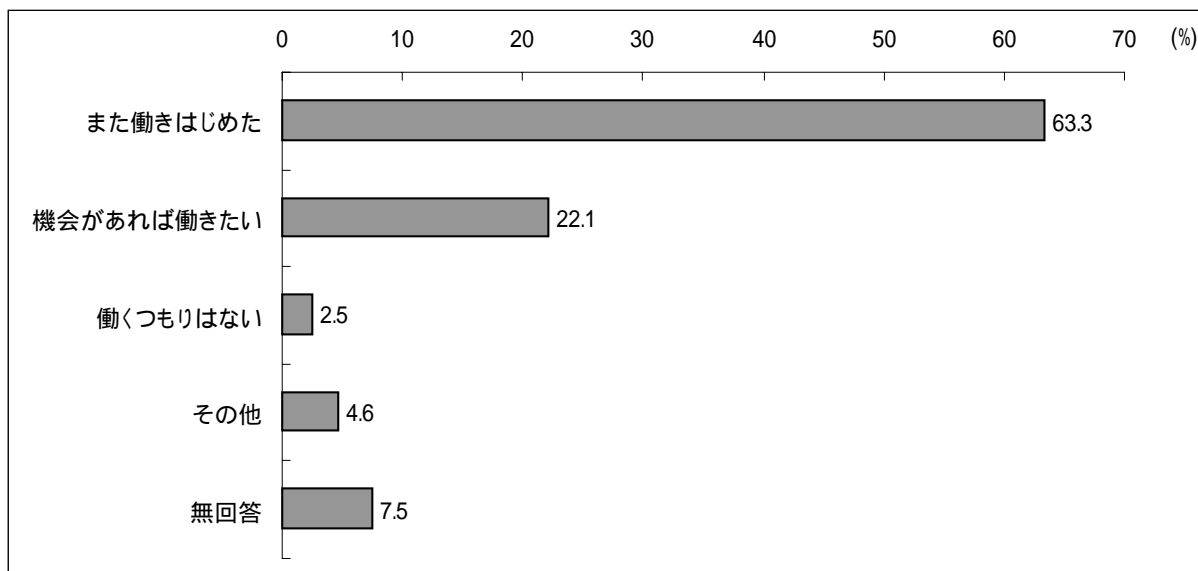
女性の退職した理由



結婚、出産を機に退職したかという設問において、「結婚を機に退職した」または「出産を機に退職した」と答えた女性のみ < N = 240 >。

女性のおよそ6割が結婚あるいは出産による退職の後、再就職しており、また、およそ2割が「機会があれば働きたい」と回答している。

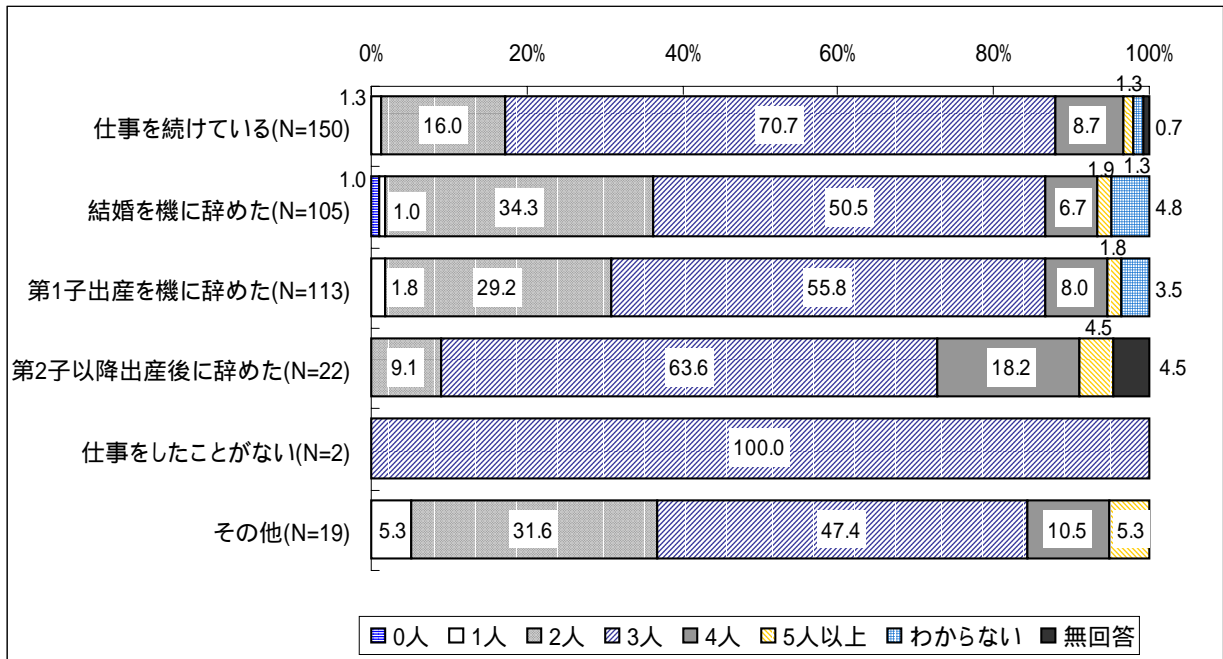
#### 女性の再就職について



結婚、出産を機に退職したかにおいて、「結婚を機に退職した」または「出産を機に退職した」と答えた女性のみ < N = 240 >。

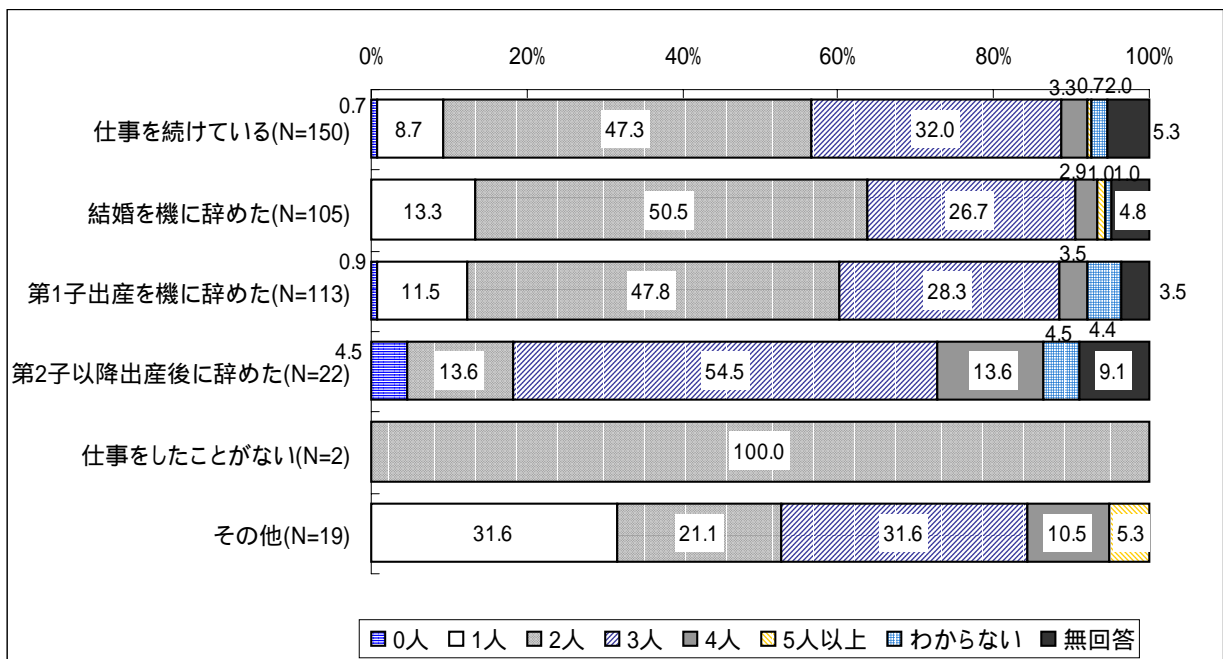
女性における出産、結婚による退職経験から理想子ども数を見ると、全体的に「3人」と回答する割合が高い。また、この回答が最も多くを占めるのは「仕事を続けている」回答者である。

#### 出産、結婚による退職経験からみた理想の子ども数（女性）



同様に、女性における出産、結婚による退職経験から予定子ども数を見ると、全体的に、予定の子ども数は「2人」と回答する割合が高いが、「第2子以降出産後に辞めた」回答者では、予定子ども数を「3人」以上とする回答がおよそ7割を占める。

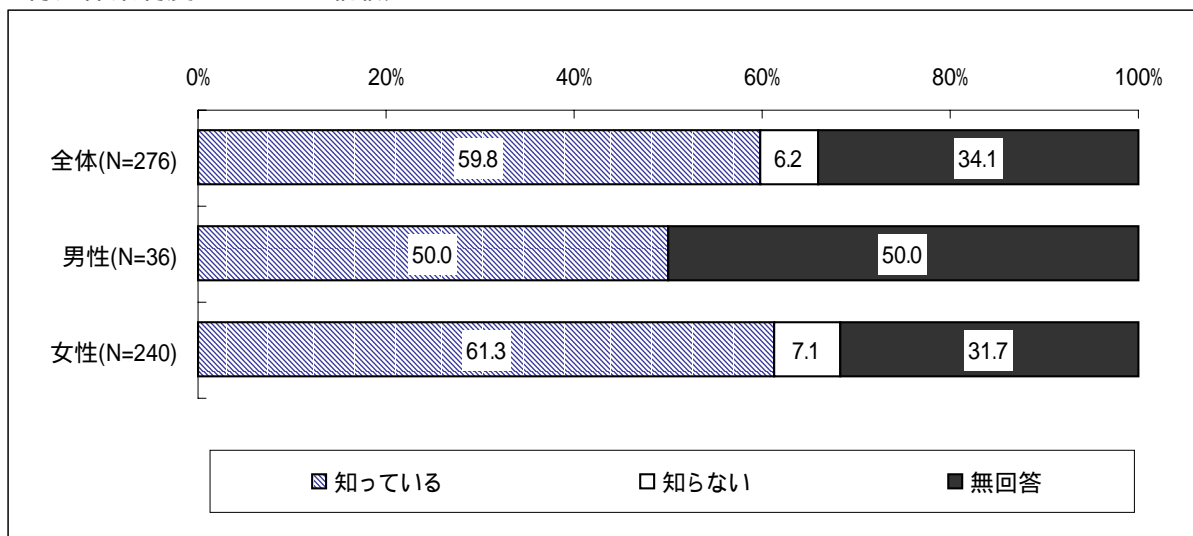
#### 出産、結婚による退職経験からみた予定子ども数（女性）



(3) 育児休業について〔問19-1、19-2、19-3、19-4〕

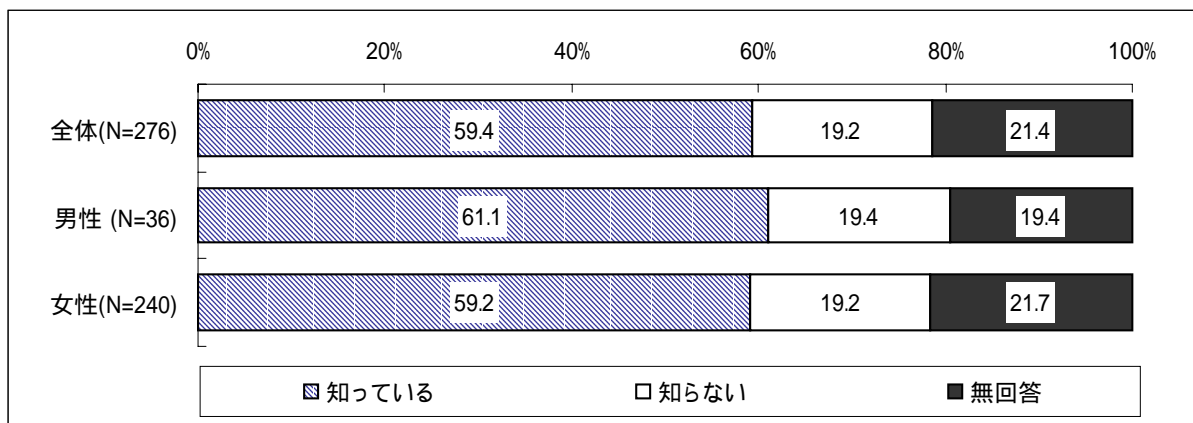
育児休業制度について、半数以上が「知っている」と回答している。

育児休業制度についての認識



子どもがあり、妊娠中(配偶者の妊娠中)に常勤やパート、アルバイトとして働いた経験のある回答者のみ。

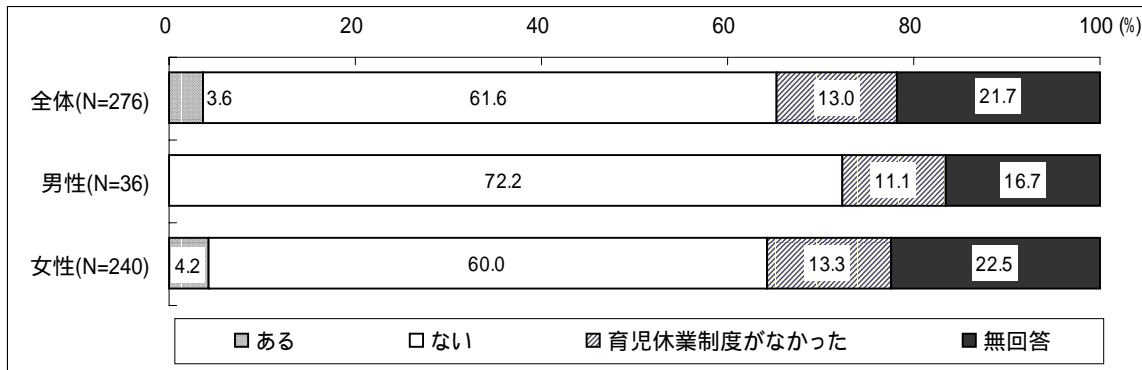
男性が育児休業を取得できることについての認識



子どもがあり、妊娠中(配偶者の妊娠中)に常勤やパート、アルバイトとして働いた経験のある回答者のみ。

しかし、育児休業の取得経験は非常に少なく、「取得した経験がある」割合は、男性では 0%、女性では 4.2%である。

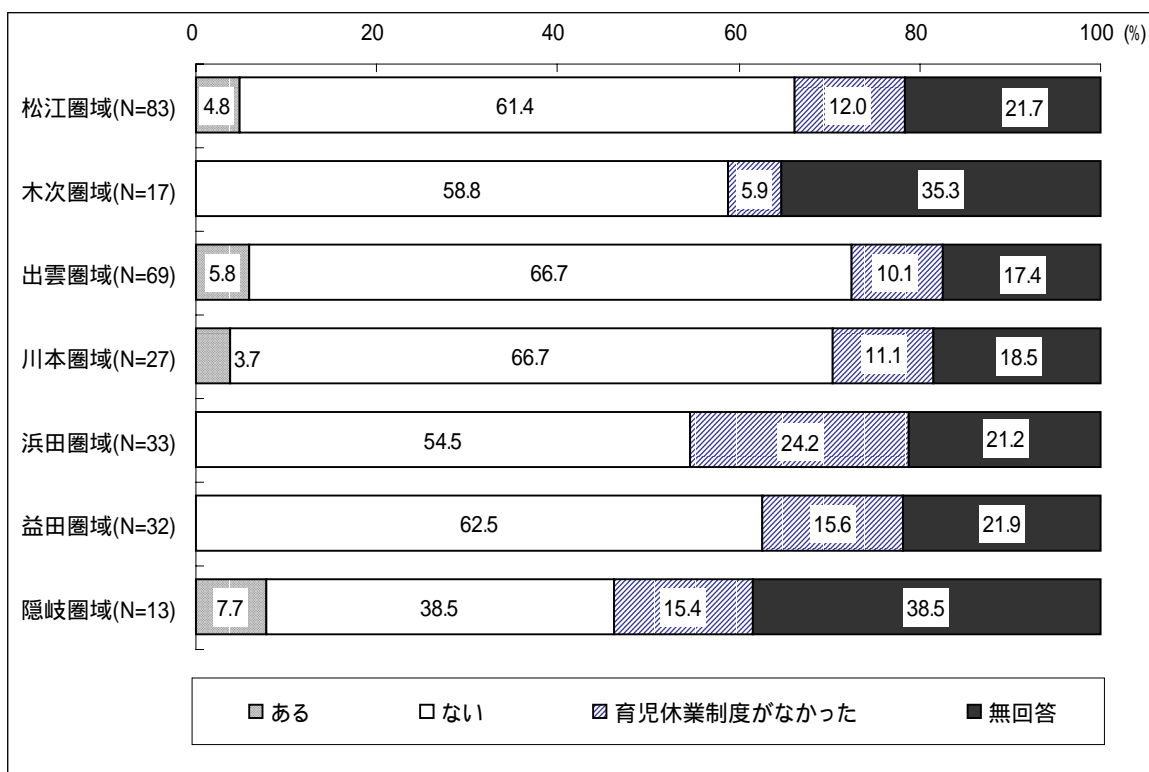
### 育児休業の取得経験



子どもがおり、妊娠中(配偶者の妊娠中)に常勤やパート、アルバイトとして働いた経験のある回答者のみ。

育児休業の取得状況を地域別に比較すると、育児休業を取得した経験が「ある」と回答している割合は隠岐、出雲圏域で他の地域に比べてわずかに高い。「育児休業制度がなかった」という回答は、浜田圏域で占める割合が高い。

### 地域別にみる育児休業の取得状況



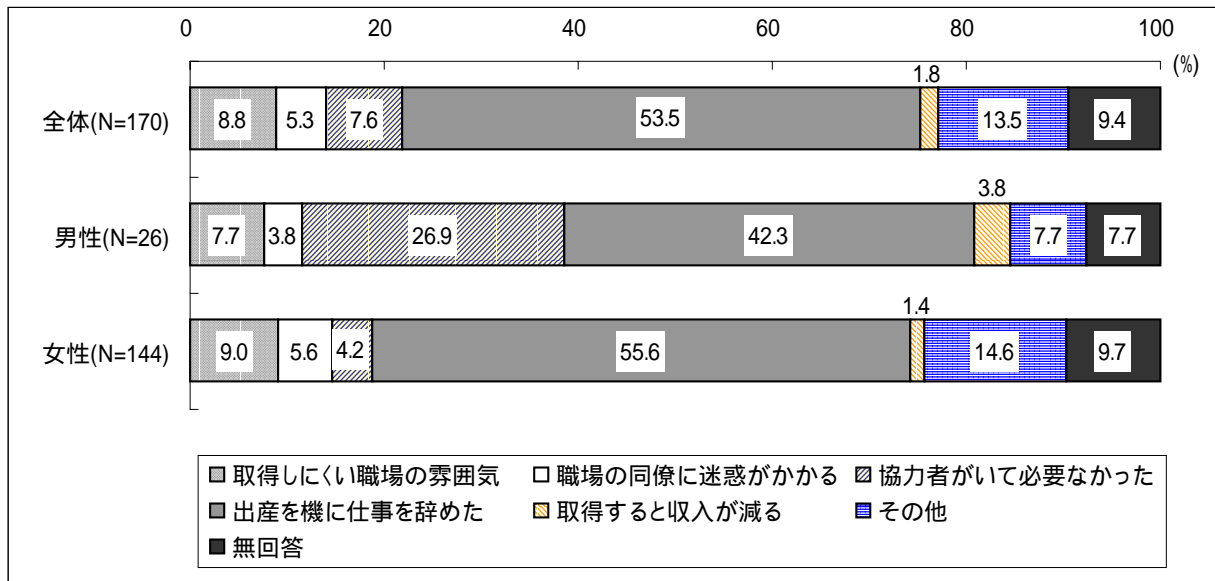
子どもがおり、妊娠中(配偶者の妊娠中)に常勤やパート、アルバイトとして働いた経験のある回答者のみ(居住地不明は除く)。

育児休業を取得しない理由は、全体では「出産を機に仕事を辞めたので必要なかった」が半数以上を占めている。

男性で高い割合を示す回答としては、「出産を機に仕事を辞めたので必要なかった」が挙げられるが、これは、自分自身ではなく、配偶者が「出産を機に退職した」と推測される。

女性では、「出産を機に仕事を辞めたので必要なかった（55.6%）」が非常に高い割合を示している。

育児休業を取得しなかった理由



育児休業を取得した経験がないと答えた回答者のみ。

## 6. 子育てに関する環境の整備

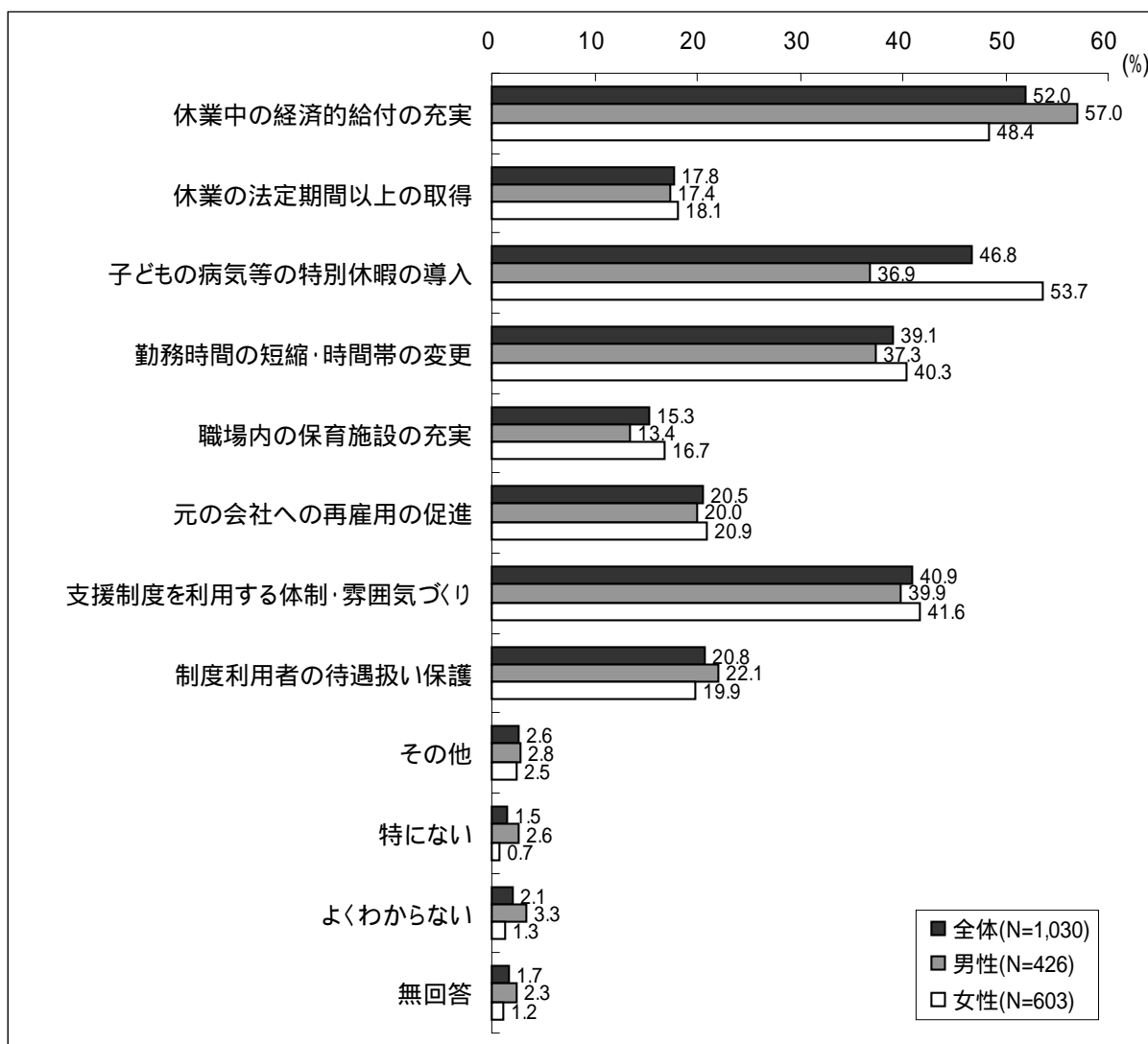
### (1) 職場における環境整備への要望<複数回答>〔問20〕

子育てと仕事を両立させるために職場において必要な取り組みについて、男女ともにおよそ半数の回答者が「育児休業中の賃金その他の経済的給付の充実」を挙げている。

しかし、女性で最も割合が高いのは「子どもが病気やけがの時のための特別休暇制度の導入(53.7%)」である。

この他、男女ともに「育児休業等の育児支援制度が気兼ねなく利用できる人的体制の整備や雰囲気づくり」「育児中の者について、勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更を柔軟に行う」等が高い。

職場における環境整備への要望<複数回答>





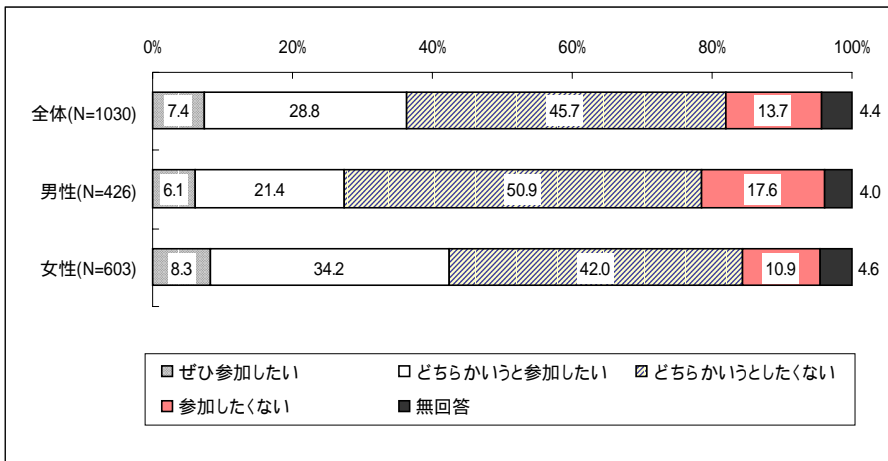
(2) 子育て支援ボランティア活動への参加意志 [問21-1、21-2]

子育て支援ボランティア活動への参加について、全体の45.7%が「どちらかというに参加したくない」という回答であった。また、「参加したくない」という回答も13.7%で、約6割が参加に否定的であり、参加意志は全体的に弱い。性別では、女性の方が参加意思は強い。

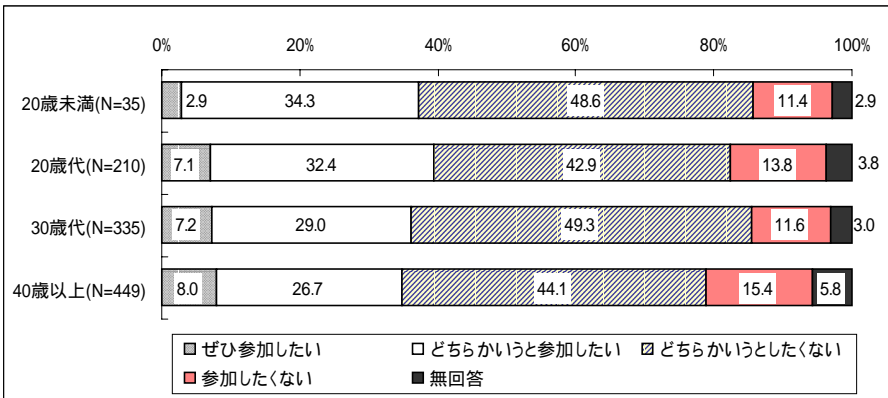
年齢別にみると、比較的若い世代の方が、若干ではあるが参加に対する意志が強い。また、子どもがいる回答者の方が、ごくわずかではあるが参加の意思を持っている割合が高い。

子育て支援ボランティア活動への参加意志

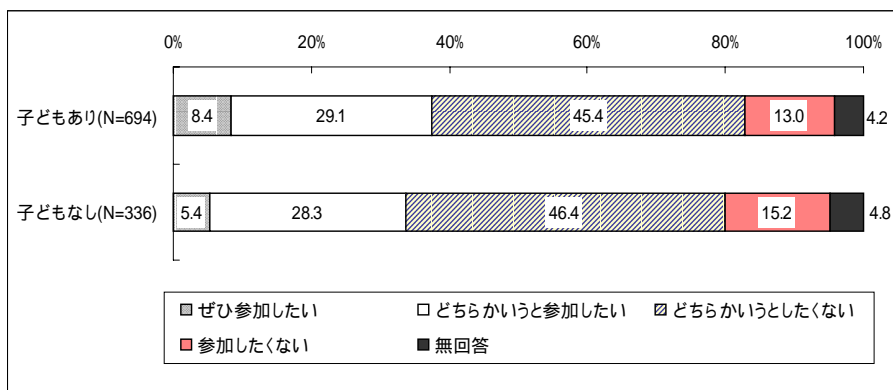
・性別



・年齢別

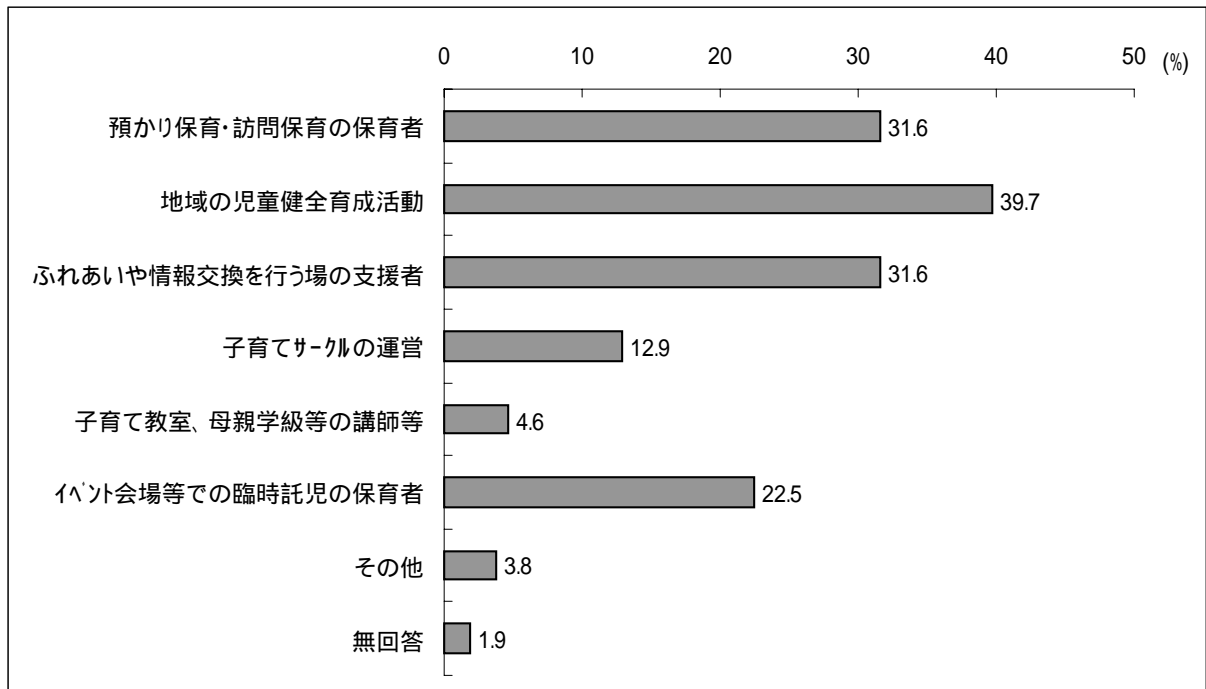


・子どもの有無



参加してみたい子育て支援ボランティア活動で高い割合を示すのは、「地域の児童の健全育成活動（39.7%）」「預かり保育、訪問保育（31.6%）」「子育て中の親とその子が気軽に集い、ふれあいや情報交換を行う場のコーディネーター等の支援者（31.6%）」「イベント会場等での臨時託児の保育者（22.5%）」等であった。

参加してみたいボランティア活動＜複数回答＞



活動への参加意志において、「ぜひ参加したい」または「どちらかというに参加したい」と答えた回答者のみ＜N=373＞。

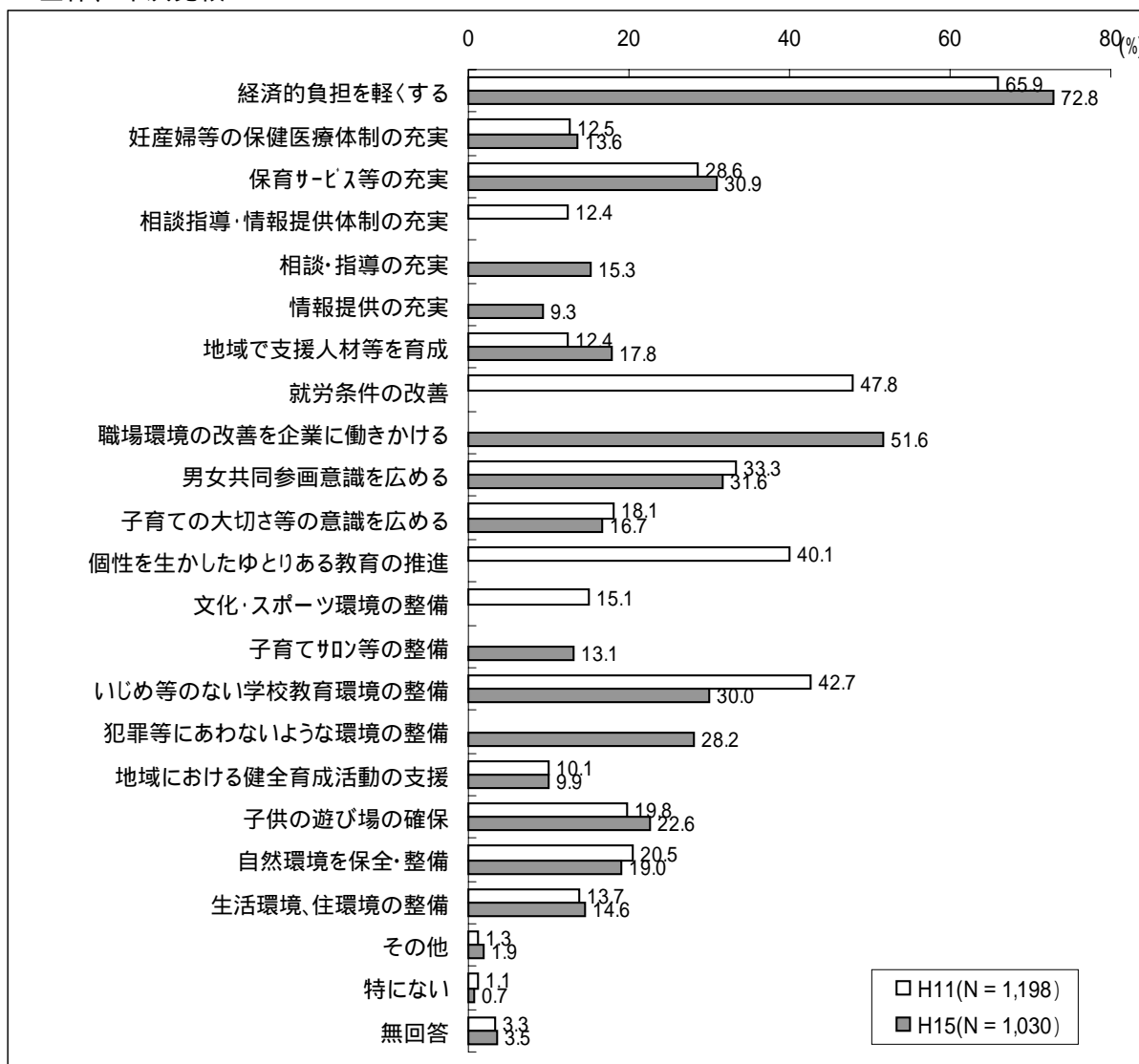
(3) 行政に期待する施策<複数回答>〔問22-1〕

子供を安心して生み、健やかに育てることのできる環境整備のための行政に期待する施策として、全体のおよそ7割が「子育てに伴う経済的負担を軽くする」と回答している。次いで高い割合を示すのは、「勤務時間の短縮や育児休業の取得促進等、職場環境の改善を企業に働きかける」であった。

H11調査との比較では、「子育てに伴う経済負担を軽くする」が6.9ポイント、「地域で子育てを支える人材の育成・確保」が5.4ポイント増加し、「いじめ・非行等の問題行動や、学級崩壊等のない学校教育環境を整備する」が12.7ポイント減少している。

行政へ期待する施策<複数回答>

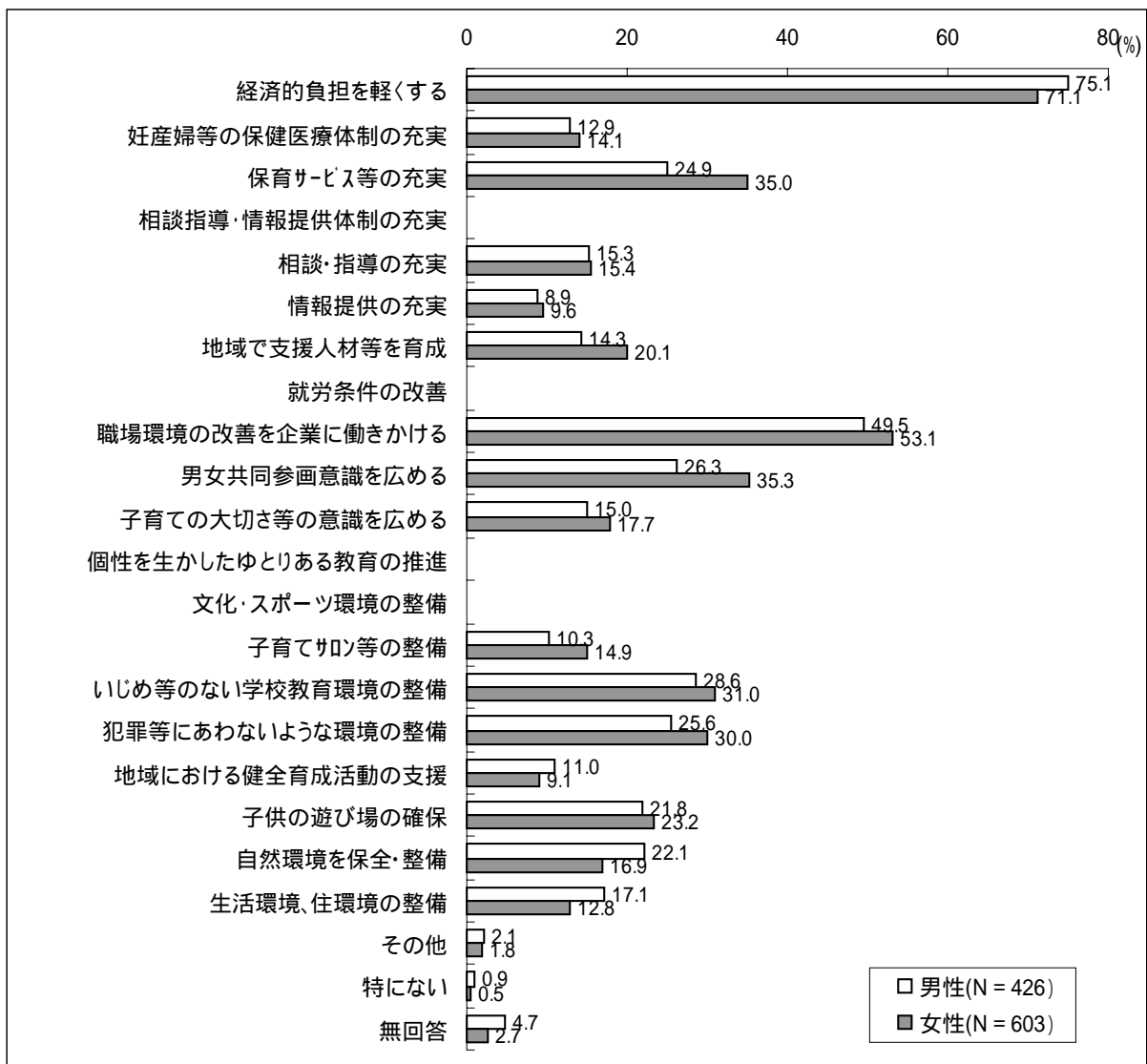
・全体、年次比較



は平成11年度調査のみの選択肢、 は平成15年度調査のみの選択肢。

性別でみると、女性が男性より高い割合を示す回答としては、「男性も女性も共に家事・育児に参加するという男女共同参画意識を広める」「保育サービスや放課後児童対策を充実する」「子どもが犯罪等の被害にあわないような安全安心な環境の整備」であり、逆に男性の方が高い割合を示す回答としては、「子育てに伴う経済的負担を軽くする」「子どもの成長に欠くことのできない自然環境を保全・整備する」である。

・性別（H15）



は平成11年度調査のみの選択肢、 は平成15年度調査のみの選択肢。

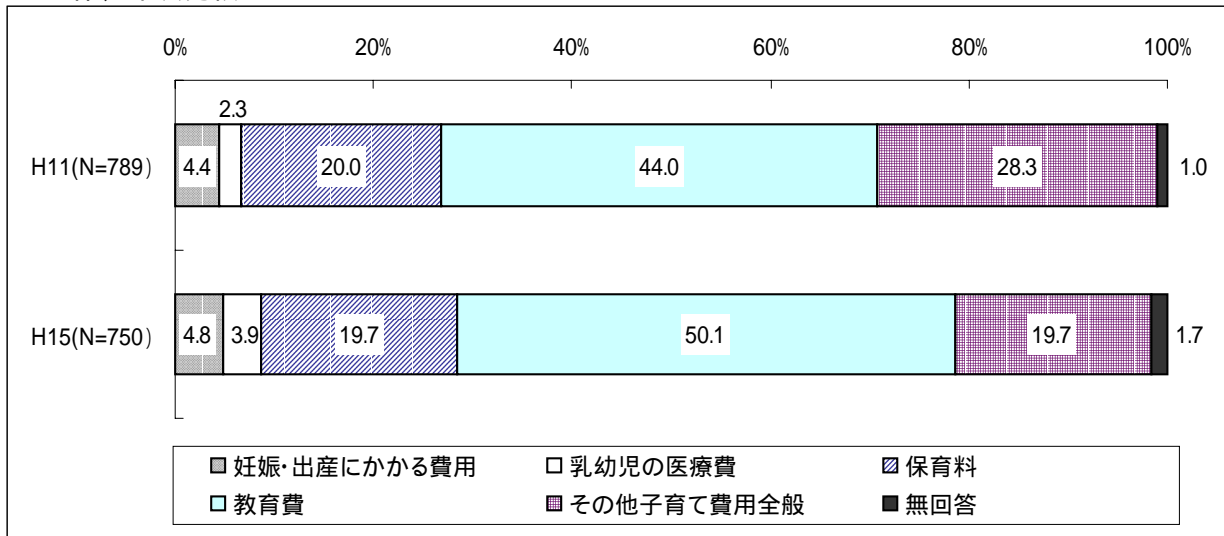
(4) 費用の負担について [問22-2]

子育てに対して、特に軽減すべき費用負担については、「教育費(50.1%)」が最も高く、次いで、「子育て費用全般(19.7%)」「保育料(19.7%)」であった。

H11調査との比較では、「教育費」と回答する割合が6.1ポイント増えている。

費用の負担について

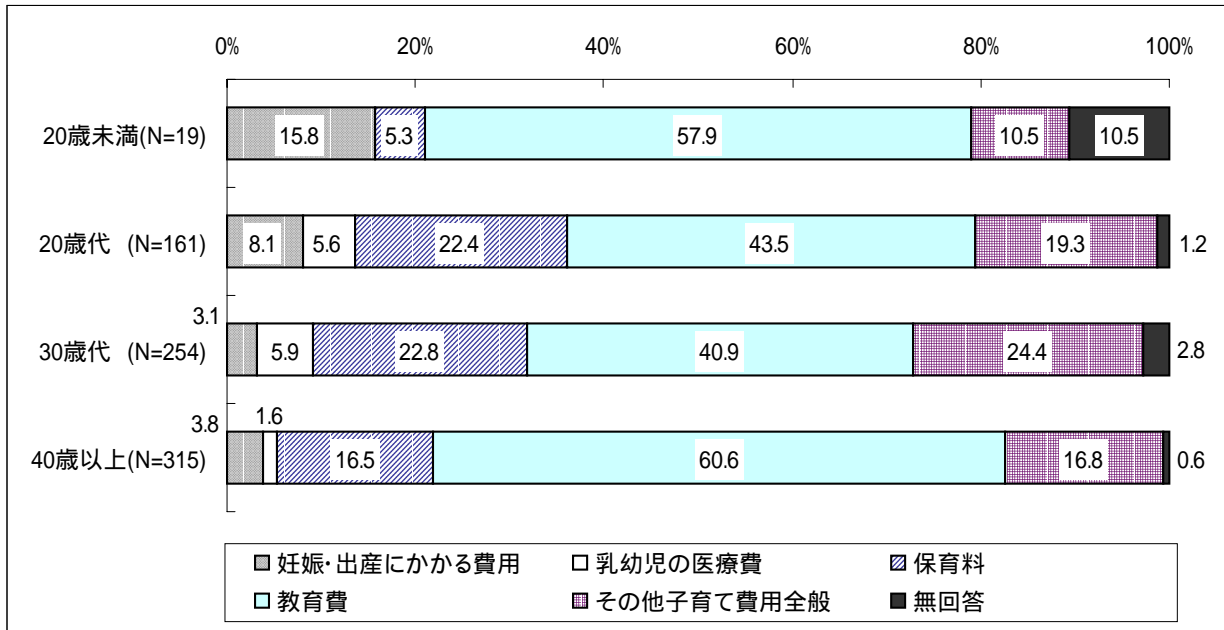
・全体、年次比較



行政に期待する施策において、「子育てに伴う経済負担を軽くする」と回答したもののみ。

年齢別にみると、20歳未満および40歳以上の回答者では「教育費」の割合がおよそ60%であり、他の年代と比較して非常に高い。「妊娠、出産にかかる費用」は、年齢とともに減少している。

・年齢別



## ・まとめ

### 1. 子育てに対する意識

平均の理想子ども数は2.7人、予定子ども数は2.2人であり、H11調査よりそれぞれ0.1人減少した（「5人以上」は、5人として算出）。理想子ども数は3人、予定子ども数は2人という回答者が最も多い。理想としては、子どもは3人がよいが、現実には2人という結果となっている。

性別では、若干ではあるが、女性の方が男性よりも理想、予定ともに希望する子どもの数は多い。また、年齢あるいは収入の多さに比例して理想子ども数、予定子ども数ともに増える傾向にあるが、男女ともに若い世代では、予定子ども数を「わからない」とする割合が高い。

市郡別では、市部よりも郡部の方が理想子ども数、予定子ども数ともに多い。また、地域別では、隠岐圏域、木次圏域が、理想子ども数、予定子ども数ともに多くなっている。

世帯の状況別に理想子ども数をみると、最も多いのは「三世代家族・共働き」世帯である。また、「核家族」では「三世代家族」とは逆に「片働き」の家族の方が「共働き」よりも理想とする子ども数が多い。また、予定子ども数が理想子ども数より少ない割合が最も高いのは「核家族・片働き」世帯である。

予定子ども数が、理想子ども数より少ない理由としては、「子育てにお金がかかる（58.4%）」という回答が半数を占める。また、育児に対する「肉体的負担（20.2%）」「心理的負担（16.0%）」あるいは「社会情勢への不安（18.3%）」も大きな要因になっている。

H11調査との比較で、割合が増加している回答としては、「子育てにお金がかかる」「育児の肉体的負担が大きい」「子どもを取り巻く社会情勢に不安がある」「自分（配偶者）の仕事に差し支える」が挙げられる。

### 2. 少子化に対する意識

島根県の出生率低下に対しては、全体の半数以上の回答者が「深刻な問題である（54.1%）」と回答しており、また、H11調査よりも割合は高くなった。

少子化に対する行政の取り組みについては、「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組み（51.3%）」を最も多く望んでいる。また、少子化に対して問題意識が高い人ほど、行政の積極的な取り組みを促している。H11調査と比較すると、積極的な取り組みを望む傾向が強くなっている。

少子化の影響については、全体で特に多い回答は、「若年層の減少により社会全体の活力が低下する（65.0%）」「家庭や地域における子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長に望ましくない（60.7%）」という回答であった。概ねH11調査と同様の傾向にあるが「将来の労働力が減少し、経済が停滞する（45.5%）」の増加が顕著である。

出生率低下の原因については、「子育てや教育に関するお金がかかりすぎる（61.7%）」という経済的要因、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていない（54.5%）」という社会構造や、晩婚化、未婚化等の問題が取り上げられている。加えて、男女ともに20%以上の回答者が「家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある（男性29.3%、女性23.9%）」と回答している。H11調査との比較では概ね同様の傾向にあるが、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」「家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある」の増加が顕著である。

### 3. 結婚に対する意識

晩婚化、未婚化の要因としては、「本人も周囲も結婚にこだわらなくなった(51.7%)」「独身生活の方が自由が多い(50.1%)」という結婚に対する意識の変化のほか、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した(46.7%)」が多く挙げられている。また、女性では、「女性が結婚後も働き続けることに対し、周りの理解が得にくい(10.9%)」「家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい(27.7%)」等の結婚あるいは出産後の周囲の理解や協力を得られない、という内容の回答が男性を上回っている。

結婚しないで子どもを持つことについて、「本人の自由(53.6%)」とする回答と「結婚後に持つ方がよい(37.3%)」の回答に二分されるが、女性は、男性よりも「本人の自由である(男性45.8%、女性59.2%)」とする回答が多くを占める。

結婚についての意識では、男性の方が結婚を望む割合が高い。また、男性は30歳代までは「いずれは結婚したい」という回答が占める割合が高い。一方、女性では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」という回答が占める割合が年齢とともに高くなる。また、H11調査との比較では、男女ともに「なるべく早く結婚したい(男性18.2%、女性13.7%)」とする回答は半減している。

独身でいる理由としては、男女ともに「適当な相手にまだめぐり合わない(男性39.4%、女性41.5%)」が最も多い。また、女性では「自由や気楽さを失いたくない(26.5%)」「今は仕事(学業)にうちこみたい(25.2%)」等の理由も多く挙げられている。加えて、「必要性を感じない(18.4%)」「結婚に魅力を感じない(17.0%)」等の理由も女性が男性を大きく上回っており、晩婚化、未婚化の考えられる要因と合致している。

### 4. 子育てに対する不安、父親の育児参加

子育てに対する不安や悩みとしては、「子育てにお金がかかる(69.4%)」とする回答が最も多く、予定子ども数が理想子ども数を下回っている理由と同様に経済的問題が最も多い結果となった。また、子育てに対する負担、子育てへの周りの理解等に関する不安を示す回答では、女性の方が男性よりも、それぞれに占める割合が高い。

夫婦就労状況からみると、「片働き」の世帯では、「子育てにお金がかかる」「何でも親の責任にされるので負担を感じる」「自分の自由な時間が持てない」、「共働き」の世帯では、「仕事と子育ての両立が難しい」等の回答も多く挙げられている。

第1子の年齢でみると、第1子の年齢が高くなるにつれて「何でも親の責任にされるので負担を感じる」という回答が占める割合が高くなる。逆に「自分の自由な時間が持てない」という回答の割合は低くなる。「仕事と子育ての両立が難しい」と感じているのは第1子の年齢が0～6歳の回答者で、また、「子育てに自信が持てない」と感じているのは、第1子の年齢が7～18歳の回答者でそれぞれ多くなっている。

子育てに関する不安や悩みの相談先としては、全体の80%近くが「配偶者(78.2%)」を挙げており、この他、「親・家族・親戚(60.0%)」「友人・知人、隣近所の人(58.9%)」等も多く挙げられている。また、結果から女性の方が男性よりもいろいろな人や場所へ相談している様子が見えてくる。

幼い子どもを連れて外出するときの不安や困ることは、「子どもを思いきり遊ばせることができる公園や遊園地等が少ない(30.5%)」「コンサートや講演会などの際に公共施設に子どもを預けられる場所がない(21.5%)」等、主にハードの整備不足に対する不満が多い。

父親の育児参加については、「積極的ではないが、ある程度は参加している」も含めると80%近くの父親が育児に参加している。しかし、年齢とともに父親の育児参加は低下する傾向にある。父親の育児参加度とその評価については、父親の自分自身の評価よりも、女性の夫に対する評価の方がやや高い。

子育てに参加しない理由としては、「仕事が忙しいから(47.8%)」とともに「何をしたいかわからない(30.4%)」という回答が多い。

## 5. 女性の子育てと仕事

女性全体の約60%が結婚または出産を機に退職した経験があると回答している。しかし、そのうち、再就職した割合は約60%にのぼり、また、「機会があれば働きたい(22.1%)」という回答も約20%であることから、女性の再就職への希望は高いことがうかがえる。

育児休業制度については、子どもがおり、妊娠中(配偶者の妊娠中)に常勤やパート、アルバイトとして働いた経験のある回答者の約6割が「知っている(59.4%)」と回答している。また、男性が育児休業を取得できることについても同様の認識であった。しかし、その中で取得経験のある回答者は、男性は0%、女性は4.2%と非常に低い結果となっている。一方、勤め先に「育児休業制度がなかった(男性11.1%、女性13.3%)」とする回答者は、男女ともに約10%であった。

育児休業を取得しない理由としては、男性では、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった(26.9%)」、女性では「出産を機に仕事を辞めたので必要なかった(55.6%)」という回答が最も多く、次いで「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった(9.0%)」であった。

## 6. 子育てに関する環境の整備

子育てと仕事を両立させるために職場において必要な取り組みについて、およそ半数の回答者が「育児休業中の賃金その他の経済的給付の充実(男性57.0%、女性48.4%)」を挙げている。また、「子どもが病気やけがの時のための特別休暇制度の導入(男性36.9%、女性53.7%)」も女性を中心に高い。

子育て支援ボランティアへの参加意欲は全体的に低い。比較的若い世代の方が若干参加意欲は高いが、子どもの有無との関連はない。

子育てに関する環境整備のための行政に期待する施策として、男女ともにおよそ70%が「経済的負担を軽くする(男性75.1%、女性71.1%)」と回答しており、子育ての不安や悩み、予定子ども数が理想子ども数より少ない理由が経済的問題であることと合致する。次いで多いのは、「勤務時間の短縮や育児休業の取得促進など、職場環境の改善を企業に働きかける(男性49.5%、女性53.1%)」である。また、軽減すべき費用の負担の内容としては、「教育費(50.1%)」が最も望まれている。



・自由意見

少子化に関して、民間企業等（国・県・市町村以外）に望む取り組み

少子化に関して、国・県・市町村への意見

総括

・民間企業等（国・県・市町村以外）に望む取り組み

項 目	合計	男性					女性				
		計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上
1. 育児休業の充実	22	13	6	1	5	1	9	2	1	6	
2. 子どもの病気等の特別休暇の導入	7	5		2	2	1	2	2			
3. 勤務時間の短縮	8	3	1	1	1		5		3	1	1
4. 勤務時間帯の変更等の柔軟性	10	5	3	1	1		5		3	2	
5. 再雇用を含む雇用の促進	16	4	2	1	1		12	1	2	9	
6. 支援制度を利用できる人的体制や雰囲気づくり	47	13	2	2	9		34	8	15	10	1
7. 職場内の保育施設の充実	16	4	1	3			12	2	4	5	1
8. 子ども連れでも安心して利用できる施設の整備	5	1	1				4	3	1		
9. 子育てしやすい環境整備に向けた意識改革や多様な取り組みの推進	30	15		4	10	1	15	2	4	9	
10. その他	11	6	3	0	3		5	3	2		
計	172	69	19	15	32	3	103	23	35	42	3

・国・県・市町村への意見

項 目	合計	男性					女性				
		計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上
1. 経済負担の軽減	91	32	7	10	15		59	21	22	16	
2. 妊産婦等の医療体制の充実	6	2		1	1		4	2	1	1	
3. 保育サービス等の充実	57	10	1	5	4		47	12	23	12	
4. 情報提供の充実	7	0					7	2	2	3	
5. 地域での支援人材の育成	4	1			1		3		1	2	
6. 職場環境改善に向けた企業への働きかけや支援の充実	24	8	2	1	5		16	6	4	6	
7. 男女共同参画意識を広める	14	1	1				13	4	5	4	
8. 子育ての大切さ等の意識を広める	11	3	1		2		8		4	4	
9. 子育てサロン等の整備	6	2	1		1		4		2	2	
10. 学校教育の充実	18	8		1	7		10	1	2	7	
11. 犯罪にあわないような環境の整備	4	0					4	1		3	
12. 地域における健全育成活動の支援	2	1		1			1		1		
13. 子どもの遊び場の確保	13	5	2	1	2		8	1	4	3	
14. 自然環境の保全・整備	2	2	1	1			0				
15. 生活環境・住環境の整備	7	4		1	3		3		2	1	
16. 雇用の場の確保等若者定住の促進	29	18	2	4	10	2	11	5	3	3	
17. 若者の出会いの場づくりや結婚	5	2	1	1			3		1	2	
18. 子育て支援に向けた税制や社会保障制度の改革	8	8	2	2	4		0				
19. その他	46	21	5	9	7		25	7	11	7	
計	354	128	26	38	62	2	226	62	88	76	0

民間企業等に望む取り組み（主な意見）

1．育児休業の充実
育児休業制度の充実 男性やパート・アルバイト職員に対する育児休業制度の整備
2．休暇の充実
子どもの病気や行事参加のための（特別）休暇の導入 週休2日制の導入等の休暇の充実 不妊治療のための休暇の導入
3．勤務時間の短縮
子育て中の者（男女を問わない）の勤務時間の短縮
4．勤務時間帯の変更等の柔軟性
子育てしやすいよう、勤務時間を柔軟にして欲しい
5．再雇用を含む雇用の促進
出産後の再雇用化 アルバイトやパートを増やすのではなく、正職員としての雇用の確保
6．支援制度を利用する体制・雰囲気づくり
育児休業や産前産後休暇を取りやすい環境づくり 両性が育児休業を取れるような環境・雰囲気づくり 休暇を取りやすい雰囲気づくり 育児休業を取ることで、昇進や職場配置で不利にならないようにすべき 育児休業後の職場復帰をスムーズにするための講習会の実施
7．職場内の保育施設の充実
職場内に保育施設があると、子どもの近くにいることで安心して働ける 複数企業による保育施設の整備 会社、社宅等で小学生以下の子どもを預かる（放課後）サービスの実施
8．子連れでも安心して利用できる施設の整備
子連れでも安心して行ける店舗や公園の整備 例：トイレ（男性トイレを含む）へのベビーシートの設置、座って食事ができる場所 大型店等における乳幼児が乗れるカートの設置
9．子育てしやすい環境整備に向けた意識改革や多様な取り組みの推進
企業の子育て支援を進めるためには、事業主の意識改革が必要 目先の利益ばかりにとらわれず、企業はもっと子育て支援に力をいれるべき 企業の子育て支援の取り組み状況の公開 企業単位でなく、地域の複数企業で連携して子育て支援に取り組んだらどうか 家庭より仕事を優先させる雇用慣習や企業風土の払拭
10．その他
子どもを持つことで、昇進等の待遇面で不利にならないようにして欲しい 職場結婚した女性が不利にならないようにして欲しい 子どもがいて残業できない者は雇ってもらえない。もっと個人の能力を重視して欲しい パートタイマーの待遇改善 パートタイマーの地位の向上等によるワークシェアリングの導入 子ども達の健全育成のためにテレビ番組の内容の規制、ゲーム機の販売の規制 小さな子どもを育てている女性は仕事を休みがちで迷惑。そのための体制整備をする必要はない

国・県・市町村への意見

1. 経済負担の軽減
<p>保育料（幼稚園を含む）の軽減          教育費の軽減          税負担の軽減          児童手当の充実          乳幼児医療費の軽減          不妊治療への助成          妊産婦検診への助成          チャイルドシート購入への助成          出産祝金制度の導入</p>
2. 妊産婦等の医療体制の充実
<p>楽しいお産のための取り組み          石見部、隠岐部における産婦人科の充実          休日・夜間の小児医療体制の充実</p>
3. 保育サービス等の充実
<p>延長保育・一時保育・休日・夜間保育・24時間保育などの充実          一時保育をもっと利用しやすいようにしてほしい          保育所の数が少ない          育児休業後も円滑に保育所に入れているようにしてほしい          効率性ばかりにとらわれて、保育所の統廃合を行わないでほしい          地域子育て支援センターの充実          放課後児童クラブの充実          保育所や幼稚園、放課後児童クラブのサービスの内容の充実          過疎地域においても、都会と同じようなサービスを提供してほしい</p>
4. 情報提供の充実
<p>子どもの実際の育て方について調査して、それを教えてほしい          母子家庭への援助金等の情報提供を行ってほしい</p>
5. 地域での支援人材の育成
<p>行政が直接支援を行うより、住民が主体となるようにNPOや民間団体への支援を行う          核家族の子育て支援ネットワーク体制をつくり、お互いに支え合える体制づくり          高齢者の多い地域では、高齢者のサポートによる地域の子育て支援をもっと増やしてほしい          民間のボランティア、起業家を集めた研修会や支援の充実</p>
6. 職場環境改善に向けた企業への働きかけや支援の充実
<p>雇用環境全般に対する企業への働きかけの強化（取り組み状況の調査等）          育児休業を取得しやすくなるような取り組みをする          男性の育児休業取得促進          結婚や出産をしても働き続けられるような取り組みをしている企業等に対する補助金・助成金の支給</p>
7. 男女共同参画意識を広める
<p>「男は仕事、女は育児」という固定的観念の払拭          子育てに協力的でない男性の意識改革          子育ての負担が女性にのみかからないような啓発をしてほしい</p>
8. 子育ての大切さ等の意識を広める
<p>子どもを持つ喜びや子育ての大切さが伝わるような取り組み          若年層に出産や子育ての大切さを教育する          兄弟のたくさんいる家族をテーマにしたドラマの作成</p>
9. 子育てサロン等の整備
<p>子育てする者が気軽に集える場の整備</p>

10. 学校教育環境の充実	個人を伸ばすような教育をして欲しい 学校で安心して過ごせるように専門のカウンセラーを常駐させる 学力主義ではなく、心身共に成長する教育が必要 中・高校生に小さい子とふれあう機会を設ける 教師がだらしない。しゃんとして欲しい
11. 犯罪にあわないような環境の整備	安全な環境の整備をして欲しい
12. 地域における健全育成の活動の支援	子ども向けのイベントを増やす 高齢者とのふれあいの場をもっとつくる
13. 子どもの遊び場の確保	幼児が安全に遊べるような公園の整備 雨天でも利用できる児童館など、子どもの遊び場の充実 公民館単位で児童館を設置して欲しい 過疎地における図書館や部活のできる環境の整備 老人施設などがたくさんあるので、一緒に利用できるようにして欲しい
14. 自然環境の保全・整備	地域の文化や自然を大切にするような取り組みをすべき
15. 生活環境・住環境の整備	病院や道路などの整備 子育てに配慮した生活環境や住環境の整備
16. 雇用の場の確保等若者定住の促進	県職員の採用を含む若者の雇用の場の確保 伝統的な仕事の後継者育成を行うなど、若い人達が生き生きと仕事ができる場の確保 若者にとって魅力あり町づくりをして欲しい 企業等の誘致事業の拡大
17. 若者の出会いの場づくりや結婚	若者の出会いの場となるようなイベントの開催 因習にとらわれない個人が望む結婚ができるような環境づくり
18. 子育て支援に向けた税制や社会保障制度の改革	結婚をせず、子どもがいない人への税金を上げる 子どもの数で年金に格差をつける 既婚者に有利になるような税制とする 不妊治療への保険適用

## 19. その他

少子化によってどのような問題が起きてくるかと言うことを具体的にあげ、広報し、どうすべきか啓発し、国民一人一人にそのことを認識させる

差別（意識）の解消

- 非嫡出子、人工授精、不妊、若くして子どもを産むこと、多産が恥ずかしいと思わせるような地域環境

（若い）親への教育をもっとすべき

町単位くらいの地域に保育士、医療機関関係者が駐在した24時間運営する施設を設置し、地域住民と連携したサポート体制をつくる

家庭内で解決できないことを地域で支える環境づくり

少子化についての生の声を聞く場をもっとつくる。計画策定に子育て中の住民の生の声を取り入れる

少子化対策を進める上で、子どもに恵まれない夫婦（特に女性）への配慮を望む

結婚して一人前、子どもを持って一人前という個人の自由、生き方をしばっている状況を変えて欲しい

ハード整備よりも、安心して子育てできる環境づくり進めて欲しい

高齢者福祉から児童福祉へのシフトを望む

厚生労働省、文部科学省等の枠にとらわれず、国が一体となって子どもの育成・教育を考えて欲しい

小規模自治体への支援の強化

景気の回復

# 単 純 集 計 一 覧

## 平成15年度 島根県少子化に関する意識調査

## 単純集計結果一覧

		件数	%
(居住地) (市町村名) あなたが現在居住している市町村名をご記入ください。	(回答は1つだけ)		
松江市		184	17.9
浜田市		57	5.5
出雲市		112	10.9
益田市		56	5.4
大田市		46	4.5
安来市		28	2.7
江津市		42	4.1
平田市		34	3.3
鹿島町		11	1.1
島根町		5	0.5
美保関町		7	0.7
東出雲町		16	1.6
八雲村		13	1.3
玉湯町		7	0.7
宍道町		14	1.4
八束町		4	0.4
広瀬町		7	0.7
伯太町		7	0.7
仁多町		8	0.8
横田町		9	0.9
大東町		27	2.6
加茂町		6	0.6
木次町		8	0.8
三刀屋町		14	1.4
吉田村		8	0.8
掛合町		10	1.0
頓原町		7	0.7
赤来町		2	0.2
斐川町		34	3.3
佐田町		4	0.4
多伎町		6	0.6
湖陵町		5	0.5
大社町		24	2.3
温泉津町		5	0.5
仁摩町		7	0.7
川本町		3	0.3
邑智町		6	0.6
大和村		4	0.4
羽須美村		4	0.4
瑞穂町		12	1.2
石見町		12	1.2
桜江町		4	0.4
金城町		17	1.7
旭町		7	0.7
弥栄村		6	0.6
三隅町		11	1.1



		件数	%
美都町		3	0.3
匹見町		2	0.2
津和野町		13	1.3
日原町		10	1.0
柿木村		4	0.4
六日市町		9	0.9
西郷町		23	2.2
布施村		5	0.5
五箇村		6	0.6
都万村		4	0.4
海士町		3	0.3
西ノ島町		7	0.7
知夫村		4	0.4
無回答		17	1.7
合計		1030	100.0

		件数	%
あなたの現在の状況をお答えください。			
〔問1 - 1〕 性別		(回答は1つだけ)	
	男性	426	41.4
	女性	603	58.5
	無回答	1	0.1
	合計	1030	100.0
〔問1 - 2〕 婚姻の状況		(回答は1つだけ)	
	未婚	268	26.0
	結婚している	718	69.7
	結婚したが、離別または死別した	44	4.3
	無回答	0	0.0
	合計	1030	100.0
<結婚している回答者の結婚期間>			
	5年未満	110	15.3
	5年～10年未満	133	18.5
	10年～15年未満	140	19.5
	15年～20年未満	132	18.4
	20年以上	180	25.1
	無回答	23	3.2
	合計	718	100.0
<結婚したが、離別または死別した回答者の結婚期間>			
	5年未満	14	31.8
	5年～10年未満	13	29.5
	10年～15年未満	5	11.4
	15年～20年未満	6	13.6
	20年以上	3	6.8
	無回答	3	6.8
	合計	44	100.0
〔問1 - 3〕 年齢		(回答は1つだけ)	
	20歳未満	35	3.4
	20～24歳	78	7.6
	25～29歳	132	12.8
	30～34歳	169	16.4
	35～39歳	166	16.1
	40～44歳	199	19.3
	45～49歳	220	21.4
	50歳以上	30	2.9
	無回答	1	0.1
	合計	1030	100.0

		件数	%
〔問1 - 4〕〔配偶者のいる方のみ〕 配偶者の年齢		(回答は1つだけ)	
	20歳未満	1	0.1
	20～24歳	12	1.7
	25～29歳	62	8.6
	30～34歳	104	14.5
	35～39歳	134	18.7
	40～44歳	144	20.1
	45～49歳	148	20.6
	50歳以上	100	13.9
	無回答	13	1.8
	合計	718	100.0
〔問1 - 5〕 就労状況		(回答は1つだけ)	
	勤め人(常勤)	623	60.5
	自営業(農林漁業を含む)、自由業、家族従業者	91	8.8
	パート、アルバイト	127	12.3
	内職	6	0.6
	無職(主婦・主夫(家事専業)、家事手伝い等)	122	11.8
	学生	49	4.8
	その他	9	0.9
	無回答	3	0.3
	合計	1030	100.0
〔問1 - 6〕〔配偶者のいる方のみ〕 配偶者の就労状況		(回答は1つだけ)	
	勤め人(常勤)	474	66.0
	自営業(農林漁業を含む)、自由業、家族従業者	96	13.4
	パート、アルバイト	60	8.4
	内職	2	0.3
	無職(主婦・主夫(家事専業)、家事手伝い等)	71	9.9
	学生	0	0.0
	その他	4	0.6
	無回答	11	1.5
	合計	718	100.0

		件数	%
〔問1 - 7〕 年間収入			
あなたの世帯の昨年1年間の税込み年収(ボーナス等も含む全ての収入)の額について、差し支えなければ、お答えください。			
世帯の年収		(回答は1つだけ)	
	無収入	66	6.4
	100万円未満	29	2.8
	100万円以上～300万円未満	183	17.8
	300万円以上～500万円未満	231	22.4
	500万円以上～700万円未満	186	18.1
	700万円以上～1,000万円未満	132	12.8
	1,000万円以上～1,500万円未満	77	7.5
	1,500万円以上～2,000万円未満	11	1.1
	2,000万円以上	2	0.2
	無回答	113	11.0
	合計	1030	100.0
〔問1 - 8〕 世帯の人数(あなた本人を含む)			
	1人	44	4.3
	2人	79	7.7
	3人	196	19.0
	4人	251	24.4
	5人	181	17.6
	6人	137	13.3
	7人	93	9.0
	8人	24	2.3
	9人	2	0.2
	10人以上	3	0.3
	無回答	20	1.9
	合計	1030	100.0
〔問1 - 9〕 世帯の構成員			
		(回答はいくつでも)	
現在、あなたと同居しているすべての方を、次のうちから選んでください。			
	配偶者(夫又は妻)	701	68.1
	子ども	668	64.9
	父母(配偶者の父母を含む)	567	55.0
	孫	4	0.4
	祖父母(配偶者の祖父母を含む)	138	13.4
	自分の子どもの配偶者	3	0.3
	兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)	120	11.7
	その他の同居者	7	0.7
	同居者はいない	42	4.1
	無回答	12	1.2
	合計		1030

		件数	%
(問1 - 10) 子どもの数	(回答は1つだけ)		
お子さんは何人いらっしゃいますか。別居しているお子さんも含めてお答えください。			
1人		139	13.5
2人		315	30.6
3人		206	20.0
4人		27	2.6
5人以上		7	0.7
子供はいない		336	32.6
無回答		0	0.0
合計		1030	100.0
(問1 - 11) [(問1 - 10)で「1」から「5」までをお答えの方のみ]			
あなたのお子さん(妊娠中のお子さんは除きます)の現在の年齢を下の欄へ、年齢の高い順に左側からお書きください。			
第1子の年齢			
0～6歳		172	24.8
7～12歳		176	25.4
13歳～18歳		159	22.9
19歳以上		184	26.5
無回答		3	0.4
合計		694	100.0
第2子の年齢			
0～6歳		146	26.3
7～12歳		151	27.2
13歳～18歳		160	28.8
19歳以上		96	17.3
無回答		2	0.4
合計		555	100.0
第3子の年齢			
0～6歳		53	22.1
7～12歳		86	35.8
13歳～18歳		79	32.9
19歳以上		20	8.3
無回答		2	0.8
合計		240	100.0
第4子の年齢			
0～6歳		10	29.4
7～12歳		12	35.3
13歳～18歳		11	32.4
19歳以上		1	2.9
無回答		0	0.0
合計		34	100.0

		件数	%
第5子の年齢			
	0～6歳	3	42.9
	7～12歳	3	42.9
	13歳～18歳	1	14.3
	19歳以上	0	0
	無回答	0	0
	合 計	7	100.0
〔問1 - 12〕〔問1 - 10〕で「1」から「5」までをお答えの方のみ			
第1子出生時の年齢をお答えください。			
父の年齢			
	20歳未満	4	0.6
	20～24歳	73	10.5
	25～29歳	327	47.1
	30～34歳	197	28.4
	35～39歳	56	8.1
	40～44歳	9	1.3
	45～49歳	3	0.4
	50歳以上	1	0.1
	無回答	24	3.5
	合 計	694	100.0
母の年齢			
	20歳未満	3	0.4
	20～24歳	193	27.8
	25～29歳	373	53.7
	30～34歳	90	13.0
	35～39歳	15	2.2
	40～44歳	0	0.0
	45～49歳	0	0.0
	50歳以上	0	0.0
	無回答	20	2.9
	合 計	694	100.0
〔問1 - 13〕 住居の状況		(回答は1つだけ)	
	持ち家の一戸建て	774	75.1
	持ち家の集合住宅(分譲マンション等)	10	1.0
	民間の賃貸住宅(借家、マンション、アパート)	116	11.3
	公営の賃貸住宅(借家、アパート)	60	5.8
	社宅・寮等	35	3.4
	その他	16	1.6
	無回答	19	1.8
	合 計	1030	100.0

		件数	%
〔問2〕			
あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。また、実際に予定しているお子さんは、現在いるお子さんを含めて何人ですか。			
理想的な子供の数		(回答は1つだけ)	
0人		12	1.2
1人		28	2.7
2人		326	31.7
3人		529	51.4
4人		59	5.7
5人以上		15	1.5
わからない		51	5.0
無回答		10	1.0
合 計		1030	100.0
実際に予定している子どもの数		(回答は1つだけ)	
0人		41	4.0
1人		87	8.4
2人		398	38.6
3人		237	23.0
4人		30	2.9
5人以上		5	0.5
わからない		153	14.9
無回答		79	7.7
合 計		1030	100.0
<理想と実際の予定との人数比較>			
理想と実際の予定と同じ人数である		397	38.5
理想より少ない人数である		356	34.6
理想より多い人数である		28	2.7
わからない		170	16.5
無回答		79	7.7
合 計		1030	100.0

		件数	%
[問3]	( は3つまで)		
【「実際に予定している子どもの数」が「理想的な子どもの数」より少ない方のみ】			
あなたが実際に予定している子どもの数が理想的な子どもの数よりも少ないのはなぜですか。			
	子どもを育てるのにお金がかかる	208	58.4
	育児の心理的な負担が大きい	57	16.0
	育児の肉体的な負担が大きい	72	20.2
	高年齢や体質等から出産が難しい	90	25.3
	高年齢で出産するのはいや	25	7.0
	子どもが生めない	16	4.5
	子どもの教育・進路が不安	38	10.7
	子どもを取り巻く社会状況に不安がある	65	18.3
	配偶者や家族が子育てに協力してくれない	9	2.5
	配偶者が子どもはもう十分と言っている	38	10.7
	自分(配偶者)の仕事に差し支える	46	12.9
	子どもを育てるためのゆとりある住宅がない	22	6.2
	自分たちの趣味やレジャーのための自由な時間を持ちたい	17	4.8
	一番末の子が自分(配偶者)の定年退職までに成人して欲しい	20	5.6
	世間なみの子ども数に合わせたいから	3	0.8
	その他	42	11.8
	特に理由はない	13	3.7
	無回答	5	1.4
	合 計		356
[問4]	( は3つまで)		
あなたにとって、子どもを生み育てるといことは、どのような意味があると考えていますか。			
	子どもを育てるのが楽しい・子どもが好き	349	33.9
	自分の生命を伝える	180	17.5
	自分の夢や志を託す	48	4.7
	子どもを育てることで自分も成長できる	550	53.4
	子どもを通じて友人ができる等世界が広がる	119	11.6
	夫婦、家族の絆が強くなる	505	49.0
	次の社会を担う世代をつくる	267	25.9
	子どもを持ってはじめて社会的に一人前になる	90	8.7
	家を継いでもらう・家業や事業をついでもらう	60	5.8
	老後の面倒を見てもらう	35	3.4
	子どもを持つのは人間として自然である	267	25.9
	その他	20	1.9
	特に意味について考えたことはない	52	5.0
	無回答	33	3.2
	合 計		1030
[問5]	( は1つだけ)		
あなたは、子育てを楽しいものだと思いますか。			
	とても楽しいと思う	349	33.9
	まあまあ楽しいと思う	393	38.2
	どちらとも言えない	233	22.6
	あまり楽しくないと思う	18	1.7
	まったく楽しくないと思う	2	0.2
	無回答	35	3.4
	合 計	1030	100.0



		件数	%
(問6 - 1)	( は1つだけ)		
あなたは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。			
	主に父親が携わるのがよい	8	0.8
	主に母親が携わるのがよい	161	15.6
	父母が同じくらい協力して携わるのがよい	652	63.3
	父親、母親のどちらでもよい	45	4.4
	その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	129	12.5
	その他	9	0.9
	わからない	5	0.5
	無回答	21	2.0
	合 計	1030	100.0
(問6 - 2)	( は1つだけ)		
あなたは、子どもが3歳くらいまでは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。			
	主に父親が携わるのがよい	1	0.1
	主に母親が携わるのがよい	351	34.1
	父母が同じくらい協力して携わるのがよい	511	49.6
	父親、母親のどちらでもよい	31	3.0
	その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	96	9.3
	その他	9	0.9
	わからない	11	1.1
	無回答	20	1.9
	合 計	1030	100.0
(問7)	( は1つだけ)		
あなたは、子どもが3歳くらいまでの昼間の子育て場所は、どこが適当だと思いますか。			
	主に家庭(自宅)がよい	600	58.3
	主に保育所がよい	110	10.7
	主に別居の祖父母や親戚宅や知人宅等がよい	12	1.2
	その家庭の状況に応じてどこでもよい	248	24.1
	その他	15	1.5
	わからない	25	2.4
	無回答	20	1.9
	合 計	1030	100.0
(問8)	( は1つだけ)		
女性の就業のあり方として、あなたが最も望ましいと思うのは次のうちのどれですか。			
	結婚や出産と関係なく仕事を続ける	421	40.9
	結婚までは仕事を持ち、出産を機に退職し、家事(育児)に専念する	27	2.6
	結婚までは仕事を持ち、出産を機に退職し、子どもが大きくなったら再就職する	123	11.9
	子どもができるまでは仕事を持ち、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	27	2.6
	子どもができるまでは仕事を持ち、出産を機に退職し、子どもが大きくなったら再就職する	349	33.9
	仕事を持たない方がよい	3	0.3
	その他	52	5.0
	無回答	28	2.7
	合 計	1030	100.0

		件数	%
[問9 - 1]	( は1つだけ)		
子どもの数が減少していることについて、あなたは、どう思いますか。			
	深刻な問題である	557	54.1
	やや問題である	241	23.4
	良い面・悪い面の両方があり一概には言えない	173	16.8
	何も問題はない	7	0.7
	むしろ好ましいことである	3	0.3
	その他	7	0.7
	よくわからない	31	3.0
	無回答	11	1.1
	合 計	1030	100.0
[問9 - 2]【(問9 - 1)で「1」「2」「3」とお答えの方のみ】	( は1つだけ)		
あなたは、少子化に対して、国・県・市町村はどのように取り組むべきだと考えますか。			
	出生率の回復に向けて、積極的に取り組むべきである	315	32.4
	個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである	498	51.3
	結婚や出産は個人の問題であり、どのような形であれ、取り組むべきでない	42	4.3
	有効な対策はなく、何をやっても無駄である	20	2.1
	その他	35	3.6
	よくわからない	55	5.7
	無回答	6	0.6
	合 計	971	100.0
[問10]	( は3つまで)		
あなたは、子どもの数が減少することの影響についてどのように考えますか。			
	家庭や地域における子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって望ましくない	625	60.7
	若年層の減少により社会全体の活力が低下する	670	65.0
	将来の労働力が減少し、経済が停滞する	469	45.5
	将来、年金の保険料(掛金)等の社会保障の負担が増加する	543	52.7
	受験や住宅事情等においては、好ましい状況が生まれる	16	1.6
	社会全体にそれほどの影響があるとは思えない	6	0.6
	夫婦(個人)の自由だから仕方がない	89	8.6
	世界全体から考えると、日本で子どもが減少してもかまわない	12	1.2
	その他	12	1.2
	よくわからない	23	2.2
	無回答	29	2.8
	合 計		1030

		件数	%
(問11)	( は3つまで)		
あなたは、出生率が低下している原因は何だと思いますか。			
	子育てや教育にお金がかかりすぎる	635	61.7
	子育てには肉体的負担が大きい	51	5.0
	仕事と子育てを両立させる社会的仕組み(育児休業、保育所)十分に整っていない	561	54.5
	家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある	269	26.1
	住宅事情が悪い	18	1.7
	子どもを取り巻く社会状況(少年非行、環境問題等)が悪い方向に向かっている	157	15.2
	核家族化等により、親族や隣近所から子育てへの支援が受けにくくなっている	199	19.3
	子育ての負担が母親に集中している	136	13.2
	子育てについて、楽しさよりも、大変さばかりが強調されている	118	11.5
	子どもを少なくして、じっくり育てたいという夫婦が増えている	52	5.0
	平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている	470	45.6
	子どもより趣味やレジャーを楽しみたいという夫婦が増えている	127	12.3
	その他	22	2.1
	よくわからない	13	1.3
	無回答	6	0.6
	合計		1030
(問12)	( は3つまで)		
あなたは、以前に比べて、晩婚化が進んだり、結婚しない人が増えている理由は、何だと思いますか。			
	結婚相手に要求する条件が厳しくなった	194	18.8
	本人も周囲も、結婚(又は結婚適齢期)にこだわらなくなった	533	51.7
	見合い等、親族等による結婚の仲立ちが減った	69	6.7
	独身生活のほうが自由が多い	516	50.1
	成人しても親離れ(又は親の子離れ)しない傾向が強まってきた	181	17.6
	異性とつきあうことが苦手な若者が増えてきた	65	6.3
	異性と出会う機会が少なくなった	101	9.8
	仕事のためには、独身の方が都合がよい	95	9.2
	仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した	481	46.7
	女性が結婚後も働き続けることに対し、まわりの理解が得にくい	93	9.0
	女性の高学歴化が進んだ	49	4.8
	家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい	260	25.2
	子どもの数が少なくなり、跡継ぎの問題等が結婚相手の範囲を狭めている	57	5.5
	その他	22	2.1
	よくわからない	14	1.4
	無回答	6	0.6
	合計		1030
(問13)	( は1つだけ)		
あなたは、結婚しないで子どもを持つことについてどのように思いますか。			
	本人の自由である	552	53.6
	子どもは結婚してから持つ方がよい	384	37.3
	わからない	62	6.0
	その他	27	2.6
	無回答	5	0.5
	合計	1030	100.0

		件数	%
〔問14 - 1〕〔未婚の方のみ〕		( は1つだけ)	
あなたは、結婚に対してどのようにお考えですか。			
	なるべく早く結婚したい	49	15.7
	いずれは結婚したい	128	41.0
	理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	73	23.4
	一生結婚するつもりはない	18	5.8
	結婚する予定がある	19	6.1
	その他	6	1.9
	無回答	19	6.1
	合計	312	100.0
〔問14 - 2〕〔〔問14 - 1〕で「1」「2」「3」「4」「6」とお答えの方のみ〕		( は2つまで)	
今、独身でいる理由は何ですか。			
	今は趣味や娯楽を楽しみたい	54	19.7
	今は仕事(学業)にうちこみたい	62	22.6
	自由や気楽さを失いたくない	69	25.2
	経済的に余裕がなくなる	46	16.8
	結婚資金が足りない	46	16.8
	まだ若すぎる	45	16.4
	親や周囲が同意しない	13	4.7
	異性とうまくつきあえない	27	9.9
	住宅のめどが立たない	7	2.6
	必要性を感じない	42	15.3
	結婚に魅力を感じない	40	14.6
	適当な相手にまだめぐり会わないから	111	40.5
	その他	34	12.4
	無回答	2	0.7
	合計		274
〔問15 - 1〕〔子どものいる方のみ〕		( は1つだけ)	
あなたは、子育てをするうえで、負担や不安を感じますか			
	非常に感じる	141	20.3
	どちらかといえば感じる	372	53.6
	どちらかといえば感じない	104	15.0
	ほとんど感じない	50	7.2
	無回答	27	3.9
	合計	694	100.0

		件数	%
[問15 - 2] [(問15 - 1)で「1」「2」と回答した方のみ]		( は3つまで)	
あなたは、どのような負担や不安を感じますか。			
	子育てには、お金がかかる	356	69.4
	子育てによる体の疲れが大きい	81	15.8
	子育ては、何でも親の責任にされるので、負担を感じる	91	17.7
	子育てに自信が持てない	79	15.4
	子どもの育て方について、配偶者や家族と意見が合わない	66	12.9
	子育てが大変なことを、配偶者、家族等身近な人が理解したり、協力してくれない	32	6.2
	仕事と子育ての両立が難しい	172	33.5
	自分の自由な時間が持てない	110	21.4
	夫婦で楽しむ時間が持てない	25	4.9
	近所に子どもの遊び友だちがない	59	11.5
	その他	37	7.2
	無回答	4	0.8
	合 計		513
[問15 - 3] [(問15 - 1)で「1」「2」と回答した方のみ]		( はいいくつでも)	
あなたは、子育てに関する不安や悩みを誰(どこ)に相談していますか。			
	配偶者	401	78.2
	親・家族・親戚	308	60.0
	友人・知人・隣近所の人	302	58.9
	保育所・幼稚園	63	12.3
	学校、教育センター等の教育機関	44	8.6
	子育てサークルの仲間	11	2.1
	地域子育て支援センター	11	2.1
	子育てサロン等(親子のつどいの場)	3	0.6
	病院・診療所・保健所	22	4.3
	児童相談所・福祉事務所	9	1.8
	民生・児童委員、主任児童委員	2	0.4
	電話相談	6	1.2
	どこにも相談していない	22	4.3
	その他	3	0.6
	無回答	2	0.4
	合 計		513

		件数	%
〔問16〕〔子どものいる方のみ〕		( は3つまで)	
あなたは、幼い子どもを連れて外出するときに不安に感じたり、困っていることは、どのようなことですか。			
	コンサートや講演会等の際に公共施設に子どもを預けられる場所がない(少ない)	149	21.5
	トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない	132	19.0
	公共施設、店舗等に授乳する場所や設備がない	105	15.1
	歩道や信号の整備不足、川や溝の防護柵未整備等、安全面に心配がある	110	15.9
	小さな子どもとの食事に配慮された場所が少ない	178	25.6
	交通機関や建物、歩道がベビーカーや自転車での移動に配慮されていない	123	17.7
	周囲の人が子ども連れを迷惑そうに見る	45	6.5
	荷物や子どもに手を取られて困っている時に手を貸してくれる人が少ない	52	7.5
	子どもを思いきり遊ばせることができる公園や遊園地等が少ない	212	30.5
	買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所が少ない	123	17.7
	暗い通りや見通しのきかない場所が多く、子どもが犯罪に合わないか心配	112	16.1
	不安に感じたり、困っていることはない	53	7.6
	その他	20	2.9
	無回答	51	7.3
	合 計		694
〔問17 - 1〕		( は1つだけ)	
〔子どものいる方のみ。ただし、父親がいない場合は、〔問18 - 1〕にお進みください。〕			
あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか。男性の場合はご自分について、女性の場合は配偶者についてお答えください。			
	積極的に参加している	193	28.9
	積極的ではないが、ある程度は参加している	321	48.1
	頼まれた時だけ手伝っている	93	13.9
	ほとんど子育てにかかわっていない	35	5.2
	その他	4	0.6
	無回答	22	3.3
	合 計	668	100.0
〔問17 - 2〕〔〔問17 - 1〕で「1」「2」「5」と回答した方のみ〕		( は1つだけ)	
あなたの家庭における父親の子育て参加について、あなた自身はどのように評価していますか。			
	今のままで十分	119	23.0
	おおむね十分	230	44.4
	やや不足	120	23.2
	全く不足	9	1.7
	その他	2	0.4
	無回答	38	7.3
	合 計	518	100.0

		件数	%
〔問17 - 3〕〔問17 - 1〕で「3」「4」と回答した男性の方のみ		( は1つだけ)	
あなたがあまり子育てにかかわっていないのはなぜですか。			
	子育ては母親の仕事である	5	10.9
	妻が自分の子育て参加を望んでいない	1	2.2
	何をしたいのか分からない	14	30.4
	仕事が忙しい	22	47.8
	周囲の目が気になる・体裁が悪い	0	0.0
	その他	3	6.5
	無回答	1	2.2
	合 計	46	100.0
〔問18 - 1〔子どものいる方のみ〕〕		( は1つだけ)	
あなたは、結婚やご自身又は配偶者の出産を機に仕事を辞めた(退職した)経験がありますか。			
	仕事を続けている	360	51.9
	結婚を機に仕事を辞めた	117	16.9
	第1子出産を機に仕事を辞めた	135	19.5
	第2子以降出産を機に仕事を辞めた	24	3.5
	いままで仕事をしたことがない	3	0.4
	その他	20	2.9
	無回答	35	5.0
	合 計	694	100.0
〔問18 - 2〕〔問18 - 1〕で「2」「3」「4」と回答した方のみ		( は1つだけ)	
なぜ、仕事を辞めたのですか。			
	家事(子育て)に専念したかった	96	34.8
	経済的に働く必要がなくなった	8	2.9
	退職を迫るような職場の雰囲気があった	33	12.0
	配偶者や家族が退職を望んだ	23	8.3
	仕事と家事(子育て)の両立が困難だった	61	22.1
	その他	52	18.8
	無回答	3	1.1
	合 計	276	100.0
〔問18 - 3〕〔問18 - 1〕で「2」「3」「4」と回答した方のみ		( は1つだけ)	
仕事を辞めたあと、また働きはじめましたか。			
	機会を見て、また働きはじめた	177	64.1
	働いていないが、機会があれば働きたい	59	21.4
	働いていないし、これからも働くつもりもない	6	2.2
	その他	12	4.3
	無回答	22	8.0
	合 計	276	100.0
〔問19 - 1〕		( は1つだけ)	
〔子どものいる方で、妊娠中(配偶者の妊娠中を含む)に、勤め人やパート・アルバイトとして働いた経験をお持ちの方のみ〕			
あなたは、育児休業制度についてご存知ですか。			
	知っている	165	59.8
	知らない	17	6.2
	無回答	94	34.1
	合 計	276	100.0

		件数	%
(問19 - 2)	( は1つだけ)		
あなたは、男性が育児休業を取得できることをご存知ですか。			
	知っている	164	59.4
	知らない	53	19.2
	無回答	59	21.4
	合 計	276	100.0
(問19 - 3)	( は1つだけ)		
あなたは、今までに育児休業を取得したことがありますか。			
	ある	10	3.6
	ない	170	61.6
	育児休業制度がなかった	36	13.0
	無回答	60	21.7
	合 計	276	100.0
(問19 - 4) [(問19 - 3)で「2」とお答えの方のみ]	( は1つだけ)		
育児休業を取得しなかった理由は、次のうちのどれですか。			
	育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった	15	8.8
	休むと職場の同僚に迷惑がかかると思った	9	5.3
	父母等協力してくれる人がいたので必要なかった	13	7.6
	出産を機に(又は産後休暇中に)仕事を辞めたので必要なかった	91	53.5
	育児休業を取得すると収入が減る	3	1.8
	その他	23	13.5
	無回答	16	9.4
	合 計	170	100.0
(問20)	( は3つまで)		
あなたは、子育てと仕事を両立させるためには、職場において、どのような取り組みを進めることが必要だと思いますか。			
	育児休業中の賃金その他の経済的給付の充実	536	52.0
	育児休業期間を法定期間(1歳になるまで)以上に取得できるようにする	183	17.8
	子どもが病気やけがの時のための特別休暇制度の導入	482	46.8
	育児中の者について、勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更を柔軟に行う	403	39.1
	事業所内の保育施設の充実	158	15.3
	出産・育児のために退職した社員の元の会社への再雇用の促進	211	20.5
	育児休業等の育児支援制度が気兼ねなく利用できる人的体制の整備や雰囲気づくりを進める	421	40.9
	育児支援制度を利用した者が、給与やポスト(地位)等待遇で不利な扱いを受けないようにする	214	20.8
	その他	27	2.6
	特にない	15	1.5
	よくわからない	22	2.1
	無回答	17	1.7
	合 計		1030



		件数	%
(問21 - 1)	( は1つだけ)		
あなたは、機会があれば地域の子育て支援活動にボランティアとして参加したいと思いますか。			
	ぜひ参加したい	76	7.4
	どちらかというに参加したい	297	28.8
	どちらかというに参加したくない	471	45.7
	参加したくない	141	13.7
	無回答	45	4.4
	合 計	1030	100.0
(問21 - 2) [(問21 - 1)で「1」「2」とお答えの方のみ]	( は2つまで)		
あなたは、どのような子育て支援活動にボランティアとして参加してみたいと思いますか。			
	預かり保育・訪問保育の保育者	118	31.6
	地域の児童の健全育成活動(放課後児童クラブ、児童館等)	148	39.7
	子育て中の親とその子が気軽に集いふれあいや情報交換を行う場(子育てサロン・つどいの広場等)のコーディネーター等の支援者	118	31.6
	子育てサークル(地域における子育ての自助・互助活動グループ)の運営	48	12.9
	子育て教室、母親学級の講師等	17	4.6
	イベント会場等での臨時託児の保育者	84	22.5
	その他	14	3.8
	無回答	7	1.9
	合 計		373
(問22 - 1)	( は5つまで)		
あなたは、子どもを安心して生み、健やかに育てることのできる環境を整備するため、国・県・市町村に、どのような政策を期待しますか。次のうちから選んでください。			
	子育てに伴う経済的負担を軽くする	750	72.8
	妊産婦や乳幼児に対する健康診査、保健指導等、保健医療を充実する	140	13.6
	保育サービスや放課後児童対策(学童保育対策)を充実する	318	30.9
	子育てに関する相談・指導を充実する	158	15.3
	子育てに関する情報提供を充実する	96	9.3
	地域で子育てを支える人材の育成・確保	183	17.8
	勤務時間(残業を含む)の短縮や育児休業の取得促進等、職場環境改善を企業に働きかける	531	51.6
	男性も女性も共に家事・育児に参加するという男女共同参画意識を広める	325	31.6
	子育ての大切さや楽しさ等の意識を広める	172	16.7
	子育てサロンやつどいの広場等、親子が気軽に安心して集まれる身近な場所を整備する	135	13.1
	いじめ、非行等の問題行動や、学級崩壊等のない学校教育環境を整備する	309	30.0
	子どもが犯罪等の被害に合わないような安全安心な環境の整備	290	28.2
	地域における子どもの健全育成活動の積極的な支援	102	9.9
	児童公園、児童館等、子どもの遊び場を確保する	233	22.6
	子どもの成長に欠くことのできない自然環境を保全・整備する	196	19.0
	子育てに配慮した生活環境、住環境を整備する	150	14.6
	その他	20	1.9
	特にない	7	0.7
	無回答	36	3.5
	合 計		1030

		件数	%
[問22 - 2] [(問22 - 1)で「1」とお答えの方のみ]	( は1つだけ)		
特にどの費用の負担を軽くすべきか、以下から選んでください。			
妊娠・出産にかかる費用		36	4.8
乳幼児の医療費		29	3.9
保育料(保育所、幼稚園)		148	19.7
教育費(小・中・高・大学)		376	50.1
その他子育て費用全般(児童手当の増額、扶養控除の拡大等)		148	19.7
無回答		13	1.7
合 計		750	100.0

# 調 査 票

# 島根県少子化に関する意識調査

- アンケート調査へのご協力 -

早春の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、島根県と財団法人ふるさと島根定住財団では、依然として少子化が進んでいることから、今後の少子化対策の推進及び昨年成立した「次世代育成支援対策推進法」に基づく本県の「行動計画」策定の基礎調査とするため、この調査を行うことといたしました。

調査の対象となる方は、島根県内にお住まいの18歳から50歳までの方々から無作為で3,000人を選ばせていただきました。

ご記入いただいた内容は、すべて統計的に処理され、あなたのお名前も、内容も、絶対に他に漏れることはありませんので、ありのままをご記入願います。

ご多用のこととは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひとも調査にご協力くださいますようお願いいたします。

平成16年3月

島 根 県

財団法人 ふるさと島根定住財団

- 1 この調査は個人を対象にしていますので、宛名の方ご自身の記入をお願いいたします。ただし、あて名の方が長期不在、病気等で記入ができない場合は、代わりに同居の家族の方に記入をお願いします。
- 2 特にことわり書きのない限り、平成16年3月1日現在の状況をお答えください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に をつけていただくものと、言葉や数字で必要なことから書き込んでいただくものがあります。  
「その他」に当てはまる場合は、ご面倒でも を付けた上で、その具体的な内容を( )内にご記入ください。
- 4 回答の数は、各設問ごとに( は1つだけ)、( は2つまで)等と指定していますので、それに従って を付けてください。
- 5 すべてのご記入が終わりましたら、お手数ですが、3月22日(月)まで(必着)に、同封の返信用封筒に入れてお近くの郵便ポストに投函してください。  
なお、返信用封筒には切手は不要です。
- 6 記入上の不明な点や調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

## 【問い合わせ先】

島根県健康福祉部

青少年家庭課少子化対策推進室

〒690-8501 松江市殿町1番地

TEL 0852-22-5302

FAX 0852-22-6045

はじめに、あなたが現在居住している市町村名をご記入ください。

市町村名	市・町・村
------	-------

以下の質問について、あなたの現在の状況をお答えください。

〔問 1 - 1〕<性別> ( は1つだけ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

〔問 1 - 2〕<婚姻の状況> ( は1つだけ)

1. 未婚
2. 結婚している ( 結婚期間 年 )
3. 結婚したが、離別または死別した ( 結婚期間 年 )

〔問 1 - 3〕<年齢> ( は1つだけ)

1. 20 歳未満	2. 20 ~ 24 歳	3. 25 ~ 29 歳	4. 30 ~ 34 歳
5. 35 ~ 39 歳	6. 40 ~ 44 歳	7. 45 ~ 49 歳	8. 50 歳以上

〔問 1 - 4〕<配偶者の年齢>

【配偶者のある方のみ】 ( は1つだけ)

1. 20 歳未満	2. 20 ~ 24 歳	3. 25 ~ 29 歳	4. 30 ~ 34 歳
5. 35 ~ 39 歳	6. 40 ~ 44 歳	7. 45 ~ 49 歳	8. 50 歳以上

〔問 1 - 5〕<就労状況> ( は1つだけ)

1. 勤め人 ( 常勤 )
2. 自営業 ( 農林漁業を含む )、自由業、家族従業者
3. パート、アルバイト
4. 内職
5. 無職 ( 主婦・主夫 ( 家事専業 )、家事手伝い等 )
6. 学生
7. その他 ( )

〔問 1 - 6〕<配偶者の就労状況>

【配偶者のある方のみ】 ( は1つだけ)

1. 勤め人 ( 常勤 )
2. 自営業 ( 農林漁業を含む )、自由業、家族従業者
3. パート、アルバイト
4. 内職
5. 無職 ( 主婦・主夫 ( 家事専業 )、家事手伝い等 )
6. 学生
7. その他 ( )

〔問1 - 7〕<年間収入>

あなたの世帯の昨年1年間の税込みの収入(ボーナス等も含む全ての収入)の額について、差し支えなければ、お答えください。(は1つだけ)

- |                       |
|-----------------------|
| 1. 無収入                |
| 2. 100万円未満            |
| 3. 100万円以上300万円未満     |
| 4. 300万円以上500万円未満     |
| 6. 500万円以上700万円未満     |
| 7. 700万円以上1,000万円未満   |
| 8. 1,000万円以上1,500万円未満 |
| 9. 1,500万円以上2,000万円未満 |
| 10. 2,000万円以上         |

〔問1 - 8〕<世帯の人数(あなた本人を含む)> → 

--

 人

〔問1 - 9〕<世帯の構成員> (はいくつでも)

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 1. 配偶者(夫または妻。内縁関係を含む) | 2. 子ども        |
| 3. 父母(配偶者の父母を含む)      | 4. 孫          |
| 5. 祖父母(配偶者の祖父母を含む)    | 6. 自分の子どもの配偶者 |
| 7. 兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)  | 8. その他の同居者( ) |
| 9. 同居者はいない            |               |

〔問1 - 10〕<子どもの数>

お子さんは何人いらっしゃいますか。別居しているお子さんも含めてお答えください。(は1つだけ)

- |            |       |       |       |         |
|------------|-------|-------|-------|---------|
| 1. 1人      | 2. 2人 | 3. 3人 | 4. 4人 | 5. 5人以上 |
| 6. 子どもはいない |       |       |       |         |

〔問1 - 11〕【〔問1 - 10〕で「1」から「5」までをお答えの方のみ】

あなたのお子さん(妊娠中のお子さんは除きます)の現在の年齢を下の欄へ、年齢の高い順に左側からお書きください。

歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
---	---	---	---	---	---	---

〔問1 - 12〕【〔問1 - 10〕で「1」から「5」までをお答えの方のみ】

第1子出生時の年齢をお答えください。

父親の年齢	母親の年齢
歳	歳

〔問1 - 13〕<住居の状況> (は1つだけ)

- |                           |
|---------------------------|
| 1. 持ち家の一戸建て               |
| 2. 持ち家の集合住宅(分譲マンション等)     |
| 3. 民間の賃貸住宅(借家、マンション、アパート) |
| 4. 公営の賃貸住宅(借家、アパート)       |
| 5. 社宅・寮等                  |
| 6. その他( )                 |

## あなたの子育てに関する考え方について、おたずねします。

〔問2〕

あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。また、実際に予定しているお  
 子さんは、現在いるお子さんを含めて何人ですか。 ( はそれぞれ1つだけ)

理想的な子ども の数	1. 0人	2. 1人	3. 2人	4. 3人
	5. 4人	6. 5人以上	7. わからない	
実際に予定して いる子どもの数	1. 0人	2. 1人	3. 2人	4. 3人
	5. 4人	6. 5人以上	7. わからない	

〔問3〕【「実際に予定している子どもの数」が「理想的な子どもの数」より少ない  
 方のみ】

あなたが実際に予定している子どもの数が理想的な子どもの数よりも少ないのは  
 なぜですか。 ( は3つだけ)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを育てるのにお金がかかる</li> <li>2. 育児の心理的負担が大きい</li> <li>3. 育児の肉体的負担が大きい</li> <li>4. 高年齢や体質等から出産が難しい</li> <li>5. 高年齢で出産するのはいや</li> <li>6. 子どもが生めない</li> <li>7. 子どもの教育・進路に不安がある</li> <li>8. 子どもを取り巻く社会情勢に不安がある</li> <li>9. 配偶者や家族が子育てに協力してくれない</li> <li>10. 配偶者が子どもはもう十分と言っている</li> <li>11. 自分(配偶者)の仕事に差し支える</li> <li>12. 子どもを育てるためのゆとりある住宅がない</li> <li>13. 自分たちの趣味やレジャーのための自由な時間を持ちたい</li> <li>14. 一番末の子が自分(配偶者)の定年退職までに成人して欲しい</li> <li>15. 世間なみの子どもの数に合わせたいから</li> <li>16. その他 ( )</li> <li>17. 特に理由はない</li> </ol>
---

〔問4〕

あなたにとって、子どもを生き育てるということは、どのような意味があると思っ  
 ていますか。 ( は3つまで)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを育てるのが楽しい・子どもが好き</li> <li>2. 自分の生命を伝える</li> <li>3. 自分の夢や志を託す</li> <li>4. 子どもを育てることで自分も成長できる</li> <li>5. 子どもを通じて友人ができる等世界が広がる</li> <li>6. 夫婦、家族のきずなが強くなる</li> <li>7. 次の社会を担う世代をつくる</li> <li>8. 子どもを持ってはじめて社会的に一人前になる</li> <li>9. 家を継いでもらう・家業や事業をついでもらう</li> <li>10. 老後の面倒をみてもらう</li> <li>11. 子どもを持つのは人間として自然である</li> <li>12. その他 ( )</li> <li>13. 特に意味について考えたことはない</li> </ol>
---

〔問5〕

あなたは、子育てを楽しいものだと思いますか。 ( は1つだけ)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. とても楽しいと思う    | 2. まあまあ楽しいと思う  |
| 3. どちらとも言えない    | 4. あまり楽しくないと思う |
| 5. まったく楽しくないと思う |                |

〔問6 - 1〕

あなたは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。( は1つだけ)

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 主に父親が携わるのがよい             |
| 2. 主に母親が携わるのがよい             |
| 3. 父母が同じくらい協力して携わるのがよい      |
| 4. 父親、母親のどちらでもよい            |
| 5. その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい |
| 6. その他 ( )                  |
| 7. わからない                    |

〔問6 - 2〕

あなたは、子どもが3歳くらいまでは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。 ( は1つだけ)

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 主に父親が携わるのがよい             |
| 2. 主に母親が携わるのがよい             |
| 3. 父母が同じくらい協力して携わるのがよい      |
| 4. 父親、母親のどちらでもよい            |
| 5. その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい |
| 6. その他 ( )                  |
| 7. わからない                    |

〔問7〕

あなたは、子どもが3歳くらいまでの昼間の子育ての場所は、どこが適当だと思いますか。 ( は1つだけ)

- |                        |
|------------------------|
| 1. 主に家庭(自宅)がよい         |
| 2. 主に保育所がよい            |
| 3. 主に別居の祖父母や親戚宅や知人宅がよい |
| 4. その家庭の状況に応じてどこでもよい   |
| 5. その他 ( )             |
| 6. わからない               |



〔問 8〕

女性の就業のあり方として、あなたが最も望ましいと思うのは次のうちどれですか。  
( は1つだけ)

- 1 . 結婚や出産と関係なく仕事を続ける
- 2 . 結婚までは仕事を持ち、出産を機に退職し、家事（育児）に専念する
- 3 . 結婚までは仕事を持ち、出産を機に退職し、子どもが大きくなったら再就職する
- 4 . 子どもができるまでは仕事を持ち、出産を機に退職し、家事・育児に専念する
- 5 . 子どもができるまでは仕事を持ち、出産を機に退職し、子どもが大きくなったら再就職する
- 6 . 仕事を持たないほうがよい
- 7 . その他 ( )

島根県の出生率は全国と同様に低下し、子どもの数が減少しています。このことについて、おたずねします。

〔問 9 - 1〕

子どもの数が減少していることについて、あなたは、どう思いますか。  
( は1つだけ)

- 1 . 深刻な問題である
- 2 . やや問題である
- 3 . 良い面・悪い面の両方があり一概には言えない
- 4 . 何も問題はない 〔問 10〕へ
- 5 . むしろ好ましいことである 〔問 10〕へ
- 6 . その他 ( ) 〔問 10〕へ
- 7 . よくわからない 〔問 10〕へ

〔問 9 - 2〕【〔問 9 - 1〕で「1」「2」「3」とお答えの方のみ】

あなたは、少子化に対して、国・県・市町村はどのように取り組むべきだと考えますか。

( は1つだけ)

- 1 . 出生率の回復に向けて、積極的に取り組むべきである
- 2 . 個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである
- 3 . 結婚や出産は個人の問題であり、どのような形であれ、取り組むべきではない
- 4 . 有効な対策はなく、何をやっても無駄である
- 5 . その他 ( )
- 6 . よくわからない

〔問10〕

あなたは、子どもの数が減少することの影響についてどのように考えますか。  
( は3つまで)

1. 家庭や地域における子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって望ましくない
2. 若年層の減少により社会全体の活力が低下する
3. 将来の労働力が減少し、経済が停滞する
4. 将来、年金の保険料(掛金)等の社会保障の負担が増大する
5. 受験や住宅事情等においては、好ましい状況が生まれる
6. 社会全体にそれほどの影響があるとは思えない
7. 夫婦(個人)の自由だから仕方がない
8. 世界全体から考えると、日本で子どもが減少してもかまわない
9. その他( )
10. よくわからない

〔問11〕

あなたは、出生率が低下している原因は何だと思えますか。  
( は3つまで)

1. 子育てや教育にお金がかかりすぎる
2. 子育ては肉体的負担が大きい
3. 仕事と子育てを両立させる社会的仕組み(育児休業、保育所)が十分に整っていない
4. 家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある
5. 住宅事情が悪い
6. 子どもを取り巻く社会状況(少年非行、環境問題等)が悪い方向に向かっている
7. 核家族化等により、親族や隣近所から子育てへの支援が受けにくくなっている
8. 子育ての負担が母親に集中している
9. 子育てについて、楽しさよりも、大変さばかりが強調されている
10. 子どもを少なくして、じっくり育てたいという夫婦が増えている
11. 平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている
12. 子どもより趣味やレジャーを楽しみたいという夫婦が増えている
13. その他( )
14. よくわからない

島根県でも男女ともに未婚率が上昇しています。次に、結婚に関しておたずねします。

〔問12〕

あなたは、以前に比べて、晩婚化が進んだり、結婚しない人が増えている理由は、何だと思えますか。  
( は3つまで)

1. 結婚相手に要求する条件が厳しくなった
2. 本人も周囲も、結婚(又は結婚適齢期)にこだわらなくなった
3. 見合い等、親族による結婚の仲立ちが減った
4. 独身生活のほうが自由が多い
5. 成人しても親離れ(又は親の子離れ)しない傾向が強まってきた
6. 異性とつきあうことが苦手な若者が増えてきた
7. 異性と出会う機会が少なくなった
8. 仕事のためには、独身の方が都合がよい
9. 仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した
10. 女性が結婚後も働き続けることに対し、まわりの理解が得にくい
11. 女性の高学歴化が進んだ
12. 家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい
13. 子どもの数が少なくなり、跡継ぎの問題等が結婚相手の範囲を狭めている
14. その他( )
15. よくわからない

〔問13〕

あなたは、結婚しないで子どもを持つことについてどのように思いますか。

( は1つだけ)

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 1. 本人の自由である | 2. 子どもは結婚してから持つほうがよい |
| 3. わからない    | 4. その他( )            |

〔問14-1〕から〔問14-2〕は、未婚の方のみに対する質問です。  
既婚(現在婚姻中)で子どものいる方は、〔問15-1〕にお進みください。  
既婚で子どものいない方は、〔問20〕にお進みください。

〔問14-1〕【未婚の方(結婚後、離婚・離別されたを含む。)のみ】

あなたは、結婚に対してどのようにお考えですか。( は1つだけ)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. なるべく早く結婚したい                |
| 2. いずれは結婚したい                  |
| 3. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない |
| 4. 一生結婚するつもりはない               |
| 5. 結婚する予定がある (問15-1)へ         |
| 6. その他( )                     |

↓  
〔問14-2〕【〔問14-1〕で「1」「2」「3」「4」「6」とお答えの方のみ】

今、独身でいる理由は何ですか。( は3つだけ)

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1. 今は趣味や娯楽を楽しみたい | 2. 今は仕事(学業)にうちこみたい    |
| 3. 自由や気楽さを失いたくない | 4. 経済的に余裕がなくなる        |
| 5. 結婚資金が足りない     | 6. まだ若すぎる             |
| 7. 親や周囲が同意しない    | 8. 異性とうまくつきあえない       |
| 9. 住宅のめどが立たない    | 10. 必要性を感じない          |
| 11. 結婚に魅力を感じない   | 12. 適当な相手にまだめぐり会わないから |
| 13. その他( )       |                       |

あなたの子育て状況や出産・子育てと仕事の関わり方等について、おたずねします。

〔問15 - 1〕から〔問15 - 3〕までは、子どものいる方のみに対する質問です。  
子どものいない方は、〔問20〕にお進みください。

中学校卒業以上のお子さんがある方へ

以下の質問については、お子さんが中学校を卒業するまでの頃を思い出してお答えください。

〔問15 - 1〕【子どものいる方のみ】

あなたは、子育てをするうえで、負担や不安を感じますか。 ( は1つだけ)

- 1. 非常に感じる
- 2. どちらかといえば感じる
- 3. どちらかといえば感じない [問16]へ
- 4. ほとんど感じない [問16]へ

〔問15 - 2〕【子どものいる方のみ】

あなたは、どのような負担や不安を感じますか。 ( は3つまで)

- 1. 子育てにお金がかかる
- 2. 子育てによる体の疲れが大きい
- 3. 子育ては、何でも親の責任にされるので、負担を感じる
- 4. 子育てに自信が持てない
- 5. 子どもの育て方について、配偶者や家族と意見が合わない
- 6. 子育てが大変なことを、配偶者、家族等身近な人が理解したり、協力してくれない
- 7. 仕事と子育ての両立が難しい
- 8. 自分の自由な時間が持てない
- 9. 夫婦で楽しむ時間が持てない
- 10. 近所に子どもの遊び友だちがいない
- 11. その他 ( )

〔問15 - 3〕【子どものいる方のみ】

あなたは、子育てに関する悩みや不安を誰(どこ)に相談していますか。

( はいくつでも)

- 1. 配偶者
- 2. 親・家族・親戚
- 3. 友人・知人、隣近所の人
- 4. 保育所・幼稚園
- 5. 学校、教育センター等の教育機関
- 6. 子育てサークルの仲間
- 7. 地域子育て支援センター
- 8. 子育てサロン等(親子のつどいの場)
- 9. 病院・診療所・保健所
- 10. 児童相談所・福祉事務所
- 11. 民生・児童委員、主任児童委員
- 12. 電話相談
- 13. どこにも相談していない
- 14. その他 ( )

〔問16〕【子どものいる方のみ】

あなたは、幼い子どもを連れて外出するときに不安に感じたり、困ったりしていることは、どのようなことですか。 ( は3つまで)

1. コンサートや講演会等の際に公共施設に子どもを預けられる場所がない(少ない)
2. トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない
3. 公共施設、店舗等に授乳する場所や設備がない
4. 歩道や信号の整備不足、川や溝の防護柵未整備等、安全面に心配がある
5. 小さな子どもとの食事に配慮された場所が少ない
6. 交通機関や建物、歩道がベビーカーや自転車での移動に配慮されていない
7. 周囲の人が子ども連れを迷惑そうに見る
8. 荷物や子どもに手をとられて困っている時に手を貸してくれる人が少ない
9. 子どもを思い切り遊ばせることができる公園や遊園地等が少ない
10. 買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない
11. 暗い通りや見通しのきかない所が多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配
12. 不安に感じたり、困っていることはない
13. その他( )

〔問17-1〕【子どものいる方のみ。ただし、父親がいない場合は、〔問18-1〕にお進みください。】

あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか。男性の場合はご自分について、女性の場合は配偶者についてお答えください。( は1つだけ)

1. 積極的に参加している
2. 積極的ではないが、ある程度は参加している
3. 頼まれた時だけ手伝っている
4. ほとんど子育てにかかわっていない
5. その他( )

〔問17-2〕【子どものいる方のみ】

あなたの家庭における父親の子育て参加について、あなた自身はどのように評価していますか。( は1つだけ)

1. 今のままで十分
2. おおむね十分
3. やや不足
4. 全く不足
5. その他

〔問17-3〕【子どものいる方で〔問17-1〕について「3」「4」と回答した男性の方のみ】

あなたがあまり子育てにかかわっていないのはなぜですか。( は1つだけ)

1. 子育ては母親の仕事である
2. 妻が自分の子育て参加を望んでいない
3. 何をしたいのか分からない
4. 仕事が忙しい
5. 周囲の目が気になる・体裁が悪い
6. その他( )

〔問18-1〕【子どものいる方のみ】

あなたは、結婚や、ご自身又は配偶者の出産を機に仕事を辞めた（退職した）経験がありますか。 （は1つだけ）

1. 仕事を続けている	〔問20〕へ
2. 結婚を機に仕事を辞めた	
3. 第1子出産を機に仕事を辞めた	
4. 第2子以降の出産を機に仕事を辞めた	
5. 今まで仕事をしたことがない	〔問20〕へ
6. その他（	）
	〔問20〕へ

〔問18-2〕【子どものいる方で〔問18-1〕について「2」「3」「4」とお答えの方のみ】

なぜ仕事を辞めたのですか。 （は1つだけ）

1. 家事（子育て）に専念したかった	
2. 経済的に働く必要がなくなった	
3. 退職を迫るような職場の雰囲気があった	
4. 配偶者や家族が退職を望んだ	
5. 仕事と家事（子育て）の両立が困難だった	
6. その他（	）

〔問18-3〕【子どものいる方で〔問18-1〕について「2」「3」「4」とお答えの方のみ】

仕事を辞めたあと、また働き始めましたか。 （は1つだけ）

1. 機会を見て、また働きはじめた	
2. 働いていないが、機会があれば働きたい	
3. 働いていないし、これからも働くつもりもない	
4. その他（	）

〔問19-1〕【子どものいる方で妊娠中（配偶者の妊娠中を含む）に、勤め人やパート・アルバイトとして働いた経験をお持ちの方のみ】

あなたは、育児休業制度についてご存じですか。 （は1つだけ）

1. 知っている	〔問20〕へ	2. 知らない	〔問20〕へ
----------	--------	---------	--------

〔問19-2〕【子どものいる方のみ】

あなたは、男性が育児休業を取得できることをご存知ですか。 （は1つだけ）

2. 知っている	2. 知らない
----------	---------

〔問19-3〕【子どものいる方のみ】

あなたは、今までに育児休業を取得したことがありますか。 （は1つだけ）

1. ある	〔問20〕へ	2. ない	〔問19-4〕へ
3. 育児休業制度がなかった	〔問20〕へ		

〔問19-4〕【子どものいる方で〔問19-3〕について「2」とお答えの方のみ】  
育児休業を取得しなかった理由は、次のうちのどれですか。（ は1つだけ）

1. 育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった
2. 休むと職場の同僚に迷惑がかかると思った
3. 父母等協力をしてくれる人がいたので必要なかった
4. 出産を機に（又は産後休暇中に）仕事を辞めたので必要なかった
5. 育児休業を取得すると収入が減る
6. その他（ ）

ここからの質問は、すべての方におたずねします。

〔問20〕

あなたは、仕事と子育てを両立するためには、職場において、どのような取り組みを進めることが必要だと思いますか。（ は3つまで）

1. 育児休業中の賃金その他の経済的給付の充実
2. 育児休業期間を法定期間（1歳になるまで）以上に取得できるようにする
3. 子どもが病気やけがの時のための特別休暇制度の導入
4. 育児中の者について、勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更を柔軟に行う
5. 職場内の保育施設の充実
6. 出産・育児のために退職した社員の元の会社への再雇用の促進
7. 育児休業等の育児支援制度が気兼ねなく利用できる人的体制の整備や雰囲気づくりを進める
8. 育児支援制度を利用した者が、給与やポスト（地位）等の待遇で不利な扱いを受けないようにする
9. その他（ ）
10. 特にない
11. よくわからない

〔問21-1〕

あなたは、機会があれば地域の子育て支援活動にボランティアとして参加したいと思いますか。（ は1つだけ）

1. ぜひ参加したい
2. どちらかというに参加したい
3. どちらかというに参加したくない 〔問22-1〕へ
4. 参加したくない 〔問22-1〕へ

↓  
〔問21-2〕へ

〔問21-2〕【〔問21-1〕で「1」「2」とお答えの方のみ】

あなたは、どのような子育て支援活動にボランティアとして参加してみたいと思いますか。 (は2つまで)

1. 預かり保育・訪問保育の保育者
2. 地域の児童の健全育成活動(放課後児童クラブ、児童館等)
3. 子育て中の親とその子が気軽に集いふれあいや情報交換を行う場(子育てサロン・つどいの広場等)のコーディネーター等の支援者
4. 子育てサークル(地域における子育ての自助・互助活動グループ)の運営
5. 子育て教室、母親学級等の講師等
6. イベント会場等での臨時託児の保育者
7. その他( )

〔問22-1〕

あなたは、子どもを安心して生み、健やかに育てることのできる環境を整備するため、国・県・市町村に、どのような政策を期待しますか。次のうちから選んでください。 (は5つまで)

1. 子育てに伴う経済的負担を軽くする
2. 妊産婦や乳幼児に対する健康診査、保健指導等、保健医療体制を充実する
3. 保育サービスや放課後児童対策(放課後児童クラブ等)を充実する
4. 子育てに関する相談・指導を充実する
5. 子育てに関する情報提供を充実する
6. 地域で子育てを支える人材の育成・確保
7. 勤務時間(残業を含む)の短縮や育児休業の取得促進等、職場環境の改善を企業に働きかける
8. 男性も女性も共に家事・育児に参加するという男女共同参画意識を広める
9. 子育ての大切さや楽しさ等の意識を広める
10. 子育てサロンやつどいの広場等、親子が気軽に安心して集まれる身近な場を整備する
11. いじめ・非行等の問題行動や、学級崩壊等のない学校教育環境を整備する
12. 子どもが犯罪等の被害にあわないような安全安心な環境の整備
13. 地域における子どもの健全育成活動の積極的な支援
14. 児童公園、児童館の整備等、子どもの遊び場を確保する
15. 子どもの成長に欠くことのできない自然環境を保全・整備する
16. 子育てに配慮した生活環境、住環境を整備する
17. その他( )
18. 特になし

〔問22-2〕【〔問22-1〕で「1」とお答えの方のみ】

特にどの費用の負担を軽くするべきか、以下から選んでください。

(は1つだけ)

1. 妊娠・出産にかかる費用
2. 乳幼児の医療費
3. 保育料(保育所、幼稚園)
4. 教育費(小・中・高・大学)
5. その他子育て費用全般(児童手当の増額、扶養控除の拡大等)





## 島根県少子化に関する意識調査

発行 平成16年3月

島根県健康福祉部青少年家庭課

〒690-8501 松江市殿町1番地

電話 0852-22-5302

財団法人ふるさと島根定住財団

〒690-0003

松江駅前第一生命ビル3階

電話 0852-28-0690